

日本史文化史(講師用)

〔文化史〕	仏教史	2
	神道史	6
	文化史概説	8
	古代の文化	14
	中世の文化	22
	近世の文化	26
	近現代の文化	34
〔付 録〕	文化史〔穴埋め編〕	44
	史 料	86
	史 料〔穴埋め編〕	100

この講座は、文化史の全てを網羅することを目的としている。しかし、文化史は膨大な分量があり、夏期だけで全てをマスターするのは不可能だろう。なおかつ、通史と異なって、歴史的な因果関係だけでは覚えられないものも数多い。そして、多くの受験生がする過ちは、夏期に文化史を徹底的に学習したものの、2 学期にはそれを忘れてしまい、冬期に再び学習をし直すことである。それは、効率の悪い学習になってしまうのではないだろうか？

そのため、私の授業では、仏教史・神道史・儒学史など、通史と密接に関連してくるもの、また全文化の大まかな全体像を掴むことを主眼に置いている。そして、2 学期以降に詳細な学習が出来るように、別冊として[文化史講義録]を配布する。授業と[文化史講義録]を有効活用して、志望校合格につなげてほしい。

編者

馬で行くことも、車で行くことも、
二人で行くことも、三人で行くこともできる。
だが、最後の一步は自分ひとりで歩かなければならない。
(ゲーテ)

[講義用ページの色分け(頻度の違い)]

記述問題・選択問題で問われる語句	正誤問題・論述問題で問われる内容
赤色の蛍光ペン＝出題頻度が多い最重要語句	赤色のアンダーライン＝出題頻度が多い最重要内容
青色の蛍光ペン＝出題頻度が多い重要語句	青色のアンダーライン＝出題頻度が多い重要内容
緑色の蛍光ペン＝出題頻度が少ない語句	緑色のアンダーライン＝出題頻度が少ない内容
黄色の蛍光ペン＝出題頻度が非常に少ない語句	黄色のアンダーライン＝出題頻度が非常に少ない内容

[穴埋め用ページの下線部(対応頻度)]

記述問題・選択問題で問われる語句	正誤問題・論述問題で問われる内容
_____＝赤色の蛍光ペンにあたる	<u>語句</u> ＝赤色のアンダーラインにあたる
~~~~~＝青色の蛍光ペンにあたる	<u>語句</u> ＝青色のアンダーラインにあたる
_____＝緑色の蛍光ペンにあたる	<u>語句</u> ＝緑色のアンダーラインにあたる
.....＝黄色の蛍光ペンにあたる	<u>語句</u> ＝黄色のアンダーラインにあたる

古墳文化	仏教伝来	① 仏教伝来 (西域・中国・朝鮮半島を経由して北方仏教(大乘仏教)が伝来) cf. 東南アジアは南方仏教(小乗仏教)   (1) 仏教私伝 <b>司馬達等</b>が私宅で仏像礼拝(522) = 『<b>扶桑略記</b>』(平安末期に延暦寺の僧皇円が著す)   (2) 仏教公伝 <b>百済の聖明王</b>が<b>欽明天皇</b>に仏像と経典を献上 <b>司馬達等の孫は鞍作鳥(止利仏師)</b>   戊午説有力 ← <b>538年(戊午)説</b> = 『<b>上宮聖德法王帝説</b>』『<b>元興寺縁起</b>』 <b>606年 飛鳥寺釈迦如来像</b>   <b>552年(壬申)説</b> = 『<b>日本書紀</b>』 <b>623年 法隆寺金堂釈迦三尊像</b>   ② 崇仏論争 <b>蘇我稲目</b> [大臣] VS <b>物部尾輿</b> [大連]   <b>蘇我馬子</b> [大臣] VS <b>物部守屋</b> [大連] → <b>蘇我馬子が物部守屋を滅ぼす(587)</b>   (崇仏派) (排仏派)
飛鳥文化	氏族仏教	③ 仏法興隆の詔(594) (仏・法・僧の三宝を興せとの詔)   ④ 厩戸王(聖德太子)『<b>三経義疏</b>』(法華経・維摩経・勝鬘経の經典注釈書) ← <b>惠慈</b>(高句麗の僧→595年に来日し厩戸王に仏教を教授)   ⑤ 氏寺 (古墳に代わる豪族の権威の象徴として豪族が建立・管理した寺) の建立   <b>蘇我馬子</b> = <b>飛鳥寺(法興寺)</b> (588年に建立された日本最古の寺院)   <b>聖德太子</b> = <b>四天王寺</b> (593年に難波(現在の大阪市四天王寺区)に建立)   (厩戸王) <b>法隆寺(斑鳩寺)</b> (607年に父の用明天皇のために建立された現存する世界最古の木造建造物→670年に炎上 in 『日本書紀』)   <b>秦 河勝</b> = <b>広隆寺</b> (太秦寺) ★法隆寺再建非再建論争→<b>若草伽藍跡(四天王寺式)</b>の発掘調査(1939)で再建説が有力となる   〔渡来僧(推古朝時に来日)〕   <b>觀勒</b> (百済の僧→602年に来日し暦・天文学を伝える)   <b>曇徴</b> (高句麗の僧→610年に来日し紙・墨・絵具を伝える)
白鳳文化	国家仏教	⑥ 官大寺(官寺) (国家が建立・管理した寺) の建立 (<b>藤原京四大寺</b>)   <b>大官大寺</b> (639年に<b>舒明天皇</b>が創建した<b>百濟大寺</b>を673年に移築)   <b>薬師寺</b> (680年に<b>天武天皇</b>が皇后の病氣平癒のため創建)   <b>飛鳥寺(法興寺)</b>・<b>川原寺(弘福寺)</b>   〔伽藍配置〕   ① 塔は中心から外へ   ② のち金堂が中心に
国家仏教の発展(鎮護国家仏教)	天	⑦ 官大寺の発展 (南都七大寺)   <b>興福寺</b> (藤原氏の氏寺) → <b>法相宗</b> (興福寺が中心寺院) 玄昉・道鏡   ★藤原鎌足が創建した山階寺が前身   父 <b>東大寺</b> (聖武天皇が728年に建立) → <b>華嚴宗</b> (東大寺が中心寺院)   娘 <b>西大寺</b> (称徳天皇が765年に建立)   <b>大安寺</b> (移転に伴い官大寺が改称)   <b>元興寺</b> (移転に伴い法興寺が改称)   <b>薬師寺</b> (藤原京寺院は本薬師寺とよぶ)   (法隆寺)   ⑧ 護国の經典 (鎮護国家を祈るために用いられた三つの經典)   護国三部經 = <b>金光明最勝王經</b>・<b>仁王經</b>・<b>法華經</b>(妙法蓮華經)   ⑨ 僧尼令 (国家による僧尼統制のため、許可なく得度する<b>私度僧</b>を禁止・民間布教を禁止)   〔南都六宗〕   (仏教の經典を学術的に研究する6学派)   <b>法相宗</b> (興福寺が中心寺院) 玄昉・道鏡   <b>道照</b> (最初の方葬者) が唐から伝える   <b>華嚴宗</b> (東大寺が中心寺院)   <b>律宗</b> (唐招提寺が中心寺院)   <b>俱舍宗</b>・<b>三論宗</b>・<b>成実宗</b>   〔南都七大寺〕
聖武天皇	孝謙天皇	733年 <b>榮叡・善照</b>が渡唐(私度僧の増加に対して伝戒師制度の普及を目指す)   僧侶に正式な<b>戒律</b>を授けるための伝戒師を招請するため<b>鑑真</b>に拜謁して来日を要請 → 受ける僧侶の守るべきルール = <b>戒律</b>   741年 <b>国分寺建立の詔</b> (赤仁京で発布→全国に<b>国分寺</b>・<b>国分尼寺</b>の建立を命ずる)   <b>金光明四天王護国寺</b> (国分寺の正式名称) に<b>金光明最勝王經</b>を安置   → 僧20名を配置し、<b>東大寺</b>(華嚴宗の中心寺院)を総国分寺とする   <b>法華藏罪之寺</b> (国分尼寺の正式名称) に<b>法華經</b>(妙法蓮華經)を安置   → 尼10名を配置し、<b>法華寺</b>(もと藤原不比等の邸宅)を総国分尼寺とする   743年 <b>大仏造立の詔</b> (紫雲宮で発布→<b>国中公麻呂</b>[大仏師]らの技術で完成) → ① <b>行基</b> (灌漑施設など社会事業に尽力)   <b>唐舎那仏</b> (大仏の正式名称) は<b>華嚴經</b>(東大寺を中心とする華嚴宗の根本經典)の本尊   752年 <b>東大寺大仏開眼供養</b> (菩提僊那(開眼導師)・<b>仏哲</b>(雅楽師)が<b>林邑楽</b>を伝える)   ★<b>良弁</b>(大仏開眼供養のち、初代東大寺別当に就任した華嚴宗の僧侶)   753年 <b>鑑真</b>(律宗の僧)が<b>戒律</b>を伝える ★<b>淡海三船</b>『唐大和上東征伝』(渡航記録)   (1) <b>東大寺</b>に最初の戒壇を設立(754) ★聖武上皇・孝謙天皇が受戒   → 天下三戒壇(<b>東大寺</b>・<b>下野薬師寺</b>・<b>筑紫観世音寺</b>)   道鏡左遷 玄昉左遷   (2) <b>唐招提寺</b>を創建(759) ★<b>唐招提寺鑑真和上像</b>(乾漆像)   正式な僧侶になるために戒壇(院)で   背景① = 飢饉・疫病の流行による社会不安   背景② = 藤原広嗣の乱(740)による政治不安   背景③ = 国家仏教(官寺の建立・護国の經典)   → <b>鎮護国家思想</b>(仏教により国家を護る思想)   〔社会事業〕   ① <b>行基</b> (灌漑施設など社会事業に尽力)   僧尼令違反で政府に弾圧されるが、大仏造営に協力し<b>大僧正</b>に任じられる   ② <b>光明子(皇后)</b>(聖武天皇の皇后)   <b>悲田院</b>(貧窮者に食料を施す施設)   <b>施薬院</b>(貧窮者に薬を施す施設)   ③ <b>和気広虫(法均尼)</b> 清麻呂の姉   <b>惠美押勝</b>の乱後の孤児養育につとめる

①平安新仏教(桓武・嵯峨天皇は南都六宗など仏教勢力の政治介入を嫌い、平安京への寺院移転も認めず)

→天台宗(桓武天皇が支持)・真言宗(嵯峨天皇が支持)の形成

宗派	開祖	教義	中心寺院	著書
天台宗	最澄(伝教大師) ↳ 近江出身 ★804年渡唐 →805年帰国	法華経(根本經典) ↓ 顕教(經典・修行による悟りを説く) →大乘戒壇設立を主張 天下三戒壇だけでなく延暦寺でも戒壇受けられるようにしろ →最澄の死後認められた	比叡山延暦寺(近江国) 叡	『山家学生式』 比叡山で学生を養成するための法式をまとめる →『頭戒論』 延暦寺の大乘戒壇設立に反対する南都諸宗への反論書
真言宗	空海(弘法大師) ↳ 讃岐出身 ★804年渡唐 →806年帰国	大日経・金剛頂経(根本經典) ↓ 大日如来を中心仏とする 密教(加持祈禱による現世利益を説く) 東密(真言宗の密教)	高野山金剛峰寺(紀伊国) 教王護国寺(東寺) ★嵯峨天皇から賜る	『三教指帰』 仏教・儒教・道教のうち仏教が優れていることを説く →仏門に入る決意を示す 『十住心論』 悟りを開くまでの過程を十の段階に分類した教理書

禱

- [慈善事業]
- ① 綜芸種智院(庶民教育のための施設)
  - ② 満濃池(讃岐国)の修築

(最澄の弟子)

②円仁・円珍による天台宗の密教化=台密(天台宗の密教)

→のち、円仁と円珍の仏教解釈の違いからその末流が対立

→円仁(慈覚大師)→山門派=延暦寺

↳『入唐求法巡礼行記』(遣唐使時の巡礼日記)

→円珍(智証大師)→寺門派=園城寺(三井寺)

↳『行歷記』(遣唐使時の巡礼日記)

## 図解NOTE [平安仏教]

①顕教(經典を研究することで悟りを開く)

南都六宗(華嚴経などを研究)=many many

↓天台宗(法華経を研究)=法華経 only

②密教(加持祈禱による現世利益を説く)

→曼荼羅を用いた灌頂の儀式を受けたり、山岳修行を行って超自然的な力を体得した僧侶が、加持祈禱で病氣平癒・立身出世・除災を行う  
→貴族・皇族の支持を得る(保護を受ける)  
※朝廷では法会など鎮護国家仏教の役割

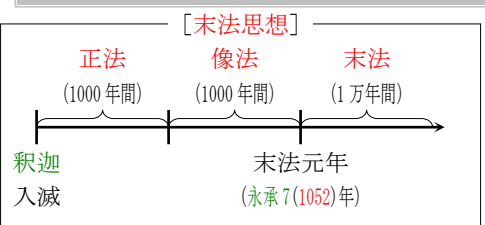
③神仏習合(神祇思想=仏教)の浸透(奈良時代~)(のち神道)

④1052年を末法元年とする末法思想の広まり

↓人々は現世に失望し、来世での幸福を願う

⑤浄土教(浄土への往生を願う来世利益を説く)

→念仏を唱え阿彌陀如来の住む浄土に往生する  
→上流貴族・中流貴族の支持を得る  
ex. 法成寺無量寿院(藤原道長が建立した阿彌陀堂)  
平等院鳳凰堂(藤原頼通が建立した阿彌陀堂)

⑥聖による布教で地方伝播→地方豪族に普及  
ex. 中尊寺金色堂(藤原清衡が平泉に建立した阿彌陀堂)

密教の隆盛

弘仁・貞観文化

嵯峨・清和天皇前後

密教の隆盛・浄土教の広まり

国風文化

藤原摂関政治期

浄土教の隆盛

院政期文化

院政期

①院による仏教保護(上皇の仏教信仰→出家し法皇となる)

(1)造寺造仏→六勝寺の建立

法勝寺(白河天皇)・尊勝寺(堀河天皇)・最勝寺(鳥羽天皇)

円勝寺(待賢門院)・成勝寺(崇徳天皇)・延勝寺(近衛天皇)

(2)寺社参詣→熊野詣・高野詣(紀伊国)

②南都北嶺の僧兵による強訴

南都=興福寺(奈良法師) 春日神社の神木をもちい強訴

北嶺=延暦寺(山法師) 日吉神社の神輿をもちい強訴

★天下三不如意(白河法皇の意のままにならなかった3つ)

加茂川の水・双六のさいの目・山法師(in『源平盛衰記』)

	宗派	開祖	特徴	著書	中心寺院
浄土宗系	浄土宗	法然(美作出身) (源空) ★讃岐に配流 (当初の土佐から変更)	専修念仏(ひたすら念仏「南無阿弥陀仏」を唱える) ★承元の法難(1207)(朝廷による法然一門への宗教弾圧) 旧仏教側から迫害を受ける	『選択本願念仏集』 九条兼実に応じて著した浄土宗の根本經典 『一枚起請文』(念仏往生の要点を記す) 『法然上人絵伝』(土佐吉光が描いた絵巻物)	知恩院 (京都)
	浄土真宗(一向宗)	親鸞(京都出身) ★越後に配流	絶対他力(阿弥陀仏の救いを信じる心で往生できる) 悪人正機説(煩惱をもつ悪人こそ救済される) 自分を善人だと思っている人ではなく 悪人だと自覚している人こそ往生できる	『教行信証』(親鸞が著した根本經典) 『歎異抄』(悪人正機説などを記す) 親鸞自らの信仰体験を弟子の唯円が著す 『親鸞聖人像(鏡御影)』(専阿弥陀仏が描く)	本願寺 (京都)
	時宗	一遍(伊予出身) (智真) ★遊行上人・捨聖と呼ばれる	賦算(「南無阿弥陀仏」と書かれた算を配る) 遊行(布教や修行のため各地を巡り歩くこと) 踊念仏(念仏を称えながら踊る) ★時衆(一遍に従い全国を遊行した人々)	『一遍上人絵伝』 一遍死後に円伊が一遍の生涯を描いた絵巻物 ★武士の館・備前国(岡山県)福岡市の様子 一遍は死の直前に著書を焼き捨てた	清浄光寺 (神奈川)
法華宗系	日蓮宗(法華宗)	日蓮(安房出身) ★伊豆(1261)・佐渡(1271)配流	法華経至上主義→他宗を激しく攻撃 題目(「南無妙法蓮華経」)を唱える(唱題)	『立正安国論』(北条時頼に提出) 法華経こそ唯一の正法であると説き、天変地異が続くのは邪法を信じるためと述べる →元寇を予言したといわれる	久遠寺 (山梨県身延山)
禅宗系	臨済宗	荣西(備中出身) ★荣西が北条政子・源頼家の帰依を受けた後、臨済宗は鎌倉幕府の保護を受け隆盛	公案(師から弟子に与えられる問題)の解決 [幕府による臨済宗保護] 蘭溪道隆(南宋の僧→北条時頼の帰依を受け、建長寺を開く) 無学祖元(南宋の僧→北条時宗の帰依を受け、円覚寺を開く) 一山一寧(元の僧→北条貞時の帰依を受ける) 山・弘安の役後に来日	『興禅護国論』 旧仏教の禅宗非難に対して禅の要旨を述べる 『喫茶養生記』 源実朝に献上した茶の効用を説いた書 一山一寧を訪ねたのを機に、虎関師錬は日本最初の仏教史書『元亨釈書』を著す	寿福寺 (北条政子が鎌倉に建立) 建仁寺 (源頼家が京都に建立)
	曹洞宗	道元(京都出身) 曹	只管打坐(余念を排してひたすら坐禅する) ★道元は公武(朝廷・幕府)の権力者との結びつきを嫌う →幕府の要請に応じず、山奥に永平寺を建立	『正法眼蔵』 道元が著した曹洞宗の根本經典 『正法眼蔵随聞記』 道元の言行を弟子の懷奘が筆録したもの	永平寺 (福井) 越前国

※活躍期＝法然(1133～1212) → 荣西(1141～1215) → 親鸞(1173～1262) → 道元(1200～1253) → 日蓮(1222～1282) → 一遍(1239～1289)

腐りきった南都六宗を立て直そう

	宗派	尽力者	特徴	著書	中心寺院
旧仏教の革新運動	法相宗	貞慶(解脱)	法相宗の復興に努力(笠置山に隠棲)	『興福寺奏状』 朝廷に法然の念仏禁止を求める	笠置寺 (京都)
	華嚴宗	高弁(明恵)	華嚴宗の復興に努力(高山寺を再興)	『摧邪輪』(『選択本願念仏集』を批判) 『明恵上人樹上坐禅図』(成忍が描いた似絵)	高山寺 (京都)
	律宗	俊防 叡尊(思円) 忍性(良観) 弟子	戒律の復興に努力(泉涌寺を再興) 戒律の復興に努力(社会事業を行い西大寺を復興) 戒律の復興に努力(奈良に北山十八間戸を設立) →のち、鎌倉に極楽寺を開く	ハンセン病患者救済施設	

[NOTE]

平安時代(旧仏教)＝南都六宗・天台宗・真言宗→僧侶は厳しい修行、貴族は造寺・造仏で救われる→貴族や皇族しか受容できない

→荘園公領制の成立以降、旧仏教(顕密仏教)は世俗化(荘園を集積し、権力者としての性格を強める)

鎌倉時代(新仏教)＝平易な修行(易行)の中から、一つだけ選び(選択)、それに専心して行う(専修)→庶民も受容できる

浄土教(平安時代) → 浄土宗(法然) → 浄土真宗(親鸞) → 時宗(一遍)

→観想念仏(仏の姿を思い浮かべる) → 称名(口称)念仏(仏の名を称える) → 念仏+信心(阿弥陀如来を信じる) → 信じる信じないに関わらず

→専修念仏(ひたすら念仏を称える) → 絶対他力(仏を信じ仏にすがる) → 念仏を唱えれば往生できる

→「南無阿弥陀仏往生決定」と

書かれた札を配り回る(賦算)

この世に未練を残さずに往生する、

ため、全てのものを捨てる(捨聖)

→修行のため各地を巡り歩く(遊行)



南北朝文化	①足利尊氏が臨済宗を保護し、 <b>夢窓疎石</b> に帰依→鎌倉幕府と同じく室町幕府も臨済宗を保護 (1) <b>夢窓疎石</b> の建議で京都に <b>天龍寺</b> を建立 (後醍醐天皇の冥福を祈るため) (2) <b>夢窓疎石</b> の建議で <u>全国</u> に <b>安国寺</b> ・ <b>利生塔</b> を建立 (南北朝の動乱の戦没者供養のため)																					
臨濟宗	② <b>足利義満</b> が臨済宗を保護し、 <b>春屋妙葩</b> (夢窓疎石の弟子)に帰依 (1) <b>五山の制</b> (南宋の官寺の制)にならった臨済宗寺院の寺格 整備(寺の格付け) → <b>五山</b> (最高格の5寺)・ <b>十刹</b> (五山に次ぐ10寺)・ <b>諸山</b> ( <b>甲刹</b> ) (十刹下の寺院) ★五山の住持に任命された僧は幕府に札銭を納入 (金融活動を行っていた五山の僧にも課税) (2) <b>相国寺</b> (足利義満が建立)に <b>僧録司</b> (五山派寺院の管理機関)設置 → <b>春屋妙葩</b> を初代 <b>僧録</b> (官寺の住持任免など僧侶を管理する役職)に任命 (3) <b>五山文学</b> (京都・鎌倉両五山の僧侶を中心に発達した漢文学・漢詩文の総称) → <b>五山版</b> (五山の僧侶によって出版された書籍)の出版 五山の僧は日明貿易の通訳など政治・外交顧問として活躍 [代表的五山文学僧] <b>義堂周信</b> (夢窓疎石に師事した南禅寺の五山文学僧→漢詩文集『 <b>空華集</b> 』) <b>絶海中津</b> (夢窓疎石に師事した相国寺の五山文学僧) <table><tr><td></td><td>京都五山</td><td>鎌倉五山</td></tr><tr><td>別格</td><td><b>南禅寺</b></td><td></td></tr><tr><td>1位</td><td><b>天龍寺</b> (足利尊氏が建立)</td><td><b>建長寺</b> (北条時頼が建立)</td></tr><tr><td>2位</td><td><b>相国寺</b> (足利義満が建立)</td><td><b>円覚寺</b> (北条時宗が建立)</td></tr><tr><td>3位</td><td><b>建仁寺</b> (源頼家が建立)</td><td><b>寿福寺</b> (北条政子が建立)</td></tr><tr><td>4位</td><td><b>東福寺</b></td><td><b>浄智寺</b></td></tr><tr><td>5位</td><td><b>万寿寺</b></td><td><b>浄妙寺</b></td></tr></table> ※西関係		京都五山	鎌倉五山	別格	<b>南禅寺</b>		1位	<b>天龍寺</b> (足利尊氏が建立)	<b>建長寺</b> (北条時頼が建立)	2位	<b>相国寺</b> (足利義満が建立)	<b>円覚寺</b> (北条時宗が建立)	3位	<b>建仁寺</b> (源頼家が建立)	<b>寿福寺</b> (北条政子が建立)	4位	<b>東福寺</b>	<b>浄智寺</b>	5位	<b>万寿寺</b>	<b>浄妙寺</b>
	京都五山	鎌倉五山																				
別格	<b>南禅寺</b>																					
1位	<b>天龍寺</b> (足利尊氏が建立)	<b>建長寺</b> (北条時頼が建立)																				
2位	<b>相国寺</b> (足利義満が建立)	<b>円覚寺</b> (北条時宗が建立)																				
3位	<b>建仁寺</b> (源頼家が建立)	<b>寿福寺</b> (北条政子が建立)																				
4位	<b>東福寺</b>	<b>浄智寺</b>																				
5位	<b>万寿寺</b>	<b>浄妙寺</b>																				
東山文化	③ <b>林下</b> (幕府の保護を受けた五山派に対し、幕府の保護を受けずに民間布教に努めた禅宗諸派) (1) 臨済宗＝ <b>大徳寺</b> (一休宗純が住持となる)・ <b>妙心寺</b> (関山慧玄が開創) (2) 曹洞宗＝ <b>永平寺</b> (鎌倉時代に道元が開創)・ <b>総持寺</b> (永平寺と並ぶ二大本山) 五山派＝幕府の保護を受けた寺院 → <b>応仁の乱後</b> に幕府の衰退と共に衰退 <b>林下</b> ＝幕府の保護を受けない寺院 → <b>地方武士・民衆への民間布教で発展</b>																					
浄土真宗(一向宗)	① <b>覚如</b> (本願寺3世法主→浄土真宗本願寺派を形成) ② <b>蓮如</b> (本願寺8世法主→当時ふるわなかった本願寺を再興＝本願寺中興の祖とされる) (1) <b>御文</b> (御文章)(かな交じりの平易な文書)による布教(近畿・北陸・東海地方の惣村に広まる) →各地の惣村に「 <b>講</b> 」(信仰によって結ばれた門徒の集団)を組織し、 <b>一向一揆</b> (浄土真宗(一向宗)門徒による一揆)を結成 ex. <b>加賀の一向一揆(1488)</b> (浄土真宗の門徒が守護の <b>畠山政親</b> を滅ぼし、「 <b>百姓の持ちたる国</b> 」として約100年間の自治) (2) 布教拠点(寺内町) <b>吉崎道場</b> (越前国) ↓ →北陸地方を中心に広がる <b>山科本願寺</b> (山城国) ↓ →法華一揆に焼き打ちされる <b>石山本願寺</b> (摂津国) ★その他＝ <b>富田林</b> (河内国の興正寺)・ <b>今井</b> (大和国の称念寺) ③ <b>顕如</b> (光佐)(本願寺11世法主) → <b>石山本願寺</b> を拠点に織田信長と戦う(石山戦争) 1574年 <b>伊勢長島</b> の一向一揆を織田信長が鎮圧 1575年 <b>越前</b> の一向一揆を織田信長が鎮圧 1580年 正親町天皇の仲裁により石山から退去 1585年 <b>根来・雑賀</b> の一向一揆を豊臣秀吉が鎮圧 ★江戸初期に教如の東本願寺・准如の西本願寺に分かれる 〔日蓮宗(法華宗)(京都の商工業者を中心に西日本に広まる)〕 ① <b>日像</b> (鎌倉後期、日蓮宗で初めて京都の <b>商工業者</b> (町衆)に布教) ② <b>日親</b> (『立正治国論』を著し足利義満に諫言するが拷問を受ける) →熱せられた鍋をかぶせられ、「 <b>鍋冠り上人</b> 」と呼ばれる) →1532年～ <b>法華一揆</b> (京都町衆の日蓮宗(法華宗)門徒が団結) 近江の <b>六角定頼</b> らの援軍を受けて山科本願寺を焼打ち <b>1536年 天文法華の乱</b> (延暦寺と法華一揆の対立が背景) 近江の <b>六角定頼</b> らの援軍を受けて比叡山延暦寺が 京都の日蓮宗二十一本山を焼打ちし、法華一揆は壊滅 →日蓮宗は大打撃を受けて、数年間京都を追われる 1579年 織田信長の命による <b>安土宗論</b> <b>浄土宗</b> と日蓮宗の安土で行われた宗論で日蓮宗が敗北 ★京都の町衆と結びつきが強い日蓮宗を弾圧するため <b>権力の意のままにならないため、信長が仕組んだもの</b>																					
桃山文化																						
江戸幕府の寺院統制	1601年～ <b>寺院法度</b> (諸宗諸本山法度) 真言宗・天台宗など各宗派の大寺院ごとに出力された 寺院・僧侶を統制するための法令の総称(1601～1616) → <b>本末制度</b> (宗派ごとの寺院の寺格制度を定める) ★ <b>本山</b> (中心寺院)・ <b>末寺</b> (一般寺院)の関係を制度化 1654年 <b>隠元隆琦</b> (明の僧)が <b>黄檗宗</b> を伝える <b>万福寺</b> (宇治の黄檗宗本山)・ <b>崇福寺</b> (長崎の黄檗宗寺院) 1665年 <b>諸宗寺院法度</b> (各宗派共通の寺院を統制するための法令) 宗派関係なしの一括で出される [禁教政策] ① <b>宗門改</b> (幕府の宗門改設が行った禁教目的の信仰調査) → <b>宗門改帳</b> ( <b>宗旨</b> ・ <b>人別帳</b> )を作成(戸籍の役割となる) 家族ごとに名・年齢・宗旨(所属宗派)・檀那寺などを記載 ② <b>寺請制度</b> (一般民衆を寺院の檀家になることを強制させる制度) ★キリスト教・日蓮宗・不受施派を信仰させないことが目的 → <b>寺請証文</b> (宗旨手形)を檀那寺が発行 檀那寺が自分の檀家であることを証明するため発行する文書																					

縄文   古   境	① <b>アニミズム</b>(精霊崇拜) (自然物・自然現象を畏怖する)   ② <b>社</b>(氏の祖先神(氏神)・自然神をまつる)   <b>伊勢神宮</b>(三重県) (内宮に<b>天照大神</b>・外宮に<b>豊受大神</b>を祀る)   ★<b>神明造</b>(伊勢神宮の建築様式)   <b>出雲大社</b>(島根県) (<b>大国主神</b>を祀る) ★<b>大社造</b>(出雲大社の建築様式)   <b>住吉大社</b>(大阪府) (<b>海神</b>を祀る) ★<b>住吉造</b>(住吉大社の建築様式)   <b>大神神社</b>(奈良県) (<b>三輪山</b>を神体とする)   <b>宗像神社</b>(福岡県) (沖ノ島を神体とする→2017年に世界文化遺産登録)   ★沖ノ島=玄界灘に浮かぶ島で海の正倉院と呼ばれる	―― [習俗] ――   ① <b>禊</b>(けがれなどを水で清める)・<b>祓</b>(けがれなどを払い除ける)   ② <b>太占の法</b>(鹿の肩甲骨を焼いて、今後の吉凶を占う)   ③ <b>盟神探湯</b>(火傷の有無によって真偽を確かめる原始的裁判)   ④ <b>祈年祭</b>(春に行う豊作を祈願する祭り)   ⑤ <b>新嘗祭</b>(秋に行う収穫を感謝する祭り)   ★天皇即位の年に行われるものを特に<b>大嘗祭</b>という
平   安	③ 神道の形成(密教の伝来により、仏教に対する概念として神道が形成される)   <b>奈良時代から始まる</b> ex. <b>聖武天皇(神)の仏教崇拝</b>   ―― <b>[神仏習合(神仏混濁)(神道信仰と仏教信仰の融合)]</b> ――   (1) <b>神宮寺</b>(神社の境内に寺院を設置し、<b>神前読経</b>などを行う)   (2) <b>鎮守</b>(寺院の境内に鎮守の神をまつる)   (3) <b>僧形八幡神像</b>(僧の形をした八幡神の像)   ex. <b>薬師寺僧形八幡神像</b>(<b>弘仁</b>・<b>貞観文化期</b>の八幡神像)   <b>東大寺僧形八幡神像</b>(鎌倉期に<b>快慶</b>が制作した八幡神像)   ④ <b>本地垂迹説</b>(仏を本物の姿、神を仮の姿とする思想)   <b>天台宗系=山王(日吉)神道</b>   <b>真言宗系=両部神道</b>   大日如来 → 天照大神   (本地=本物) (垂迹=権化=仮の姿)	―― [民間信仰] ――   ① <b>修験道</b>(神道の山岳信仰と仏教の密教的信仰の影響を受けた宗教)   ★<b>役小角</b>(修験道の開祖)・山伏(修験道における修行者)   →中心道場=<b>金峰山</b>・<b>大峰山</b>(大和国吉野)・<b>熊野山</b>(紀伊国)   白山(加賀国・飛騨国)・出羽三山(出羽国)   ② <b>御霊会</b>(怨みを残して死んだ者の霊を鎮めるための祭礼)   ex. <b>祇園御霊会(祇園祭)</b>(<b>祇園社</b>(現在の八坂神社))   <b>北野御霊会</b>(菅原道真を祀る<b>北野神社(天満宮)</b>)   ↓   <b>平安京内の神泉苑で始めて行う→のち貞観の地震(869)</b>   ③ <b>陰陽道</b>の発展(古代中国の<b>陰陽五行説</b>に基づく)   <b>物忌</b>(一定期間、特定の建物の中で謹慎する)   <b>方違</b>(外出の時忌避すべき方向を避ける)   ↓   <b>中務省に属する陰陽寮で、陰陽博士を世襲する</b>   <b>安倍氏・賀茂氏が陰陽師を教育</b> ex. <b>安倍晴明</b>
鎌倉	⑤ <b>反本地垂迹説(神本仏迹説)</b>(神を本物の姿、仏を仮の姿とする思想)の発生→<b>神風</b>が吹いた<b>元寇</b>後の<b>神国思想</b>が背景   <b>伊勢神道(度会神道)</b>(日本の神国思想・伊勢神宮が神社の根源であることを強調)   →<b>度会家行</b>(伊勢神宮外宮の神官)が創始   『<b>類聚神祇本源</b>』(伊勢神道の根本経典)	
室町	⑥ <b>反本地垂迹説(神本仏迹説)の発展</b>   <b>唯一神道(吉田神道)</b>(神道に儒教・仏教を取り入れる)   →<b>吉田兼俱</b>(京都吉田神社の神職)が創始	<b>吉田兼俱=唯一神道(神道+儒教+仏教)</b>   <b>吉川惟足=吉川神道(神道+儒教)</b>   <b>山崎闇斎=垂加神道(神道+儒教[朱子学])</b>   <b>平田篤胤=復古神道(神道 only)</b>
江戸	⑦ <b>諸社禰宜神主法度</b>(1665)(神社・神職を統制するための法令)   <b>吉田家</b>(吉田神道)が神道の本所として統制(神祇伯(長官)の<b>白川家</b>は衰退)   ⑧ 学派神道の発展   (1) <b>吉川神道=吉川惟足</b>が提唱(吉田神道から仏教色を除く)   (2) <b>垂加神道=山崎闇斎</b>が提唱(吉川神道と朱子学を結合)   (3) <b>復古神道=平田篤胤</b>が提唱(儒教・仏教を排した古道を確立)   ★荷田春満→賀茂真淵→<b>本居宣長</b>が唱え、平田篤胤が大成   →<b>尊王攘夷運動に大きな影響を与える</b>   ⑨ 教派神道(幕末に起こった民間の神道系新興宗教)→<b>幕末の不安定な情勢</b>の   (1) <b>天理教</b>(大和国出身の<b>中山みき</b>が創始) 中で流行した神道団体   (2) <b>黒住教</b>(備前国出身の<b>黒住宗忠</b>が創始)   (3) <b>金光教</b>(備中国出身の<b>川手文治郎(赤沢文治)</b>が創始)   ★明治政府は神道団体13派を国家神道とは別に<b>教派神道</b>として公認   ⑩ <b>ええじゃないか</b>(1867年に<b>東海地方</b>から広がった民衆乱舞)	―― [民間信仰] ――   ① <b>富突(富籤)</b>(江戸初期から行われた賞金目当ての興行)   ② <b>開帳</b>(寺社の秘仏を境内や他所に出張して公開すること)   ③ <b>五節句</b>(江戸幕府が定めた公式行事・祝日)   <b>人日</b>(1/7)・<b>上巳</b>(3/3)・<b>端午</b>(5/5)・<b>七夕</b>(7/7)・<b>長陽</b>(9/9)   ④ <b>日待</b>(特定日の日の出を待つ)・<b>月待</b>(特定日の月の出を拝む)   ⑤ <b>講</b>(同じ信仰をもつ者によって結ばれた組織)   ex. <b>庚申講</b>(招福除災のため庚申の夜に集集し徹夜する)   <b>富士講</b>(富士山を信仰・参拝)・<b>伊勢講</b>(伊勢神宮を信仰・参拝)   ⑥ <b>巡礼</b>(観音信仰に基づいた<b>西国三十三ヵ所</b>の霊場に巡拝する)   (弘法大師信仰に基づいた<b>四国八十八ヵ所</b>の霊場に巡拝する)   ⑦ <b>金毘羅参り</b>(讃岐の<b>金毘羅宮(金刀比羅宮)</b>への参拝)   ⑧ <b>御蔭参り</b>(伊勢神宮への庶民の集団的な参詣)   1705年・1771年・1830年の3度で約60年周期で発生

## 〔B〕神道史(近現代)

明治	⑪ <u>神道国教化の推進</u> (王政復古による祭政一致の立場から神道国教化政策を推進)   1868年 <b>神仏分離(判然)令</b> (神仏習合(混淆)を禁止した法令) → <b>廃仏毀釈</b> (仏教排斥運動) の風潮が激化 (→ 仏教衰退) ★ <b>島地黙雷</b> (浄土真宗の僧)・<b>井上円了</b> (哲学館を創立) らが仏教復興に努力   1870年 <b>大教宣布の詔</b> (神道国教化の推進を表明) 宣教師による神道国教化の推進→仏教側の抵抗などで失敗 → <u>神道を宗教として扱わず、すべての宗教を超越したものとする</u>   ⑫ <u>国家神道の推進</u> (神社神道(神社に対する信仰)を国家神道として政府が特別に保護)   1871年 神社制度の成立(神社神道を国家神道として保護) 神社の社格制度の制定→官社(官幣社・国幣社)と諸社に大別(神社の格付け) ★ <b>官幣社</b> (神祇官→のち宮内省が管轄)・<b>国幣社</b> (地方官が管轄) ★ <b>招魂社</b> (戊辰戦争の戦没者を祭る)→<b>靖国神社</b>と改称(別格官幣社となる)   1873年 祝祭日の制定 <b>神話上の初代天皇</b> <b>紀元節</b>＝2月11日(神武天皇の即位日) <b>大日本帝国憲法</b>発布 <b>天長節</b>＝11月3日(明治天皇の誕生日) <b>日本国憲法</b>発布   1890年 <b>教育勅語</b> (教育の基本理念を示した明治天皇による「教育に関する勅語」) 〔山県有朋①内閣〕起草＝<b>井上毅</b> (大日本帝国憲法の起草に参与)・<b>元田永孚</b> (宮中顧問官・枢密顧問官) 内容＝儒教的精神に基づく「<b>忠君愛国</b>」などの国民道徳を説き、全国の学校に配布 ★ <b>御真影</b> (イタリア人画家<b>キヨソネ</b>が描いた明治天皇の肖像画)と共に<b>奉安殿</b>に保管	〔神道国教化政策〕   1869年 <b>神祇官</b> (版籍奉還後の官制改革で設置) 神祇官は太政官より上位に置かれた   祭政 行政   1871年 <b>神祇省</b> (廃藩置県後の官制改革で設置)   1872年 <b>教部省</b> (のち、1877年に廃止)   〔神社制度〕   <b>伊勢神宮</b> (天皇家の祖先神である天照大神を祀る) (全ての神社の上に位置する社格のない特別な神社)   官社       <b>官幣社</b> (出雲大社など)(熊野神社など)     <b>国幣社</b>     <b>別格官幣社</b> (靖国神社など)       諸社       <b>府県社</b>     <b>郷村社</b>
昭和	〔国家神道による弾圧事件〕   1891年 <b>内村鑑三</b>不敬事件 (内村鑑三がキリスト教徒の立場から教育勅語に拝礼を拒否したことが不敬と非難され<b>第一高等中学校</b>を辞職) → <b>井上哲次郎</b> (帝国大学教授) が「<b>教育と宗教の衝突</b>」で国家主義の立場からキリスト教を攻撃   1892年 <b>久米邦武</b>筆禍事件 (久米邦武が発表した論文「<b>神道は祭天の古俗</b>」が神道家の非難を浴び帝国大学教授を辞職) ★ <b>久米邦武</b>は岩倉遣外使節団に随行し(1871～1873)、『<b>米欧回覧実記</b>』を編纂し刊行(1878)   1935年 <b>第2次大本教事件</b> (出口なおが創始し、女婿の出口仁三郎により組織化された<b>大本教</b>(神道系宗教団体)が<b>結社禁止</b>となる)   1940年 <b>津田左右吉</b>筆禍事件 (『<b>神代史の研究</b>』など4冊がなどが皇室の尊厳を冒瀆するものとして発禁処分とされ、早稲田大学教授も辞職)   ⑬ <b>八紘一宇</b> (天皇が全世界を一つの家にするという意味→1935年頃から政治スローガンとなる)   1937年 『<b>国体の本義</b>』(文部省思想局が発行した国民思想教化のテキスト) 国体の尊厳・君臣の大儀を説き、天皇への絶対随順を説く   1940年 <b>皇紀二千六百年記念式典</b> 神武天皇即位から2600年目にあたるとして皇居前で挙行された式典 ★ 1937年に勃発した日中戦争の長期化により、開催が決定していた <b>オリンピック東京大会</b>(1940)は中止・日本万国博覧会(1940)は延期   1941年 『<b>臣民の道</b>』(文部省教学局が発行した国民思想教化のテキスト) 皇国臣民としての道徳と日常生活のあり方を説く	〔<b>皇民化政策</b> (朝鮮人に対する同化政策)〕       ① <b>創氏改名</b> (朝鮮人を日本式氏名に改姓させる)     ② <b>神社参拝の強要</b> (朝鮮神社への参拝)     ③ <b>日本語の強制</b> (朝鮮語教育の廃止)     ④ <b>徴兵制の実施</b> (1943～)     ⑤ <b>朝鮮人の強制連行</b> → <b>従軍慰安婦</b> (軍人の性的奉仕をさせられる)
戦後	⑭ <u>国家神道の消滅</u>   1945年 <b>神道指令</b> (国家と神道の分離指令) GHQが神社・神道に対する政府の援助・監督など国家神道の廃止を命じる   1946年 <b>天皇の人間宣言</b> (1月1日に天皇自ら「<b>現御神(現人神)</b>」としての<b>天皇神格化を否定</b>)   1951年 <b>宗教法人法</b> (日本国憲法施行による信仰の自由・政教分離の確立にともない、宗教団体に対し法人格を与える)＝<b>宗教団体を会社会的に扱う</b>	

## 〔NOTE〕

**神道(神祇思想)**＝日本独自の民族宗教

習合

→ 日本古来の神々(天照大神・大国主神など)を神社に祀る

→ 祖先神だけでなく、山・海・島などの自然も祀る

**仏教(仏教思想)**＝外国伝来の世界宗教

→ 仏(密教の**大日如来**・浄土教の**阿弥陀如来**など)を寺院に祀る

→ 密教は加持祈禱のための**山岳修行**を重んじる



〔ええじゃないか〕



〔廃仏毀釈〕

	592 年 氏族仏教 飛鳥文化 (推古天皇前後の文化)	645 年 国家仏教 白鳳文化 (天武・持統天皇時の文化)	710 年 鎮護国家仏教 天平文化 (聖武天皇時の文化)	794 年
特徴	南北朝文化の影響	初唐文化の影響	盛唐文化の影響	
建築	[氏寺] (豪族が建立・管理した寺院)   蘇我馬子=飛鳥寺(法興寺) (588) → 飛鳥寺(法興寺) (のち元興寺に改称) → 元興寺・西大寺 (称徳天皇が建立)   厩戸王=四天王寺(難波) (593) → 大官大寺 (もと百濟大寺→のち大安寺に改称) → 大安寺・東大寺 (聖武天皇が建立)   法隆寺(斑鳩寺) (607) → 川原寺(弘福寺) (川原宮の地に建立) → 法隆寺・興福寺 (藤原氏の氏寺)   秦河勝=広隆寺(太秦寺) (603) → 薬師寺 (天武天皇が皇后の病氣平癒のため建立) → 薬師寺・唐招提寺 (鑑真が建立)	[官(大)寺] (国家が建立・管理した寺院)   飛鳥寺(法興寺) (のち元興寺に改称) → 元興寺・西大寺 (称徳天皇が建立)   大官大寺 (もと百濟大寺→のち大安寺に改称) → 大安寺・東大寺 (聖武天皇が建立)   川原寺(弘福寺) (川原宮の地に建立) → 法隆寺・興福寺 (藤原氏の氏寺)   薬師寺 (天武天皇が皇后の病氣平癒のため建立) → 薬師寺・唐招提寺 (鑑真が建立)	[南都七大寺] (平城京内の七寺院)   元興寺・西大寺 (称徳天皇が建立)   大安寺・東大寺 (聖武天皇が建立)   法隆寺・興福寺 (藤原氏の氏寺)   薬師寺・唐招提寺 (鑑真が建立)	
彫刻	北魏様式 (厳しい表情)   飛鳥寺釈迦如来像 (止利仏師)   法隆寺金堂釈迦三尊像 (鞍作鳥)   法隆寺夢殿救世観音像   法隆寺百済観音像   南梁様式 (優しい表情)   広隆寺半跏思惟(弥勒菩薩)像   中宮寺半跏思惟(弥勒菩薩)像	薬師寺金堂薬師三尊像   薬師寺東院堂聖観音像   山田寺本尊 (蘇我(倉山田)石川麻呂が建立)   →興福寺仏頭 (1187年に興福寺僧が奪取)   法隆寺夢違観音像   法隆寺阿弥陀三尊像 (橘三千代の持念仏)	金堂・講堂 (平城宮朝集殿を移築)   興福寺阿修羅像   唐招提寺鑑真和上像   東大寺法華堂不空罽索観音像   東大寺法華堂日光・月光菩薩像   東大寺法華堂執金剛神像   東大寺戒壇院四天王像	
絵画・工芸	法隆寺『玉虫厨子』須弥座絵   密陀絵 (漆絵ともいわれる) の技法で描いた絵画   法隆寺獅子狩文様錦 (バリエーションの影響)   忍冬唐草文様 (蔓草が絡み合った文様)   エジプト・ギリシアで発達し、中国を経て伝来   中宮寺天寿国繡帳   厩戸王の死後、妃の橘大郎女が作らせた刺繍   —— [法隆寺再建論争] ——   『日本書紀』の 670 年の法隆寺炎上に関する記事の真偽をめぐり、歴史学者が再建説・非再建説をそれぞれ主張。1939 年の若草伽藍跡の発掘により再建説が有力となる。   『天皇記』(厩戸王・蘇我馬子が編纂した史書)   『国記』(厩戸王・蘇我馬子が編纂した史書)   ★乙巳の変(645)で蘇我蝦夷邸焼亡とともに焼失   (『帝紀』(天皇の系譜などを記録した史書))   (『旧辞』(神話・伝承などを記録した史書))   ★6世紀前半(古墳文化)の成立とされる	法隆寺金堂壁画 (1949年の金堂火災で焼損)   1950年の文化財保護法が制定される契機となる   ★アジャンター壁画・敦煌石窟壁画に類似   高松塚古墳壁画 (1972年に奈良県で発見)   天井に星宿(星座)・壁面に四神が描かれている   ★朝鮮半島の高句麗古墳壁画の人物図に類似   キトラ古墳壁画 (1983年に奈良県で発見)   白村江の戦い後、百済から亡命した貴族から学ぶ   大友皇子 (天智天皇の皇子)   大津皇子 (天武天皇の皇子)   額田王 (天智天皇の妃)   大伴御行 (上級官吏)   柿本人麻呂 (下級官吏)	法隆寺百万塔 (百万基の木製三重の小塔)   恵美押勝の乱後に称徳天皇の発願で作成される   ★百万塔陀羅尼經 (百万塔内の現存最古の印刷物)   正倉院宝物 (螺鈿紫檀五絃琵琶・漆胡瓶など)   光明子(聖武天皇の遺品を奉納(校倉造の模様))   正倉院『鳥毛立女屏風』(美人画)   薬師寺『吉祥天像』(仏教絵画)   醍醐寺『過去現在絵因果經』	
文学	『天皇記』(厩戸王・蘇我馬子が編纂した史書)   『国記』(厩戸王・蘇我馬子が編纂した史書)   ★乙巳の変(645)で蘇我蝦夷邸焼亡とともに焼失   (『帝紀』(天皇の系譜などを記録した史書))   (『旧辞』(神話・伝承などを記録した史書))   ★6世紀前半(古墳文化)の成立とされる	大友皇子 (天智天皇の皇子)   大津皇子 (天武天皇の皇子)   額田王 (天智天皇の妃)   大伴御行 (上級官吏)   柿本人麻呂 (下級官吏)	『懷風藻』(751) 現存最古の漢詩集   編纂=淡海三船?『唐大和上東征伝』   『万葉集』(770) 最古の和歌集   編纂=大伴家持? (大伴旅人の子) 準人を鎮座   山上憶良・山部赤人・大伴旅人・大伴家持などの有名歌人や東歌・防人の歌など約4500首を収録   ★漢字の音・訓を用いた万葉仮名で表記   『歴史書』   『古事記』(712) (神代~推古天皇まで)   元明 神代阿礼が誦習したものを大伴万侶(安麻呂)が筆録   『風土記』(713) 地方の歴史書   ★現存=出雲(完備現存)・豊後・播磨・常陸・肥前   『日本書紀』(720) (神代~持統天皇まで)   元正 舎人親王が編纂した最初の勅撰国史 (六国史の最初)	
教育		律令制度の確立(701~)に伴い、   ①天皇の正統性を示すため歴史書を編纂   ②役人育成のため、教育機関を整備	中央=大学 (貴族の子弟の教育=式部省の管轄)   明経道 (儒教の經典)・明法道 (律令・格式)   紀伝道 (漢詩・歴史)・算道 (算術)   地方=国学 (郡司の子弟の教育=国司の管轄)   ★芸亭 (石上宅嗣が設置した最初の私設図書館)	
六国史	日本書紀(720) → 続日本紀(797) → 日本後紀(840) → 続日本後紀(869) → 日本文徳天皇実録(879) → 日本三代実録(901)   (神代~持統朝) (文武朝~桓武朝) (桓武朝~清和朝) (仁明朝~一代) (文徳朝~一代) (清和・陽成・光孝)   (舎人親王) (菅野真道・藤原経縄) (藤原経綱・藤原冬嗣) (藤原良房) (藤原基経) (藤原時平・菅原道真)			

794 年

密教の影響

907 年

浄土教の影響

1086 年 聖による布教で浄土教が地方に伝播

	弘仁・貞観文化 (桓武・嵯峨・清和天皇時の文化)	国風(藤原)文化 (藤原摂関政治全盛期の文化)	院政期文化 (白河・鳥羽・後白河法皇時の文化)
特徴	晩唐文化の影響	唐文化に基礎を置いた日本風文化	
建築	〔山岳寺院 (山中に自由な伽藍配置)〕 比叡山延暦寺 (最澄が創建) 高野山金剛峰寺 (空海が創建) 室生寺 (「女人高野」と呼ばれる) →五重塔・金堂 (屋根は檜皮葺→現在は柿葺)	〔阿弥陀堂〕(阿弥陀如来を安置する堂) 法成寺無量寿院 (藤原道長が1020年に建立) 平等院鳳凰堂 (藤原頼通が1053年に建立) 法界寺阿弥陀堂 (日野資業が1051年に建立)	〔阿弥陀堂〕(阿弥陀堂建築の地方普及) 中尊寺金色堂 (陸奥国平泉に藤原清衡が建立) 富貴寺大堂 (豊後国(大分県)) 白水阿弥陀堂 (陸奥国(福島県)) 三仏寺投入堂 (伯耆国(鳥取県))
彫刻	〔一木造〕(一本の木材から丸彫りして制作) 〔翻波式〕(仏像の衣のひだを表現する技法) 観心寺如意輪観音像 (密教彫刻の代表作) 薬師寺僧形八幡神像 (神仏習合の影響) 室生寺金堂釈迦如来像 (金堂の本尊) 室生寺弥勒堂釈迦如来像 (翻波式)	〔寄木造〕(各部を別々に制作し組み合わせる) 平等院鳳凰堂阿弥陀如来像 (定朝) 法界寺阿弥陀如来像 浄瑠璃寺阿弥陀如来像	
絵画・工芸	〔曼荼羅〕(密教の仏の世界を構図化したもの) 神護寺両界曼荼羅 教王護国寺両界曼荼羅 〔不動明王信仰〕(大日如来の化身) 園城寺不動明王像 (黄不動) by 円珍 高野山明王院不動明王像 (赤不動) 晩唐文化の影響	〔来迎図〕(阿弥陀如来が迎えに来る姿を描く) 『高野山聖衆来迎図』 日本風文化の形成 〔大和絵〕(唐絵に対する日本風絵画の総称) 巨勢金岡 (大和絵の祖)・百済河成 〔時絵〕(金・銀粉を蒔いて文様を描く技法) 〔螺鈿〕(貝片を漆地や木地にはめこむ手法)	〔装飾経〕(経典に特別な装飾をほどこしたもの) 『扇面古写経』(大和絵の上に経文を墨書) 『平家納経』(平清盛が厳島神社に奉納) 〔絵巻物〕(絵画と文書を交互に記したもの) 『源氏物語絵巻』(『源氏物語』が題材) 『伴大納言絵巻』(応天門の変(866)が題材) 『鳥獣戯画』(動物を擬人化して世相を風刺) 『信貴山縁起絵巻』(僧命蓮に関する奇跡談)
文学	〔勅撰漢詩文集〕 『凌雲集』(嵯峨天皇の命で小野岑守が編纂) 『文華秀麗集』(「」の命で藤原冬嗣が編纂) 『経国集』(淳和天皇の命で良岑安世が編纂) 〔私撰漢詩文集・漢詩評論〕 『性霊集』(空海の漢詩文を真偽が編纂) 『文鏡秘府論』(空海の著した漢詩評論書) 『菅家文草』(菅原道真的漢詩文集) 〔説話文学〕 『日本霊異記』(景戒の著した仏教説話集) 『漢詩文集は遣唐使が共通項』	〔勅撰和歌集〕 『古今和歌集』(最初の勅撰和歌集) 醍醐天皇の命で紀貫之・紀友則・凡河内躬恒が編纂 〔物語・日記・随筆〕 『竹取物語』(最古の物語文学) 『伊勢物語』(在原業平が主人公の歌物語集) 『源氏物語』(紫式部) 『枕草子』(清少納言) 『土佐日記』(紀貫之) 『蜻蛉日記』(藤原道綱の母) 『更級日記』(菅原孝標の女)	(八代集の編纂) 〔軍記物語〕 『将門記』(平将門の乱が題材) 『陸奥話記』(前九年の役が題材) 〔歴史物語〕 『栄花(華)物語』(藤原道長の栄華を賛美) 『大鏡』(藤原道長の栄華に批判的) 〔説話文学〕 『今昔物語集』(本朝・天竺・震旦から成る)
書道	三筆=嵯峨天皇・空海・橘逸勢 中国風の書体 『風信帖』	三蹟=小野道風・藤原佐理・藤原行成 日本風の書体 『離洛帖』(世尊寺流の祖)	鎌倉時代に世尊寺流を学んで『鷹巣帖』を書いた 尊円入道親王は青蓮院流を創始 (のちの御家流)
教育	①大学教育で紀伝道(文章道)を重視 ②大学別曹(有力貴族が設置した寄宿舎) 勸学院(藤原氏)・弘文院(和気氏) 興学院(在原氏)・学館院(橘氏) ③綜芸種智院(空海が設立した民衆教育機関)	生活 ①寝殿造(平安時代の貴族の住宅) ②元服・裳着(男子・女子の成人儀式) ③陰陽道(中国の陰陽五行説に基づく) 物忌(一定期間、建物の中で謹慎する) 方違(外出の時忌避すべき方向を避ける)	芸能 〔今様〕(貴族も愛好した現代歌謡) 〔催馬楽〕(貴族も愛好した古代歌謡) 『梁塵秘抄』(後白河法皇が歌謡を集成) 庶民で流行った民謡ベスト集

漢詩文(漢文の詩)……白鳳文化～隆盛

和歌(5.7.5.7.7)……国風文化～隆盛

連歌(5.7.5.7.7)……南北朝文化～宗祇が大成

俳諧(5.7.5)……寛永文化～芭蕉が大成

新体詩(字数制限なし)……明治文化～

④服装	男性	女性
正装	束帯・衣冠	女房装束
日常着	直衣・狩衣	小袷・袴
庶民着	水干・直垂	小袖・腰布

→十二単は俗稱

鎌倉武士の識字能力(literacy)は低い

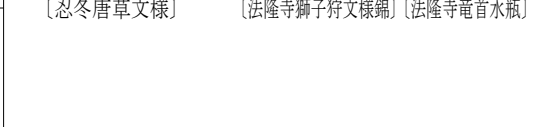
平重衡の1180年南都焼打ち(東大寺・興福寺)

	院政期文化 (貴族層が民衆文化を受容, 独自の地方文化が発展)	鎌倉文化 (公武二元文化, 禅宗文化の影響)	南北朝文化
建築	[阿弥陀堂] (阿弥陀堂建築の地方普及)   <b>中尊寺金色堂</b> (陸奥国平泉に藤原清衡が建立)   <b>富貴寺大堂</b> (豊後国(大分県))   <b>白水阿弥陀堂</b> (陸奥国(福島県))   <b>三仏寺投入堂</b> (伯耆国(鳥取県))	<b>東大寺南大門=大仏様</b> (天竺様)   ★<b>重源</b>(俊乗坊)の指導・<b>陳和暉</b>(宋の工人)の協力   <b>円覚寺舍利殿=禅宗様</b>(唐様)   <b>蓮華王院本堂=和様</b>(日本風建築)   <b>観心寺金堂=折衷様</b>(新和様)	<b>東大寺南大門金剛力士像</b> (運慶・快慶ら)   <b>東大寺僧形八幡神像</b> (快慶)   <b>興福寺無著像・世親像</b> (運慶ら)   <b>興福寺天灯鬼像・童灯鬼像</b> (康弁ら)   <b>六波羅蜜寺空也上人像</b> (康勝)
絵画	[装飾経] (経典に特別な装飾をほどこしたもの)   [扇面古写経] (大和絵の上に経文を墨書)   [平家納経] (平清盛が厳島神社に奉納)   ★厳島神社参詣のために音戸頼戸(安芸国)を開削   [絵巻物] (絵画と文書を交互に記したもの)   [源氏物語絵巻] ([源氏物語]が題材)   ★藤原隆能が引目鉤鼻・吹抜屋台の手法で描く   [伴大納言絵巻] (応天門の変(866)が題材)   [鳥獣戯画] (動物を擬人化して世相を風刺)   [信貴山縁起絵巻] (僧命蓮に関する奇跡談)	[似絵] (写実的な大和絵の肖像画)   <b>藤原隆信</b>(父)『源頼朝像・平重盛像』   <b>藤原信実</b>(子)『後鳥羽上皇像』   [頂相] (禅宗で師から与えられる師の肖像画)   [絵巻物] (絵画と文書を交互に記したもの)   [北野天神縁起絵巻] (菅原道真の生涯を描く)   [春日権現験記] (建築現場の様子を描く)   [一遍上人絵伝] (備前国福山市の様子)   [蒙古襲来絵巻] (肥後の御家人竹崎季長)   [男衾三郎絵巻] (武蔵国の武士の生活)	[水墨画] (禅の精神を墨の濃淡で描く)   默庵『布袋図』   可翁『寒山図』   — [工芸(鎌倉文化)] —   ①刀工=栗田口吉光(京都)『今日はアワ長船長光(備前) ビデオッサ岡崎正宗(鎌倉) ン構おうか』   ②甲冑=明珍(京都の甲冑製作の名家)   ③陶器=加藤藤正(尾張の瀬戸焼の祖?)
文学	[軍記物語]   『将門記』(平将門の乱が題材)   『陸奥話記』(前九年の役が題材)   [歴史物語]   『<b>栄花(華)物語</b>』(道長の栄華を賛美し記述)   ★赤染衛門(女流歌人)の作といわれる   『<b>大鏡</b>』(道長の栄華を批判的に記述)   [説話文学]   『<b>今昔物語集</b>』(源隆国が著したとされる?)   本朝・天竺・震旦の3国から成る仏教等説話集	[軍記物語]   『<b>平家物語</b>』(琵琶法師の平曲で庶民に流行)   『源平盛衰記』(平家物語を増補したもの)   [歴史書・歴史物語]   『<b>吾妻鏡</b>』(鎌倉幕府の記録を編年体で記述)   『<b>愚管抄</b>』(堀河(天台座主)の道理による歴史書)   『<b>今鏡</b>』→『<b>水鏡</b>』   [説話文学] (庶民用に平易な文章)   『<b>古今著聞集</b>』(橘成季が著した古今の説話集)   『<b>沙石集</b>』(無住が著した庶民的な仏教説話集)   [私設図書館]   <b>金沢文庫</b>(北条実時が設立した私設図書館)   好學の武士も	[軍記物語]   『<b>太平記</b>』(南北朝の動乱が題材)   ★南朝に同情的な記述が多い   [歴史書・歴史物語]   『<b>神皇正統記</b>』(南朝の正統性) <b>北畠親房</b>   『<b>梅松論</b>』(北朝の正統性)   『<b>増鏡</b>』(公家の立場から記述した歴史物語)   — [日記・随筆(鎌倉文化)] —   『<b>玉葉</b>』(九条兼実(摂政・関白)の日記)   『<b>十六夜日記</b>』(阿比尼の京都〜鎌倉の日記)   『<b>方丈記</b>』(鴨長明の随筆) = <b>鎌倉前期</b>   『<b>徒然草</b>』(吉田兼好の随筆) = <b>鎌倉後期</b>
詩歌	(八代集の編纂)   武家政権の隆盛=公家政権が後退   (1) 和歌を重視して公家の教養を強調   (2) 昔を懐かしむようになる(懐古主義)   → <b>有職故実</b>(朝廷の儀式などを研究)	[勅撰和歌集]   『<b>新古今和歌集</b>』(八代集の最後)   後鳥羽上皇の命で藤原定家・家隆らが編纂   [私撰和歌集]   『<b>金槐和歌集</b>』(源実朝)   『<b>山家集</b>』(西行) もと北面の武士	[連歌] (上の句と下の句を交互に読み合わせる)   <b>二条良基</b>   『<b>菟玖波集</b>』(最初の連歌集→<b>準勅撰</b>となる)   『<b>応安新式</b>』(連歌の規則書)
学問	[有職書] (朝廷の儀式・年中行事などを記す)   源高明『<b>西宮記</b>』(国風文化)   藤原公任『<b>北山抄</b>』(国風文化)   大江匡房『<b>江家次第</b>』(院政期文化)	[有職故実] (朝廷の儀式や年中行事を研究)   順徳天皇『<b>禁秘抄</b>』   [古典研究]   卜部兼方『<b>釈日本紀</b>』(日本書紀の注釈書)	[有職故実] (朝廷の儀式や年中行事を研究)   後醍醐天皇『<b>建武年中行事</b>』   北畠親房『<b>職原抄</b>』(1340)
芸能	散楽(奈良時代に伝わる)   → <b>猿楽</b> (滑稽を主とした雑芸)   → <b>田楽</b> (田植祭りの際の歌舞)   芸として専門的に演じる者が登場   → <b>演劇(能)</b>としての仕組みを整える	大和猿楽四座=観世座(もと結崎座)・金春座・宝生座・金剛座   (田楽の要素を取り入れる)   [茶道(茶の湯)]   抹茶の伝来(栄西が宋から伝える)   ex. 『<b>喫茶養生記</b>』(源実朝に献上)	[茶道(茶の湯)]   茶寄合(多人数で開かれた娯楽的な茶会)   闘茶(茶の種類や産地を飲みあてる競技)
能	[今様] (貴族も愛好した現代歌謡)   [催馬楽] (貴族も愛好した古代歌謡)   後白河法皇『<b>梁塵秘抄</b>』(歌謡を集成)		

	足利義満時代 北山文化	足利義政時代 東山文化	安土・桃山時代 桃山文化
	(公家文化を基礎に武家文化が発展、禅宗文化の影響)	(伝統的な日本文化の形成、中央文化の地方普及)	(新興武家などの豪壮・華麗な文化、南蛮文化の影響)
建築	鹿苑寺金閣 (足利義満が京都北山山荘に建立)	慈照寺銀閣 (足利義政が京都東山山荘に建立) 慈照寺東求堂同仁斎 (書院造の義政の書斎) 慈照寺庭園 (山水河原者(作庭師)の善阿弥の作) 「枯山水」(岩石で滝、砂利で水を表現した庭園) 龍安寺石庭・大徳寺大仙院庭園	「城郭」(天守閣を持つ本丸を中心とする建築) 大坂城 (豊臣秀吉が1583年に築城) 聚楽第 (秀吉晩年の邸宅兼城郭→後陽成天皇行幸) 伏見城 (秀吉晩年の邸宅兼城郭→江戸時代に破却) 姫路城 (池田輝政が1609年に改築した平山城)
絵画	「水墨画」(禅の精神を墨の濃淡で描く) 明兆 → 如拙 → 周文 瓢鮎図	「水墨画」(禅の精神を墨の濃淡で描く) 雪舟 (日本の水墨山水画を大成) 『四季山水図巻』(山水長巻) 『秋冬山水図』・『天橋立図』 [大和絵](日本風絵画の総称) 土佐派 = 土佐光信 (大和絵の主流) 狩野派 (水墨画に大和絵の手法を取り入れる) 狩野正信(父)『周茂叔愛蓮図』 狩野元信(子)『大仙院花鳥図』	「障壁画」(屏風・障子・襖などに描かれた絵画) 濃絵 (金碧に青・緑などの濃彩で描いた障壁画) 狩野永徳 (狩野元信の孫) 『唐獅子図屏風』・『繪図屏風』 『洛中洛外図屏風』(信長が上杉謙信に贈る) 狩野山楽『牡丹図』・『松鷹図』 長谷川等伯 (雪舟5代を自称) 『智積院襖絵』・『松林図屏風』 海北友松『山水図屏風』 「南蛮屏風」(南蛮人の風俗を狩野派が描く南蛮文化の影響)
文学	「軍記物語」 『難太平記』(今川貞世(了俊)) ★北朝の立場から『太平記』中の誤りを訂正 「五山文学」(五山の僧による漢文学・漢詩文) → 五山版 (五山の僧によって出版された書籍) 義堂周信 (南禅寺の五山文学僧) 絶海中津 (相国寺の五山文学僧)	「御伽草子」(室町時代の庶民的な短編物語) ex. 『浦島太郎』・『一寸法師』 『物くさ太郎』・『酒吞童子』 庶民の富裕層の識字率が向上 「教育」 足利学校 (上杉憲実が再興した学校施設) ★ザビエルから「坂東の大学」と称される 儒学普及 桂庵玄樹 (薩南学派の祖) (地方伝播) 南村梅軒 (海南学派の祖) 庶民教育『庭訓往来』(庶民教科書) 『節用集』(国語辞典)	(江戸時代の仮名草子に大きな影響を与える) 「活字印刷術」 ①活字印刷術(ヨーロッパ式) ★ヴァリヤーニが伝えた銅活字の印刷術 → 天草(キリタン)版 (エビス会の出版物) 『どちらに＝きりしたん』 『天草版平家物語』 ②活字印刷術(朝鮮式) ★朝鮮出兵で伝えられた木活字の印刷術 → 慶長勅版 (後陽成天皇の命で出版)
詩歌		「連歌」(上の句と下の句を交互に読み合わせる) 宗祇 (正風連歌を確立) = 連歌を大成 『新撰菟玖波集』(準勅撰の連歌集) 『水無瀬三吟百韻』(宗祇・肖柏・宗長) 「俳諧連歌」(連歌から生じた五・七・五の短詩) 山崎宗鑑『大筑波集』(俳諧連歌集)	
学問	謡曲 (能の脚本→観阿弥・世阿弥の作が多い) 狂言 (風刺性の強い喜劇でしばしば上演停止)	「有職故実」(朝廷の儀式や年中行事を研究) 一条兼良『公事根源』(有職故実書) 「古今伝授」(古今和歌集に関する秘事を口伝) 東常縁 → 宗祇 → 三条西実隆	一条兼良 (子は興福寺の僧尊尋) 『花鳥余情』(源氏物語の注釈書) 『樵談治要』(足利義尚の諸問に答える)
芸能	→ 足利義満の保護 猿楽能 (観阿弥(父)・世阿弥(子)が大成) 『風姿花伝』(花伝書) (世阿弥の能楽書) 『申楽談儀』(世阿弥の秘伝を二男元能が筆録)	「小歌」(庶民に広く流行した民間歌謡) 『閑吟集』(1518年に成立した小歌集) 「幸若舞」(桃井直詮が創始→織田信長も愛好) 「茶道(茶の湯)」 一休宗純 (大徳寺の僧) から 禅の精神を学んで取り入れる 村田珠光 (詫び茶を創始) 武野紹鷗 (詫び茶を簡素化)	「隆達節」(高三隆達が節付けした小歌) 「人形浄瑠璃」(浄瑠璃節+人形操り+三味線) 「阿国歌舞伎」(出雲阿国が創始した踊り) 聚楽第で長次郎に焼かせる 千利休(宗易) (堺の豪商出身→茶楽を指導) (詫び茶を大成) ex. 妙喜庵待庵 (千利休の茶室)

		安土・桃山時代	徳川家光時代	徳川綱吉時代
		桃山文化 (豪壮・華麗な文化)	寛永文化 (豪壮・華麗な桃山文化の継承)	元禄文化 (上方(京都・大阪)を中心とした町人文化)
建 築			「<b>権現造</b>」(霊廟建築様式の一つ)   <b>日光東照宮</b>(徳川家康を東照大権現として祀る)   「<b>数寄屋造</b>」(書院造に茶室建築を取り入れる)   <b>桂離宮</b>(八条宮智仁親王の別邸)   <b>修学院離宮</b>(後水尾上皇の山荘)	<b>本草学</b> <b>貝原益軒</b>(本草学の基礎)『<b>大和本草</b>』   <b>和算</b> <b>吉田光由</b>(和算の基礎)『<b>塵劫記</b>』   <b>問</b>日本の数学 <b>関孝和</b>(和算を大成)『<b>発微算法</b>』   <b>暦学</b> <b>渋川春海</b>(<b>安井算哲</b>(貞享暦を作成) 従来の<b>宣明暦</b>に代わる→<b>天文方</b>に仕えられる
	小説	「 <b>御伽草子</b> 」(東山文化～)	「 <b>仮名草子</b> 」(仮名書きによる小説の総称)	「 <b>浮世草子</b> 」(町人・武家社会の生活を描いた風俗小説)
学	俳諧	「 <b>俳諧連歌</b> 」(東山文化～)	「 <b>俳諧</b> 」(連歌から独立した五・七・五の短詩) <b>松永貞徳</b> = <b>貞門俳諧</b> ( <b>貞門派</b> ) <b>西山宗因</b> = <b>談林俳諧</b> ( <b>談林派</b> )	「 <b>俳諧</b> 」(連歌から独立した五・七・五の短詩) <b>松尾芭蕉</b> ( <b>蕉風</b> ( <b>正風</b> ) <b>俳諧</b> を確立)= <b>俳諧を大成</b> 『 <b>奥の細道</b> 』・『 <b>野ざらし紀行</b> 』・『 <b>笈の小文</b> 』 『 <b>猿蓑</b> 』(芭蕉や芭蕉一門の俳諧撰集)
	風俗画		『 <b>彦根屏風</b> 』(彦根藩井伊家が所有)	「 <b>浮世絵</b> 」(遊女や役者を題材とした庶民風俗画) <b>菱川師宣</b> (浮世絵版画の創始者→元禄期は墨一色刷りの木版画) 『 <b>見返り美人図</b> 』(肉筆画)
絵 画	障 壁 画	( <b>狩野派</b> ) <b>狩野永徳</b> → <b>狩野探幽</b> (幕府御用絵師) 『 <b>大徳寺方丈襖絵</b> 』→ <b>久隅守景</b> (狩野派を破門される) 『 <b>夕顔棚納涼図屏風</b> 』(明治期まで続く)		
		( <b>土佐派</b> ) <b>土佐光信</b> → <b>土佐派</b> (京都) <b>土佐光起</b> (土佐派を復興) → <b>住吉派</b> (江戸) <b>住吉如慶</b> (住吉派の祖)→ <b>住吉具慶</b> 『 <b>洛中洛外図巻</b> 』(明治期まで続く)		
	( <b>琳派</b> )	「 <b>装飾画</b> 」(大胆な構図で、装飾性に富んだ <b>大和絵</b> ) <b>俵屋宗達</b> (本 <b>阿弥光悦</b> に絵画を師事→琳派の先駆け) 『 <b>風神雷神図屏風</b> 』		<b>尾形光琳</b> ( <b>琳派</b> の創始者) 『 <b>紅白梅図屏風</b> 』・『 <b>燕子花図屏風</b> 』
工 芸	蒔 絵		<b>本阿弥光悦</b> 「 <b>舟橋蒔絵硯箱</b> 」→ <b>尾形光琳</b> 「 <b>八橋蒔絵硯箱</b> 」	
	陶 磁 器	「 <b>お国焼</b> 」 <b>有田焼</b> ( <b>鍋島氏</b> ) <b>薩摩焼</b> ( <b>島津氏</b> ) <b>萩焼</b> ( <b>毛利氏</b> )	<b>酒井田柿右衛門</b> (有田焼の陶工) 色絵磁器の創始者(赤を基調とした <b>赤絵</b> の技法を完成) ★ <b>有田焼</b> ( <b>肥前</b> )の技法が <b>九谷焼</b> ( <b>加賀</b> )に伝わる	<b>野々村仁清</b> (京焼の祖)→ <b>尾形乾山</b> (尾形光琳の弟) 色絵陶器の創始者 [ <b>染物</b> ] <b>宮崎友禪</b> ( <b>友禪染</b> の祖) [ <b>彫刻</b> ] <b>円空</b> ( <b>鈍彫</b> による造像)
芸 能	浄 瑠 璃	「 <b>人形浄瑠璃</b> 」 ①浄瑠璃(語り)=ナレーション ②人形遣い(操り人形を操る人) ③琉球から伝来した <b>三味線</b> の伴奏	<b>竹本義太夫</b> (義太夫節) <b>辰松八郎兵衛</b> (人形遣い)	<b>近松門左衛門</b> (浄瑠璃脚本家) 時代物『 <b>国性(姓)爺合戦</b> 』(明の <b>鄭成功</b> の史実を脚色) 世話物『 <b>曽根崎心中</b> 』(大坂で起こった心中事件を脚色) 『 <b>冥途の飛脚</b> 』・『 <b>心中天網島</b> 』
	歌 舞 伎	「 <b>阿国歌舞伎</b> 」(出雲阿国が創始)	「 <b>女歌舞伎</b> 」→ <b>若衆歌舞伎</b> → <b>野郎歌舞伎</b> → <b>元禄歌舞伎</b> (役者の容色中心から演技・脚本の演劇に発達) (幕府により禁止)(幕府により禁止)	<b>江戸</b> = <b>市川団十郎</b> ( <b>荒事</b> )(勇猛な演技) <b>上方</b> = <b>坂田藤十郎</b> ( <b>和事</b> )(恋愛的な演技) <b>上方</b> = <b>芳沢あやめ</b> ( <b>女形</b> )(女役)

特徴	文化文化 (江戸を中心とした享楽的・退廃的な町人文化)		
	田沼時代 (宝暦・天明期の文化)	寛政の改革 (寛政期)	大御所時代 (文化・文政期の文化)
小説	『<b>浮世草子</b>』   『<b>草双紙</b>』 (赤本・青本・黒本から始まる絵入り小説の総称)   『<b>黄表紙</b>』 (大人向けの絵入り小説)   『<b>酒落本</b>』 (遊里での会話を主体とした小説)   『<b>読本 (前期)</b>』 (怪奇物を題材)   『<b>読本 (後期)</b>』 (歴史物を題材)   『<b>滑稽本</b>』 (滑稽を要素とした会話中心の小説)   『<b>人情本</b>』 (男女間の恋愛小説)   『<b>合巻</b>』 (黄表紙を数冊分綴じた長編絵入り小説)	『<b>上田秋成</b>『<b>雨月物語</b>』   『<b>山東京伝</b>』   『<b>恋川春町</b>『<b>金々先生栄花夢</b>』   『<b>山東京伝</b>『<b>江戸生艶気権焼</b>』   『<b>寛政の改革</b>』   『<b>五街道の発達により旅への関心が高まる</b>』	『<b>滝沢 (曲亭) 馬琴</b>『<b>南総里見八犬伝</b>』   『<b>椿説弓張月</b>』 (源為朝の武勇伝)   『<b>十返舎一九</b>『<b>東海道中膝栗毛</b>』   『<b>式亭三馬</b>『<b>浮世風呂</b>』・『<b>浮世床</b>』   『<b>為永春水</b>『<b>春色梅児誉美</b>』   『<b>柳亭種彦</b>『<b>彦紫田舎源氏</b>』 (家斉の大奥生活を描く)   『<b>★紀行文＝鈴木牧之</b>『<b>北越雪譜</b>』・『<b>菅江真澄</b>』・『<b>菅江真澄遊覧記</b>』   『<b>天保の改革</b>』
俳諧など	『<b>与謝蕪村</b>』 (津渡国出身)   『<b>蕪村七部集</b>』   『<b>川柳</b>』   『<b>狂歌</b>』   『<b>大田南畝</b>』   『<b>蘭山人</b>』   『<b>四方赤良</b>』   『<b>石川雅望</b>』 (宿屋飯盛)	『<b>小林一茶</b>』 (津濃国出身)   『<b>おらが春</b>』   『<b>和歌</b>』   『<b>香川景樹</b>』 (桂園派の祖・古今調の和歌)   『<b>良寛</b>』 (越後出雲崎の禅僧・万葉調の和歌)	
浮世絵	『<b>錦絵</b>』 (多色刷り浮世絵版画)   『<b>大首絵</b>』 (美人・役者を上半身で大写しに描く)   『<b>風景版画</b>』 (旅への関心の高まりが背景)   『<b>鈴木春信</b>』 (錦絵の創始者)   『<b>喜多川歌麿</b>』 (美人画)   『<b>葛飾北斎</b>』 (富嶽三十六景)   『<b>弾琴美人</b>』   『<b>東洲斎写楽</b>』 (役者絵)   『<b>市川蝦蔵</b>』 (役者絵)   『<b>歌川 (安藤) 広重</b>』 (東海道五十三次)   『<b>江戸名所百景</b>』   『<b>浮世絵版画が墨一色刷り→三色刷り→多色刷りへ</b>』		
文人画 (南画)	『<b>文人画 (南画)</b>』 (絵画の専門ではない文人や学者が趣味として描いた絵画)   『<b>池大雅</b>』   『<b>十便十宜図</b>』 (二人による合作)   『<b>谷文晁</b>』 (渡辺華山らを指導)   『<b>田能村竹田</b>』 (豊後竹田の人)		『<b>渡辺華山</b>』 (三河田原藩家老で高野長英らと蘭学を学ぶ)   『<b>鷹見泉石像</b>』 (鷹見泉石は古河藩家老)
洋風画	『<b>洋風画</b>』 (蘭学の隆盛の影響を受けて、西洋画の手法に基づき描かれた絵画)   『<b>平賀源内</b>』   『<b>西洋婦人図</b>』   『<b>解体新書</b>』の挿絵を描く   『<b>小田野直武</b>』   『<b>司馬江漢</b>』 (銅版画を創始)   『<b>不忍池図</b>』 (無繪)   『<b>銅版を薬品で腐食させた版画</b>』   『<b>亜欧堂田善</b>』 (白河藩主松平定信に仕える)   『<b>浅間山図屏風</b>』		
写生画	『<b>写生画</b>』 (遠近法や陰影法を用いた写実的絵画)   『<b>円山応挙</b>』 (円山派を創始)   『<b>雪松図屏風</b>』		『<b>呉春 (松村月溪)</b>』 (円山応挙に学び、<b>四条派</b>を創始)   『<b>柳鷺群禽図屏風</b>』
藩校 (藩学)	『<b>藩校 (藩学)</b>』 (藩士の子弟教育機関)   『<b>岡山藩＝花鳥教場</b>』 (池田光政が創立)   『<b>★郷校 (庶民教育機関)＝閑谷学校 (岡山藩)</b>』	『<b>熊本藩＝時習館</b>』 (細川重賢が創立)   『<b>秋田藩＝明德館</b>』 (佐竹義和が創立)   『<b>米沢藩＝興讓館</b>』 (上杉治憲が創立)	『<b>会津藩＝日新館</b>』 (松平容頌が創立)   『<b>水戸藩＝弘道館</b>』 (徳川斉昭が創立)   『<b>薩摩藩＝造士館</b>』 (島津重豪が創立)
浄瑠璃	『<b>竹田出雲</b>』 (近松門左衛門に師事)   『<b>近松半二</b>』 (竹田出雲に師事)   『<b>歌 (唄) 浄瑠璃</b>』 (人形操りを離れた演奏中心)   『<b>常盤津節・新内節・清元節・一中節</b>』   『<b>★浄瑠璃に押され、歌舞伎は一時停滞するが、花道・付舞台・回り舞台・せり上がりなど舞台装置の開発・所作の発達で再度隆盛</b>』	『<b>仮名手本忠臣蔵</b>』 (赤穂事件が題材)   『<b>菅原伝授手習鑑</b>』 (昌泰の変を脚色)   『<b>義経千本桜</b>』 (義経伝説を脚色)	
歌舞伎	『<b>芝居小屋</b>』 (歌舞伎の劇場)   『<b>江戸三座</b>』 (興行を幕府が公認)   『<b>中村座・市村座・森田座</b>』   『<b>★明治期には散切物・活版物で人気を博す</b>』		『<b>鶴屋南北 (四世)</b>』 (歌舞伎作者)   『<b>★東海道四谷怪談</b>』 (写実性の強い<b>生世物語</b>)   『<b>河竹黙阿弥</b>』 (五世鶴屋南北に師事した歌舞伎作者)   『<b>★白浪五人男</b>』 (盗賊を主人公とする<b>白浪物</b>)

特 徴	①<u>最初の仏教文化</u>（飛鳥地方を中心とした文化）          ②<u>南北朝文化の影響</u>（朝鮮半島を経由して導入）          ③<u>国際性に富む文化</u>（ギリシア・インドとの共通性）	
建 築	〔氏寺〕（古墳に代わる新たな権威の象徴として豪族が建立・管理した寺院）          仏教受容に伴い、従来の<u>掘立柱</u>（地面に穴を掘り、そこに柱を立てる技法）から、<u>礎石</u>（建物の土台となる石）の上に柱を立てて屋根に瓦を葺く技法が導入される  <u>蘇我馬子＝飛鳥寺（法興寺）</u>（596年に建立された日本最古の寺院）          ★飛鳥寺塔の心礎（中心柱となる礎石）から従来の古墳の副葬品と同種の品が出土  <u>秦 河勝＝法隆寺（大秦寺）</u>（603年に京都の太秦に建立）  <u>厩戸王（聖徳太子）＝法隆寺（斑鳩寺）・四天王寺（難波）</u>          用明天皇（厩戸王（聖徳太子）の父）のために建立した世界最古の木造建築物          ★法隆寺金堂などの柱はエンタシス（円柱の中央部がふくらんでいる様式）          →古代ギリシアのパルテノン神殿に用いられている技法          〔法隆寺再建論争〕          法隆寺は607年に建立されたが、『日本書紀』に670年法隆寺炎上の記事があり、その真偽をめぐって明治末以降歴史学者の中で再建説・非再建説が主張された。その後、1939年に若草伽藍跡（四天王寺式）の発掘により再建説が有力となり、2004年に木材の建築年代の調査によって再建説で確定した。	
彫 刻	→〔<u>北魏様式</u>〕（力強く端厳で男性的な造像様式）<u>厳しい表情</u>  <u>飛鳥寺釈迦如来像</u>（飛鳥大仏）（鞍作鳥（止利仏師）が606年に制作した金銅像）  <u>法隆寺金堂釈迦三尊像</u>（鞍作鳥（止利仏師）が623年に制作した金銅像）  <u>法隆寺夢殿救世観音像</u>（フェノロサの調査で初めて解明された木像）          →〔<u>南梁様式</u>〕（柔和で丸みがある造像様式）<u>優しい表情</u>  <u>法隆寺百済観音像</u>（百済からの渡来と伝えられる（？）木像）  <u>広隆寺半跏思惟像</u>（弥勒菩薩像）（木像）  <u>中宮寺半跏思惟像</u>（弥勒菩薩像）（木像）	
工 芸	→<u>中宮寺天寿国繡帳</u>（聖徳太子の死後、橘女郎が作らせた刺繍）          →<u>忍冬唐草文様</u>（つる草がからみあった様子を図式化した文様）          ★古代エジプト・ギリシアで発達し、中国を経て伝来  <u>法隆寺獅子狩文様錦</u>（ペガサスにまたがった武者が獅子を射る様子）          ★西アジアササン朝ペルシアの狩猟文の影響  <u>法隆寺竜首水瓶</u>（竜をかたどった蓋と把手を付けた水差し）  <u>法隆寺『玉虫厨子』</u>（玉虫の羽が伏せてあった仏像・経巻などを安置する箱）	
絵 画	<u>法隆寺『玉虫厨子』須弥座絵</u>          須弥座の左右に「捨身飼虎図」・「施身聞偈図」が描かれている          ★密陀絵（古代の油絵の一種）の技法（漆絵ともいわれる）	

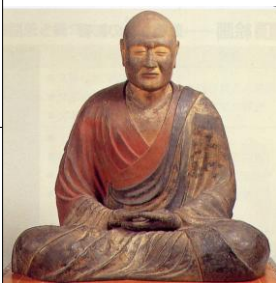
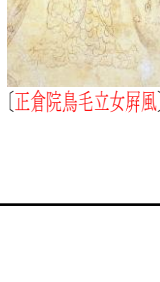
## 法隆寺の創建『法隆寺薬師如来像光背銘』

①池辺の大宮に天下治しめしし天皇②大御身勞づき賜ひし時、③歳は丙午に次る年、④太王太皇⑤太子とを召して誓願し賜ひ、「我が大御病太平ならんと欲坐すが故に、將に寺を造りて⑥薬師の像を作り仕へ奉らんとす」と詔したまふ。然るに当時崩じ賜ひて造り堪へずありしかば、⑦小治田の大宮に天下治しめしし大天王皇及び⑧東宮聖王、大命を受け賜はりて⑨歳は丁卯に次れる年に仕へ奉る。

〔①用明天皇 ②病氣になられた時 ③586年 ④推古天皇 ⑤聖徳太子 ⑥薬師如来像 ⑦推古天皇 ⑧厩戸王（聖徳太子） ⑨607年〕

特徴	① <b>初唐文化の影響</b> (インド・アジア・高句麗の影響もみられる) ②律令国家建設期の文化 (若々しい清新な文化)			
建築	「 <b>官寺(官大寺)</b> 」(国家が建立・管理した寺院) <b>大官大寺</b> (もと舒明天皇が建立した百濟大寺) <b>薬師寺</b> (天武天皇が皇后の病氣平癒のため建立) ↳ <b>薬師寺東塔</b> ①頂上に天女と飛雲を配した <b>水煙</b> がある ②三重塔の各層に <b>裳階</b> がつく <b>飛鳥寺(法興寺)</b> → 明治時代に <b>フェノロサ(アメリカ人)</b> が <b>川原寺(弘福寺)</b> 薬師寺東塔を「 <b>凍れる音楽</b> 」と形容			
彫刻	<b>興福寺仏頭</b> (金銅像) ★もと蘇我(倉山田)石川麻呂の建立した山田寺の本尊 <b>薬師寺金堂薬師三尊像</b> (金銅像) } 「白鳳文化の中心は薬師寺」 <b>薬師寺東院堂聖観音像</b> (金銅像) <b>法隆寺夢違観音像</b> (金銅像) <b>法隆寺阿弥陀三尊像</b> (金銅像)			
絵画	<b>法隆寺金堂壁画</b> (1949 年に焼損した仏教壁画) インドの <b>アジャンター</b> 壁画・中国の <b>敦煌石窟</b> 壁画に類似 →これを契機に <b>文化財保護法(1950)</b> 制定+ <b>文化庁(1968)</b> 設置 <b>高松塚古墳壁画</b> (1972 年に奈良県明日香村で発見された古墳の壁画) 高句麗古墳壁画の影響/キトラ古墳(奈良県)と類似 石室の天井に <b>星宿(星座)</b> ・東西南北の壁面に <b>四神</b> や男女群像が描かれている ★ <b>四神</b> = <b>青竜(東)</b> ・ <b>白虎(西)</b> ・ <b>朱雀(南)</b> ・ <b>玄武(北)</b>			
文学	漢詩文= <b>大友皇子</b> (天智天皇の皇子) } のち『 <b>懷風藻</b> 』に収録される <b>大津皇子</b> (天武天皇の皇子) 和歌= <b>額田王</b> (天智天皇の妃) } のち『 <b>万葉集</b> 』に収録される <b>柿本人麻呂</b> (下級官吏) 「大君は 神にし坐せば 天雲の 雷の上に 慮せるかも」 <b>天皇</b> (具体的には <b>天武天皇</b> )			

時代名	文化名	特徴	詩歌(漢詩文・和歌・俳句など)の展開
飛鳥時代	<b>飛鳥文化</b>	南北朝文化の影響	
白鳳時代	<b>白鳳文化</b>	初唐文化の影響	<u>漢詩文・和歌の成立</u>
奈良時代	<b>天平文化</b>	盛唐文化の影響	ex. 『 <b>懷風藻</b> 』(漢詩文集)・『 <b>万葉集</b> 』(和歌集)
平安初期	<b>弘仁貞観文化</b>	晩唐文化の影響	→ <u>漢詩文の隆盛</u> ex. 『 <b>凌雲集</b> 』(最初の勅撰漢詩文集)
平安中期	<b>国風文化</b>	唐風文化を基礎にした日本文化の形成	→ <u>和歌の隆盛</u> ex. 『 <b>古今和歌集</b> 』(最初の勅撰和歌集)
平安末期	<b>院政期文化</b>	貴族層が民衆文化を受容、独自の地方文化が発展	
鎌倉時代	<b>鎌倉文化</b>	公武二元文化、 <u>禅宗文化の影響</u>	→ <u>連歌の隆盛</u> ex. 『 <b>新古今和歌集</b> 』(八代集の最後)
南北朝時代	<b>南北朝文化</b>	南北朝の動乱期の世相を反映	ex. 『 <b>菟玖波集</b> 』(最初の准勅撰連歌集)
足利義満時代	<b>北山文化</b>	公家文化を基礎に武家文化が発展、 <u>禅宗文化の影響</u>	
足利義政時代	<b>東山文化</b>	「簡素」で「幽玄」な伝統的な日本文化の形成	→ <u>俳諧連歌成立</u> ex. 『 <b>新撰菟玖波集</b> 』(宗祇の連歌集)
戦国時代	天文文化	<u>応仁の乱</u> で京都荒廃による中央文化の地方普及	ex. 『 <b>大筑波集</b> 』(山崎宗鑑の俳諧連歌集)
安土桃山時代	<b>桃山文化</b>	豪壮・華麗な文化、南蛮文化の影響	
徳川家光時代	<b>寛永文化</b>	豪壮・華麗な桃山文化の継承	→ <u>俳諧の隆盛</u>
元禄時代	<b>元禄文化</b>	<u>上方(京都・大阪)</u> を中心とした町人文化	ex. 『 <b>奥の細道</b> 』(松尾芭蕉の俳諧集)
大御所時代	<b>化政文化</b>	<u>江戸</u> を中心とした享乐的・退廃的な町人文化	ex. 『 <b>おらが春</b> 』(小林一茶の俳諧集)

特 徴	①<u>盛唐文化の影響</u>   ②貴族中心の仏教文化(平城京を中心とした文化)   ③国際色豊かな文化(正倉院宝物に多くみられる)	  〔東大寺正倉院宝庫〕
建 築	<b>法隆寺</b> { ゆめ <b>夢殿</b> (天平期に建築された本格的な八角円堂)  だんぽう <b>伝法堂</b> (県犬養三千代宅を移築したものと伝わる)  <b>法華堂</b> (三月堂ともいう法華会が行われた建物)  <b>東大寺</b> { てがひもん <b>転害門</b> (東大寺創建当時の中で現存する唯一の門)  <b>正倉院</b> (あはれくらつくり 校倉造の建築様式で、<b>聖武天皇</b>の遺愛品を<b>光明子</b>が献納)  <b>唐招提寺</b> { <b>金堂</b> (天平期の金堂の中で現存する唯一の金堂)  <b>講堂</b> (平城宮の<b>朝集殿</b>を移築し改修)  <b>鑑真の寺</b>	   中央〔東大寺法華堂不空羂索観音像〕          右左〔東大寺法華堂日光・月光菩薩像〕
彫 刻	〔<b>乾漆像</b>〕(かんしつぞう 麻布を重ねて漆で塗り固めてつくった像)  <b>東大寺法華堂不空羂索観音像</b>  <b>唐招提寺鑑真和上像</b>  <b>興福寺阿修羅像</b> (興福寺八部衆像の一つ)  <b>興福寺須菩提像</b> (興福寺十大弟子像の一つ)   〔<b>塑像</b>〕(ぞう 粘土でつくった像)  <b>東大寺法華堂日光・月光菩薩像</b>  <b>東大寺法華堂執金剛神像</b>  <b>東大寺戒壇院四天王像</b> ★四天王＝持国天・増長天・広目天・多聞天  <b>新薬師寺十二神将像</b>	  〔東大寺戒壇院四天王像〕
工 芸	<b>法隆寺百万塔</b> (惠美押勝の乱の戦没者供養のため<b>称徳天皇</b>の発願で作成)          ★<b>百万塔陀羅尼經</b> (百万塔の塔内に納められた<b>現存最古の印刷物</b>)  <b>正倉院宝物</b> (<b>光明子(皇太后)</b>が<b>東大寺</b>に寄進した<b>聖武天皇</b>の遺品)  <b>螺鈿紫檀五絃琵琶</b>・<b>漆胡瓶</b>・<b>白琉璃碗</b>・<b>樂毅論</b>・<b>雜集</b>	   〔唐招提寺鑑真和上像〕          〔興福寺阿修羅像〕
絵 画	<b>正倉院『鳥毛立女屏風』</b> (樹下に唐衣装を着けた美女を描いた<b>美人画</b>)  <b>薬師寺『吉祥天像』</b> (麻布に吉祥天女を描いた<b>仏教絵画</b>)  <b>醍醐寺『過去現在絵因果経』</b> (絵巻物の源流)	   〔唐招提寺鑑真和上像〕          〔興福寺阿修羅像〕
文 学	〔漢詩文〕  <b>『懷風藻』(751)</b> <b>現存最古の漢詩集</b> (<b>大友皇子</b>・<b>大津皇子</b>の作品などを収録)          ★<b>淡海三船</b>『<b>唐大和上東征伝</b>』を著述・<b>石上宅嗣</b>(<b>岑</b>字)を開説          〔和歌〕  <b>鑑真の日本渡航を記した伝記</b>  <b>『万葉集』(770)</b> <b>大伴家持</b>らが編纂した最古の和歌集          万葉仮名 (漢字の音・訓を用いて日本語を表記) で記す          →有名歌人や<b>東歌</b>・<b>防人</b>の歌など約 4500 首を収録          東国の農民の歌 九州の兵士の歌          ★<b>山上憶良</b>『<b>貧窮問答歌</b>』を著述・<b>山部赤人</b>(自然・叙景を詠む)  <b>大伴旅人</b>(九州歌壇の中心人物)・<b>大伴家持</b>(万葉集で最多収録)  <b>隼人</b>を平定(720) <b>大伴旅人の子</b>	   〔唐招提寺吉祥天像〕          〔正倉院鳥毛立女屏風〕          〔百万塔陀羅尼經〕
教 育	中央＝<b>大学</b>(五位以上の貴族や東西<b>史部</b>の子弟の教育→<b>式部省</b>の管轄)          学科 { <b>明経道</b>(儒教の經典を学ぶ)・<b>明法道</b>(律令・格式を学ぶ)  <b>紀伝道</b>(漢詩文・歴史を学ぶ)・<b>算道</b>(算術を学ぶ) }          地方＝<b>国学</b>(<b>郡司</b>の子弟の教育→<b>国司</b>の管轄)          ★<b>芸亭</b>(<b>石上宅嗣</b>が設置した最初の私設図書館)	

記・紀の編集		編纂過程	
天武	天皇が日本を支配する 由来や正統性を示すため	天武天皇が ^{稗田阿礼} に『 <b>帝紀</b> 』『 <b>旧辞</b> 』を誦習させる ★『 <b>帝紀</b> 』（天皇の系譜を記録）・『 <b>旧辞</b> 』（神話・伝承などを記録）	
元明	『 <b>古事記</b> 』（712） 『 <b>風土記</b> 』（713）	^{稗田阿礼} が誦習→ ^{太安麻呂} が筆録（神代～推古天皇までを記述） 諸国の地誌（地名の由来・産物・伝承など）を編纂させる 現存＝ <b>出雲</b> （完備現存）・ <b>常陸</b> ・ <b>播磨</b> ・ <b>豊後</b> ・ <b>肥前</b>	
元正	『 <b>日本書紀</b> 』（720）	^{舎人親王} （天武天皇皇子）が編纂（神代～持統天皇までを記述） ① <b>六国史</b> の <b>最初</b> （最初の勅撰国史） ② <b>編年体</b> （年代を追って出来事を記す叙述法）で記述（異説も併記） cf. <b>紀伝体</b> （個人の伝記を中心にテーマ別に記す）	



〔漆胡瓶〕



〔螺鈿紫檀五絃琵琶〕



〔過去現在絵因果経〕

天皇	成立	六国史	内容	編纂者	その他
元正	720年	『 <b>日本書紀</b> 』	神代～持統	<b>舎人親王</b>	『 <b>類聚国史</b> 』（編纂＝ <b>菅原道真</b> ） 六国史の内容を部門別に分類したもの
桓武	707年	『 <b>続日本紀</b> 』	文武～桓武	<b>菅野真道・藤原継縄</b>	
仁明	840年	『 <b>日本後紀</b> 』	桓武～淳和	<b>藤原緒嗣・藤原冬嗣</b>	
清和	860年	『 <b>続日本後紀</b> 』	仁明～代	<b>藤原良房</b>	
陽成	870年	『 <b>日本文徳天皇実録</b> 』	文徳～代	<b>藤原基経</b>	
醍醐	901年	『 <b>日本三代実録</b> 』	清和・陽成・光孝	<b>藤原時平・菅原道真</b>	

#### ㊦ 山上憶良の貧窮問答歌『万葉集』

…綿も無き 布肩衣の ①海松の如 ②わわけさがれる ③櫓樓のみ 肩にうち懸け ④伏慮の ⑤曲慮の 内に⑥直土に 藁  
 解き敷きて 父母は 枕の方に 妻子どもは 足の方に ⑦囀り居て 憂へ⑧吟ひ 竈には 火氣ふき立てず ⑨顚には 蜘蛛の  
 巢懸きて 飯炊く 事も忘れて ⑩鷄鳥の ⑪咄吟ひ居るに いとのきて 短き物を ⑫端戴ると 云へるが如く ⑬楚取る  
 ⑭**五十戸良**が声は 寝屋処まで 来立ち呼びひぬ 斯くばかり 術無きものか 世間の道 世間を憂しとやさしと思へども 飛  
 び立ちかねつ鳥にしあらねば

〔①海藻の一種 ②破れてぶら下がる ③ぼろ ④屋根の低い家 ⑤ゆがみ傾いた家 ⑥土にじかに ⑦うめく ⑧蒸し器  
 ⑨呻吟うの枕詞 ⑩細々と力のない声で鳴く ⑪短いものをさらに端を切って短くすること ⑫むち ⑬里長〕

#### ㊦ 古事記の序文『古事記』

臣①**安万侶**言す。……是に於て②**天皇**詔すらく。「朕聞く。諸家の實る所の③**帝紀**及び④**本辞**、既に正実に違ひ、多く虚偽を加ふ。  
 今の時に当りて其の失を改めざれば、未だ幾年をも経ずして其の旨滅びむと欲す。斯れ乃ち邦家の経緯、王化の⑤**鴻基**なり。故  
 惟に**帝紀**を撰録し、**旧辞**を⑥**討**駁し、偽を削り実を定め、後葉に流えむと欲す」と。時に⑦**舎人**有り。姓は**稗田**、名は**阿礼**。年  
 は是れ廿八。人となり聡明にして、⑧**目**に度れば口に誦み、⑨**耳**に払るれば心に勤す。即ち**阿礼**に勅語して、⑩**天皇**の日繼及び先  
 代の**旧辞**を⑪**誦**み習はしむ。然れども⑫**運移り世異りて**、未だ其の事を行はず。伏して惟るに⑬**皇帝陛下**、……ここに於て**旧辞**  
 の誤り忤えるを惜しみ、⑭**先紀**の謬り錯えるを正さむとして、⑮**和銅四年九月十八日**を以て臣**安万侶**に詔すらく。「**稗田阿礼**の誦  
 める所の勅語の**旧辞**を撰録して以て献上せよ」者り。謹みて勅旨に随ひて子細に採り撫ふ。……大抵所記せるは、天地の開闢け  
 しより始めて、⑯**小治田の御世**に訖る。……并せて三巻を録し、謹みて献上る。

⑮**和銅五年**正月二十八日

正五位上勳五等太朝臣臣**安万侶**謹上

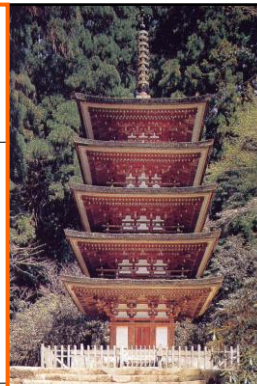
〔①**太安万侶** ②**天武天皇** ③歴代の天皇の事績や皇位継承の記録 ④旧辞と同じ。神話や伝説など ⑤天皇が徳をもって人々  
 を導くための基礎 ⑥検討する ⑦天皇や皇子などの側近く仕え、雑事を勤めた下級官人 ⑧一度見れば声に出して読み、一  
 度聞けば記憶する ⑨天皇 ⑩暗誦させる ⑪時代が移り、**天武天皇**から代が改まった ⑫**元明天皇** ⑬**帝紀** ⑭711年 ⑮  
**推古天皇** ⑯**712年**〕

#### ㊦ 風土記の編纂命令『続日本紀』

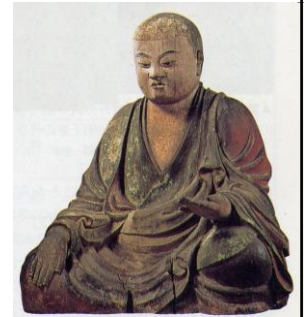
（①**和銅六年**）五月甲子。制すらく、畿内・七道諸国の郡・郷名は好き字を着けよ。其の郡内に生ずる所の、銀・銅・彩色・  
 草木・禽獸・魚虫等の物は、眞に②**色目**を録せしむ。……

〔①**713年** ②種類・品目〕

建築	〔山岳寺院（山岳修行を重視するため、自由な伽藍配置で山中に建立）〕   <b>室生寺</b>（女性が唯一参詣できる寺→「<b>女人高野</b>」と呼ばれる）   ↳ <b>五重塔・金堂</b>（金堂の屋根は檜の皮で葺いた<b>檜皮葺</b>→現在は<b>柿葺</b>）
彫刻	〔<b>一木造</b>〕（一本の木材から丸彫りして制作する彫法） 一本の木から頭へ胴体   〔<b>翻波式</b>〕（仏像の衣のひだを表現する彫刻技法） まだ全身を彫っていく   <b>観心寺如意輪観音像</b>（密教彫刻の代表作）   <b>室生寺金堂釈迦如来像</b>（金堂の本尊）   <b>室生寺弥勒堂釈迦如来像</b>（翻波式の典型例）   <b>薬師寺僧形八幡神像</b>（僧の形をした八幡神の像） 神仏習合の影響
絵画	〔<b>曼荼羅</b>〕（密教の仏の世界を構図化したもの）   <b>神護寺両界曼荼羅・教王護国寺両界曼荼羅</b>   ★両界曼荼羅＝<b>金剛界</b>（金剛頂経に依拠）・<b>胎藏界</b>（大日経に依拠）   〔不動明王信仰〕（不動明王＝大日如来の化身）   <b>園城寺不動明王像</b>（黄不動と呼ばれる→円珍が描かせたもの）   <b>高野山明王院不動明王像</b>（赤不動と呼ばれる）
書道	<b>三筆＝空海・嵯峨天皇・橘逸勢</b>（承和の変で伊豆国に配流）   中国風 ↳ 「<b>風信帖</b>」（812年、空海が最澄へ送った書状）   の書体 cf. 「<b>久隔帖</b>」（813年、最澄が弟子の素範へ送った書状）
文学	〔勅撰漢詩文集〕（天皇の命により撰定・編集された漢詩文集）   『<b>凌雲集</b>』（嵯峨天皇の命で小野岑守らが編集した<b>最初の勅撰漢詩文集</b>）   『<b>文華秀麗集</b>』（嵯峨天皇の命で藤原冬嗣らが編集した<b>2番目の勅撰漢詩文集</b>）   『<b>経国集</b>』（淳和天皇の命で良岑安世らが編集した<b>3番目の勅撰漢詩文集</b>）   〔私撰漢詩文集・漢詩評論〕   『<b>性霊集</b>』（空海の漢詩文を弟子の真済が編集した漢詩文集）   『<b>菅家文草</b>』（菅原道真の漢詩文集）   『<b>文鏡秘府論</b>』（空海の著した漢詩評論書）   〔その他〕   『<b>日本霊異記</b>』（薬師寺の僧である景戒が著した<b>日本最古の仏教説話集</b>）   『<b>新撰姓氏録</b>』（万多親王が編集した畿内氏族の系譜→氏姓の乱れを正す）
教育	① <b>紀伝道</b>（<b>文章道</b>）（漢詩文・歴史を学ぶ→教授＝<b>文章博士</b>）を重視   ② <b>大学別書</b>（有力貴族が子弟教育のために設置した寄宿舎）   藤原氏＝<b>勸学院</b> ・ 和気氏＝<b>弘文院</b>   在原氏＝<b>奨学院</b> ・ 橘氏＝<b>学館院</b>   ③ <b>綜芸種智院</b>（828年に空海が設立した身分差別を設けない民衆教育機関）



〔室生寺五重塔〕



〔薬師寺僧形八幡神像〕



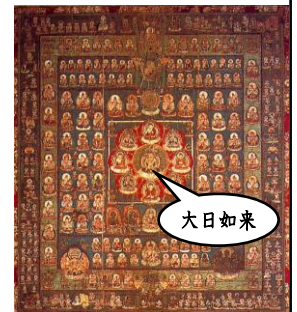
〔観心寺如意輪観音像〕



〔園城寺黄不動〕



〔教王護国寺曼荼羅(金剛界)〕



〔教王護国寺曼荼羅(胎藏界)〕

→文章経国思想に基づき、大学教育で漢詩文が重視される

→貴族は子弟教育を充実させるため、大学近くに宿舎を設置

文化	弘仁・貞観文化(嵯峨・清和天皇)	国風文化(藤原摂関政治)	院政期文化
特徴	嵯峨天皇による唐風文化政策   →唐風文化(晩唐文化)が全盛   →①漢詩文の流行→勅撰漢詩集の編纂   →文章経国思想に基づき、貴族の教養として漢詩文が重視される   →②三筆(唐風の書体)	唐の衰退・嵯峨上皇の死・律令国家の変質→貴族社会の成熟   →唐風文化を基盤に日本的に発展させた日本文化の形成   →①仮名文字の発達   (1) 和歌の隆盛→勅撰和歌集の編纂   (2) 仮名文学の隆盛   →②三蹟(和風の書体)	→継続
仏教	天台宗・真言宗→密教の隆盛   →密教美術(曼荼羅・不動明王像)	→末法思想の影響→浄土教の隆盛   →浄土教美術(阿弥陀堂・阿弥陀如来像・来迎図)	→聖による布教で   浄土教地方伝播
生活	唐風の衣服・建築	日本的な衣服・建築(束帯・衣冠・寝殿造など)	

浄土教の影響	建築	〔<b>阿弥陀堂</b>〕(阿弥陀如来を安置する堂)   <b>法成寺</b>無量寿院 (1020年に<b>藤原道長</b>が建立→現存せず)   <b>平等院鳳凰堂</b> (1053年に<b>藤原頼通</b>が建立)   <b>法界寺</b>阿弥陀堂 (1051年に日野資業が建立)
	彫刻	〔<b>寄木造</b>〕(仏像の各部を別々に制作し、組み合わせる彫法→<b>定朝</b>が大成)   <b>平等院鳳凰堂</b>阿弥陀如来像 (制作＝<b>定朝</b>)   <b>法界寺</b>阿弥陀如来像 <b>寄木造</b>(大量生産のためパーツごとに造る)   <b>浄瑠璃寺</b>阿弥陀如来像 → <u>阿弥陀如来像の需要を満たすため</u>
	絵	〔<b>来迎図</b>〕(阿弥陀如来が臨終の人を迎えに来る姿を描いたもの)   ex. <b>高野山聖衆来迎図</b>
日本風文化の形成	画	〔<b>大和絵</b>〕(唐絵に対する日本の風物を題材にした日本風絵画の総称)   絵師＝<b>巨勢金岡</b>(大和絵の祖)・<b>百済河成</b> → のち、絵巻物に発展
	工芸	〔<b>蒔絵</b>〕(漆を塗った漆器に、金粉や銀粉を蒔いて文様を描く技法)   〔<b>螺鈿</b>〕(夜光貝・あわび貝などの貝片を漆地や木地にほめこむ手法)
	書道	<b>三蹟</b>＝<b>小野道風</b>「<b>秋萩帖</b>」(小野道風の書と伝わる)   日本風 <b>藤原佐理</b>「<b>離洛帖</b>」(大宰大貳の赴任途中にあてた書状)   の書体 <b>藤原行成</b>「<b>白氏詩卷</b>」(世尊寺流の祖とされる)
文	学	―――〔<b>かな文字の発達</b>〕―――   漢字 → <b>万葉仮名</b> → <b>平仮名</b>(草書体を簡略化)   (真名) (漢字の音・訓を用いる) → <b>片仮名</b>(漢字の一部から)
		〔<b>勅撰和歌集</b>〕(天皇の命により撰定・編纂された和歌集)   『<b>古今和歌集</b>』(最初の勅撰和歌集→「<b>八代集</b>」の最初)   905年に醍醐天皇の命で、<b>紀貫之</b>・<b>紀友則</b>・<b>凡河内躬恒</b>らが編纂   →序文＝平仮名による<b>仮名序</b>(<b>紀貫之</b>之作)と漢字による<b>真名序</b>(<b>紀淑望</b>)がある   〔物語〕   『<b>竹取物語</b>』(かぐや姫などを描いた最古の物語文学)   『<b>伊勢物語</b>』(主人公の在原業平の恋愛談を中心とした短編歌物語集)   ★<b>六歌仙</b>(在原業平・僧正遍昭・小野小町・喜撰・文国・康秀・大友黒主)   『<b>大和物語</b>』(伝説・説話集的性格の強い歌物語)   『<b>宇津保物語</b>』(洞穴に住む貧しい一家が、琴の霊力により繁栄する物語)   『<b>落窪物語</b>』(継母にいじめられる落窪姫が、貴公子と結婚し幸福になる物語)   『<b>源氏物語</b>』(紫式部/光源氏の恋愛と薫大将の悲劇を描いた代表的物語文学)   〔日記・随筆〕   『<b>土佐日記</b>』(<b>紀貫之</b>/任期を終えた貫之が土佐から帰京するまでの仮名日記)   『<b>蜻蛉日記</b>』(藤原道綱の母/夫兼家との不和を中心とする結婚生活を描く)   『<b>枕草子</b>』(<b>清少納言</b>/一条天皇の中宮定子に仕えていた頃の宮廷生活を描く)   『<b>和泉式部日記</b>』(和泉式部/敦道親王との恋愛を歌日記風に記した回想記)   『<b>紫式部日記</b>』(紫式部/宮廷での見聞や人物評などを随筆風に記す)   『<b>更級日記</b>』(菅原孝標の女/上総からの帰郷より老境までの一生を回想)
		〔漢詩文〕(貴族の教養として必須)   『<b>本朝文粹</b>』(藤原明衡/今までの優れた漢詩文を集める)   『<b>和漢朗詠集</b>』(藤原公任/和歌と漢詩文の中で朗詠に適したものを編集)   『<b>倭名類聚抄</b>』(源順/百科事典的漢和辞書)



〔平等院鳳凰堂〕



〔平等院鳳凰堂阿弥陀如来像〕 by 定朝



〔高野山聖衆来迎図〕



〔束帯〕



〔女房装束(十二単)〕



〔直衣〕



〔水干〕



〔直垂〕

## 〔生活〕

## ①服装(中国風の衣服から日本風の衣服に)

	男性	女性
正装	束帯・衣冠	女房装束(十二単)
日常着	直衣・狩衣	小袷・袴
庶民着	水干・直垂	小袖・腰布

## ②邸宅

## 寝殿造(平安時代の貴族の住宅)

ex. **東三条邸**(源高明の娘の明子の邸宅)  
**土御門邸**(藤原道長の邸宅)

## ③成人儀式

男子＝**元服**・女子＝**裳着**

## ④年中行事(朝廷で慣例として毎年行われる儀式)

↓ ex. 節会(元日・端午・七夕など)・祈年祭・大祓

## ⑤儀式書(朝廷の儀式・行事のあり方を記したもの)

ex. 『**西宮記**』(源高明)・『**北山抄**』(藤原公任)

## ⑥迷信の流行(陰陽道＝占いなどを研究する学問)

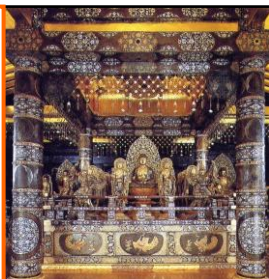
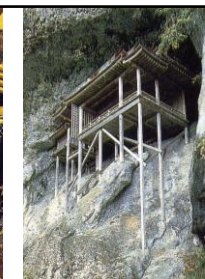
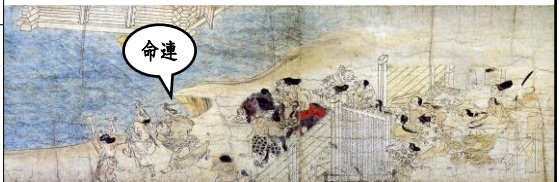
〔**陰陽道**の影響(古代中国の陰陽五行説に基づく)

→ **物忌**(一定期間、特定の建物の中で謹慎する)  
→ **方違**(外出の時忌避すべき方向を避ける)

最古の漢詩集＝『**懷風藻**』・最初の勅撰漢詩集＝『**凌云集**』

最古の和歌集＝『**万葉集**』・最初の勅撰和歌集＝『**古今和歌集**』

## 〔F〕院政期文化

建 築	〔<b>阿弥陀堂</b>〕(阿弥陀堂建築の地方普及) ちゅうぞん じこん じき だう <b>中尊寺金色堂</b> (岩手県〔陸奥国〕) ★<b>藤原清衡</b>が<b>平泉</b>に建立   〔奥州藤原氏〕   きよ ひら → もと ひら → ひで ひら → やす ひら ちゅうぞん じこん じき だう      ちゅうぞん じこん じき だう      ちゅうぞん じこん じき だう      ちゅうぞん じこん じき だう <b>清衡</b>      <b>基衡</b>      <b>秀衡</b>      <b>泰衡</b> (中尊寺金色堂)      (毛越寺)      (無量光院)		
	<b>富貴寺大堂</b> (大分県〔豊後国〕) <b>白水阿弥陀堂</b> (福島県〔陸奥国〕) <b>三仏寺投入堂</b> (鳥取県〔伯耆国〕)	〔中尊寺金色堂(岩手県平泉)〕      〔三仏寺投入堂(鳥取県)〕	
絵	〔<b>装飾経</b>〕(仏教経典に特別な装飾をほどこしたもので、後に寺院に奉納する) 『<b>扇面古写経</b>』(下絵に大和絵で風俗を描き、その上に経文を墨書した古写経) ★大阪<b>四天王寺</b>・東京国立博物館に所蔵されている   『<b>平家納経</b>』(平清盛が一門の繁栄を祈って<b>安芸国厳島神社</b>に奉納した古写経) →参詣のために音戸瀬戸(安芸国)を開削		
	〔<b>絵巻物</b>〕(絵画と文書を交互に記したもの) 『<b>源氏物語絵巻</b>』(絵師=藤原隆能/源氏物語を絵巻物にしたもの) ★引目鉤鼻・吹抜屋台の手法で描く→現在の二千元札に描かれている   『<b>伴大納言絵巻</b>』(絵師=常盤光長/応天門の変(866)を題材にしたもの) 『<b>鳥獣戯画</b>』(絵師=鳥羽僧正覚猷/動物を擬人化して世相を風刺) 『<b>信貴山縁起絵巻</b>』(絵師=鳥羽僧正覚猷/僧命蓮に関する奇跡談を描く)	〔富貴寺大堂(大分県)〕      〔白水阿弥陀堂(福島県)〕	
画			
		〔<b>鳥獣戯画</b>〕 by 鳥羽僧正覚猷	
文 学	〔<b>歴史物語</b>〕(鎌倉文化まで歴史系は一時代ズレるのが特徴) 『<b>栄花(華)物語</b>』(作者=赤染衛門?/藤原道長の栄華を賛美して記述) 『<b>大鏡</b>』(大宅世継と夏山繁樹の対談形式で、藤原道長の栄華を批判的に記述) 〔<b>説話文学</b>〕(民間に伝えられた教訓的な内容) ex. 藤原陳忠 『<b>今昔物語集</b>』(編者=源隆国?/本朝・天竺・震旦の3種類から成る説話文学) 日本 インド 中国   〔<b>軍記物語</b>〕(10世紀頃から本格的な争いが起きたことが背景) 『<b>将門記</b>』(平将門の乱を題材にした軍記物語) 『<b>陸奥話記</b>』(前九年の役を題材にした軍記物語) 後三年の役の『<b>後三年合戦絵巻</b>』は<b>南北朝時代</b>   〔<b>歌謡</b>〕 <b>今様</b> (貴族も愛好した現代歌謡) <b>白拍子</b>(遊女)の間で広まる <b>催馬楽</b> (貴族も愛好した古代歌謡) →『<b>梁塵秘抄</b>』(後白河法皇が当時流行した今様・催馬楽などを集成)		
		〔<b>源氏物語絵巻</b>〕 by 藤原隆能      〔<b>扇面古写経</b>〕	

## □ 今様『梁塵秘抄』by 後白河法皇

仏は常に在せども、①現ならぬぞあはれなる、人の音せぬ曉に、仄かに夢に見えたまふ  
 遊びをせむとや生まれけむ、戯れせむとや生まれけむ、遊ぶ子供の声聞けば、我が身さへこそ②動がるれ  
 〔①姿として現実に現れない ②導く心うたれる、または仏の姿をおがめず悲しい、と解する二様ある ③自然におどり動きたくなる〕

## 〔NOTE〕

## 《三浦知良－カズ－》

サッカー選手として、そして一人の人間として僕は三浦知良を尊敬している。最近では欧州で活躍する海外組の選手達が脚光を浴びているが、僕の小学校の頃のヒーローは何と言ってもカズだった。当時のカズは J リーグ草創期を象徴するスターだった。華々しいプレーは観るものを魅了し、そしてここぞという時に決めてくれる偉大なストライカーだった。もちろん、今現在も横浜 F C で現役としてプレーしている。ただ、やはり全盛期のようなキレはあまり見られなくなってしまった。それでも僕は、その全盛期の頃のカズと今のカズでは、今のカズの方が人を魅了する選手だと思っている。

高校一年の時学校を中退し、ブラジルでプロとなり、数クラブを渡り歩きあのベレのいた名門サントス FC でレギュラーを担っていたカズは 1990 年、日本に帰国した。そのまま、ヨーロッパに出て行くことも出来ただろうが、まだ、プロリーグさえなかった日本に彼は戻ってきたのだ、「日本を W 杯に連れて行くために帰ってきました」これが、カズの日本帰国の第一声だ。今現在の日本代表を見ると想像できないかもしれないが、その当時の日本代表はアジアの中でも決して強いチームではなかった。その日本を W 杯に連れて行く、それは簡単に言えることではない。自らに責任というプレッシャーをわざとかけていたのではないだろうか。やがて J リーグが開幕し、初代 J リーグ MVP を獲得したカズだったが、夢である W 杯出場は本当にあと一步のところまで届かなかった。有名な「ドーハの悲劇」、ロスタイム残りあと 1 分さえ凌ぎきれば W 杯が決まるところだった。しかし悪夢のようなロスタイム、イラクのゴールによって日本代表は W 杯への出場権を得ることはできなかった。彼が掴みかけていた夢はすりと逃げていってしまった。

その後、イタリアセリエ A へと舞台を移したカズは結果を残すことはできなかったが、日本に帰ってきたその翌年、彼は J リーグ得点王となっている。次のフランス W 杯の時には彼は 30 歳になる、それだけラストチャンスにかける意気込みもあったのだと思う。

1997 年、最後のチャンス、フランス W 杯のアジア予選が始まった。カズは初戦のウズベキスタン戦で 4 得点を挙げ、見事に結果を残した。しかし、その後怪我の回復具合が思わしくないなど、彼はゴールを決めることが出来なかった。日本の苦戦と共に、点の取れないカズへの批判は徐々に増していった。何とかイランとのアジア第 3 代表決定戦にまわった日本は延長後半、岡野雅行(当時浦和レッズ)のゴールによって W 杯への出場権をもぎ取る。カズにとっても 8 年かけてやっと掴んだ W 杯への出場権であった。

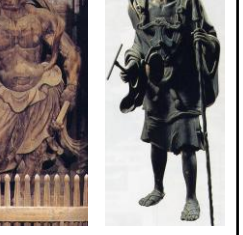
1998 年 5 月、日本代表監督である岡田武史はフランスへ向かう代表 25 人を発表した。その中にはカズの名前があった、正直ホッとした。実はこの時、カズは年齢限界説や、足の怪我の回復が思わしくないなど、当落線上にいと噂になっていたからだ。5 月 27 日、日本代表は直前合宿が行われるスイスへ出発した。この合宿の後、W 杯に出場する最終登録メンバー 22 人が発表される。もしかしてその外れる 3 人にカズが入ってしまうのではないかと、といった不安もあった。しかし、この時の代表についてのコメントをしたジーコも「カズのような経験のある選手はこういった大舞台でこそ代えの効かない最も重要な選手なんだ、私が現役時代そうだったようにね」というように、代表から外れるといったことは考えられなかった。だが、その選考当日 6 月 2 日、岡田武史が発表した言葉に僕は耳を疑うしかなかった、「外れるメンバーは市川、カズ、三浦カズ、北沢の 3 選手です。」

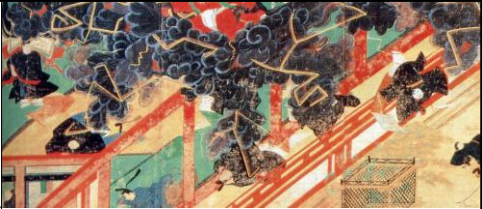
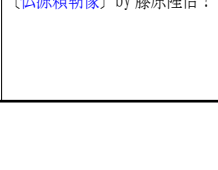
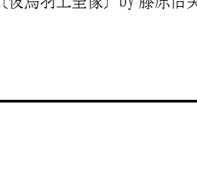
カズは北沢と共に日本に帰国することになった。どれだけ辛かったかというのは、正直僕も想像が出来ない。日本サッカーのため、ブラジルから帰国し、J リーグを盛り上げ、ドーハの悲劇を経験し、それでも夢である W 杯を目指し、そして 4 年後出場権をようやく得た。それにもかかわらず、W 杯のピッチに立つことは出来なかったのだ。それもフランスの隣国スイスにまで来ていながら…。

しかし、帰国したカズと北沢を待っていたものは、マスメディアへの会見だった。2 人に対しいろいろな質問が飛び交う。「岡田監督から話を聞いた際、どのようなことが頭をよぎったか?」「いま挫折感を味わっているか?」質問をするレポーター達を殺してやりたいと思った。そんな中、カズは文句の一つも言わず、丁寧に応対した。そして「向こう(フランス)に自分の魂みたいなものは置いてきたと思っている。」と最後に結んだ…。正直文句の一つくらい言って欲しかった。でも、言いたい事は山ほどあるはずなのにカズも、そして北沢も文句を何一つ言わなかった。それとも辛くて言えなかったのかもしれない。

この後、彼がこの事をどう考え、どう乗り越えていったのかはわからない。それはカズ本人が話していないから。でも、一つだけ僕にわかるのは、カズが今とってもいい顔をしているということ。見た目のかっこよさとかじゃないんだ。なんか、ほんとこんな人になりたいなって思う。これまでも本当に辛くて、逃げ出したくなった時もあった。将来もしかしてこれまでも以上に辛いことがあるかもしれない。でも、それを乗り越えた時、人としてもう一つ大きくなれるんだって感じる。そんな風に思わせてくれる人。



特徴	①<u>公武二元文化</u> (公家の伝統的文化と武士の新しい文化)                  ②<u>宋・元の新しい中国文化の導入</u> (禅宗の伝来など)                  ③<u>庶民文化の成長</u>			
建築	<u>東大寺南大門</u> = <u>大仏様</u> (天竺様) ★<u>平重衡</u>の南都 (東大寺・興福寺) 焼打ち (1180)                  ★<u>源頼朝</u>による東大寺再建事業 (<u>重源</u> (勅進職) の指導・<u>陳和剛</u> [宋の工人] の協力)  <u>円覚寺舍利殿</u> = <u>禅宗様</u> (唐様) ↳ 大仏の首を修復  <u>蓮華王院本堂</u> = <u>和様</u> (平安時代からの日本風建築様式)                  ★<u>三十三間堂</u>ともよばれる (蓮華王院は後白河天皇の命で<u>平清盛</u>が創建)                  ★その他の和様建築 = <u>石山寺多宝塔</u>・<u>秋篠寺本堂</u>・<u>興福寺北円堂</u>  <u>観心寺金堂</u> = <u>折衷様</u> (新和様) (大仏様・禅宗様に和様を取り入れる)			
彫刻	<u>東大寺南大門金剛力士像</u> (<u>運慶</u>・<u>快慶</u>・<u>湛慶</u>)  <u>東大寺僧形八幡神像</u> (<u>快慶</u>)  <u>興福寺無著・世親像</u> (<u>運慶</u>)  <u>興福寺天灯鬼・竜灯鬼</u> (<u>康弁</u>)  <u>六波羅蜜寺空也上人像</u> (<u>康勝</u>)  <u>東大寺重源上人像</u> (運慶一派の作と推定される)  <u>鎌倉名月院上杉重房像</u> (奈良仏師に属さない人物が作成)		〔奈良仏師 (慶派) の系譜〕  <pre>                 定朝 --- 康慶 --- 運慶 (東大寺金剛力士像) --- 湛慶 (東大寺金剛力士像)                                    (興福寺無著・世親像)                                                                          --- 康弁 (興福寺天灯鬼・竜灯鬼)                                                                          --- 康勝 (六波羅蜜寺空也上人像)                                                                          --- 快慶 (東大寺金剛力士像)             </pre>	
肖像画	① <u>似絵</u> (写実的な大和絵の肖像画) = 禅宗以外の肖像画                  子供 <u>藤原隆信</u> 『源頼朝像 (伝) ・ 平重盛像 (伝)』                  子供 <u>藤原信実</u> 『後鳥羽上皇像』                  専 <u>阿弥陀仏</u> 『親鸞聖人像』 (鏡の御影と呼ばれる)                  成 <u>忍</u> 『明恵上人樹上坐禅図』 <u>明恵</u> = <u>高弁</u> (華嚴宗)                  ② <u>頂相</u> (禅宗で、修行僧が一人前になった時、師から与えられる師の肖像画)			
絵画	伝記物                  『<u>一遍上人絵伝</u>』 (<u>円伊</u> / <u>備前国</u> (岡山県) 福岡市の様子が描かれている)                  『<u>法然上人絵伝</u>』 (<u>土佐主光</u> / 法然の生涯を描く)                  縁起物                  『<u>北野天神縁起絵巻</u>』 (<u>藤原信実</u> / <u>菅原道真</u>の生涯と寺社の由来を描く)                  『<u>粉河寺縁起絵巻</u>』 (作者不詳 / 粉河寺の重縁談を描く)                  『<u>石山寺縁起絵巻</u>』 (<u>高階隆兼</u> / 石山寺の重縁談を描く)                  『<u>春日権現験記</u>』 (<u>高階隆兼</u> / 鎌倉時代の建築現場の様子を描く)                  六道絵                  『<u>地獄草紙</u>』 (地獄の場面を描いた六道絵巻の一つ) 六道…                  『<u>餓鬼草紙</u>』 (餓鬼の苦しみを描いた六道絵巻の一つ) 地獄・餓鬼・畜生                  『<u>病草紙</u>』 (病の苦しみなどを描いた六道絵巻の一種) 修羅・人間・天上                  合戦物                  『<u>平治物語絵巻</u>』 (平治の乱を題材にした合戦絵巻)                  『<u>蒙古襲来絵巻 (詞)</u>』 (肥後の御家人 <u>竹崎季長</u>が描かせる)                  『<u>男衾三郎絵巻</u>』 (武蔵国の武士の生活を描く → <u>空閑</u>の様子が有名)                  『<u>後三平合戦絵巻</u>』 は <u>南北朝時代</u>に成立			
工芸・書道	① 刀工 = <u>粟田口吉光</u> (京都)・<u>長船長光</u> (備前)・<u>岡崎正宗</u> (鎌倉)                  ② 甲冑 = <u>明珍</u> (京都の甲冑製作の名家)                  ③ 陶器 = <u>加藤景正</u> (源元に倣って入宋し陶法を学び、尾張の<u>瀬戸焼</u>の祖となる?)                  ④ 書道 = <u>尊円入道親王</u> (伏見天皇皇子 / <u>青蓮院流</u>を創始し、『<u>鷹巢帖</u>』を書く)                  ★<u>世尊寺流</u> (国風文化に藤原行成が創始した流派) を学び、江戸時代に<u>御家流</u>へ発展			

文 学	古典研究	<u>有職故実</u> (ゆうしやくこじつ) (朝廷の儀式や年中行事を研究する学問)   『<u>禁秘抄</u>』 (きんひさう) (順徳天皇の有職故実書) 武家政権の隆盛により [古典注釈書] 公家政権の支配が後退   『<u>和歌集</u>』 (わかしゆ) (卜部兼方が著した『日本書紀』の注釈書) 昔を懐かしむようになら   『<u>万葉集註釈</u>』 (まんやふしゆ) (仙覚が著した『万葉集』の注釈書) → 有職故実・古典の研究	
	和歌集	[勅撰和歌集] (天皇の命により撰定・編集された和歌集)   『<u>新古今和歌集</u>』 (しんきんわかしゆ) (1205) 後鳥羽上皇の命で藤原定家・家隆らが編集した勅撰和歌集 (『八代集』の最後) ★明月記 (藤原定家の日記) → 『<u>寛喜の飢饉</u>』 (1231) について記す   [私撰和歌集] 『<u>金槐和歌集</u>』 (きんくわい) (源実朝/格調高い万葉調の歌を詠む) 陳和卿の勧めで学問留学のための渡宋を計画 『<u>山家集</u>』 (さんけ) (西行 [もと北面の武士] / 隠者となり、諸国をまわり歌を詠む)	[北野天神縁起絵巻]    [春日権現験記]  
	随筆	『<u>方丈記</u>』 (ほうじょうき) (鴨長明 [鎌倉初期] / 天変地異を体験して世の無常を嘆く)   『<u>徒然草</u>』 (たらなそう) (吉田 [卜部] 兼好 [鎌倉後期] / 自然・人間・社会を深い洞察力で描く)	
	紀行文・日記	『<u>海道記</u>』 (かいどうき) (作者不詳/京都・鎌倉間の紀行文)   『<u>東関紀行</u>』 (とうかんきぎょう) (源親行?/京都・鎌倉間の紀行文)   『<u>十六夜日記</u>』 (じゅうろくやにっぴ) (阿仏尼/息子の所領訴訟解決のため、京都から鎌倉に赴く紀行文)   『<u>玉葉</u>』 (たまは) (九条兼実/平氏最盛期～幕府成立までを知る史料的な意味の濃い日記)	[蒙古襲来絵詞] 騎馬武将=竹崎季長  
	歴史書	『<u>今鏡</u>』 (けい) (藤原為経?/藤原頼通～基房までの歴史を記す)   『<u>水鏡</u>』 (すい) (中山忠親?/神武～仁明天皇までの歴史を記す)   『<u>吾妻鏡</u>』 (ごまがき) (作者不詳/鎌倉幕府の記録を日記の体裁をとり編年体で記す)   『<u>愚管抄</u>』 (ぐくわう) (隠 [天台座主] / 末法思想と道理による歴史観) → 承久の乱前に後鳥羽上皇に提出し、討幕挙兵を諫める ★道理 = 社会的に正しいと認められた物事の筋道 (規範) → 歴史を動かすものは道理であり、 道理の衰退 = 歴史の衰退であると説く   『<u>元亨釈書</u>』 (げんこうしやくしよ) (虎関師錬/日本最初の日本仏教歴史書)	[男倉三郎絵巻] 笠懸の様子   
	軍記物語	『<u>保元物語</u>』 (へいげんものがたり) (作者不詳/鎮西八郎と呼ばれた源為朝の活躍を中心に保元の乱を描く)   『<u>平治物語</u>』 (へいぎのものがたり) (作者不詳/源義朝の子の義平を英雄的に平治の乱を描く)   『<u>平家物語</u>』 (へいけものがたり) (信濃前司行長?/琵琶法師による琵琶の伴奏で語る平曲で庶民に流行)   『<u>源平盛衰記</u>』 (げんへいせいざい) (作者不詳/『平家物語』を増補したもの)	[一遍上人絵伝] by 円伊 備前国(岡山県)福岡市の様子   
学 問	説話集	『<u>十訓抄</u>』 (じっしんしょう) (作者不詳/年少者の修養のため、仏教的教訓にあたる説話を集める)   『<u>沙石集</u>』 (させきしゆ) (無住/庶民的・地方的な説話を集めた仏教説話集)   『<u>古今著聞集</u>』 (ここんしやくもんしゆ) (橘成季/神祇・政道・忠臣など古今の説話を集める)   『<u>宇治拾遺物語</u>』 (うじしゆいものがたり) (作者不詳/『今昔物語集』の後を追った説話集)	
	図書館	[私設図書館] 金沢文庫 (評定衆として幕政に参加した北条 [金沢] 実時が設立した私設図書館) ★自分の蔵書を公開して武蔵国六浦荘の称名寺 (金沢氏の菩提寺) 境内に設置 ↳ 鎌倉の外港として繁栄	[伝源頼朝像] by 藤原隆信? (後鳥羽上皇像) by 藤原信実   

特徴	南北朝文化(建武新政～南北朝) 南北朝の動乱を背景に発達	北山文化(足利義満＝幕府全盛期) ①武家文化が伝統的な公家文化を基礎に発展／②元・明の禅宗文化の影響
文学	〔歴史書・軍記物語〕   『<b>神皇正統記</b>』(伊勢神道の理論に基づき、常陸国小田城で北畠親房が著した南朝側(後村上天皇)の正統性を説いた歴史書)   『<b>梅松論</b>』(北朝側(足利幕府)の正統性を説いた歴史書)   『<b>増鏡</b>』(公家の立場から鎌倉時代の歴史を記述した歴史書)   『<b>太平記</b>』(小島法師が著したといわれる南北朝を題材にした軍記物語) → 『<b>難太平記</b>』(今川貞世(了俊)(九州探題)が著した歴史書)   ★南朝に同情的な記述が多い(江戸時代に太平記説で普及)   〔連歌〕(和歌の上の句と下の句を別の人が交互に読み合わせる)   『<b>菟玖波集</b>』(二条良基が著した最初の連歌集→連歌謡となる)   『<b>応安新式</b>』(二条良基が著した連歌の規則書)   〔有職故実〕(朝廷の儀式や年中行事を研究する学問)   『<b>建武年中行事</b>』(後醍醐天皇が著した有職故実書)   『<b>職原抄</b>』(北畠親房が著した有職故実書)	〔五山文学〕(五山の禅僧を中心に発達した漢文学・漢詩文の総称)   五山版(五山の禅僧によって出版された書籍)の出版   → 義堂周信(南禅寺の五山文学僧→漢詩文集『空華集』)   → 絶海中津(相国寺の五山文学僧)   〔歴史書・軍記物語〕   『<b>難太平記</b>』(今川貞世(了俊)(九州探題)が著した歴史書)   『太平記』中の足利尊氏に関する誤りなどを訂正
建築	〔田楽〕   〔同朋衆〕   〔太平記説〕   〔能の興行風景〕   〔風流踊り〕	①<b>鹿苑寺金閣</b>(足利義満[3代將軍]が建立した3層の楼閣)   (1層)寝殿造・(2層)和様・(3層)禅宗様       〔<b>鹿苑寺金閣</b>〕by 足利義満 〔<b>慈照寺銀閣</b>〕by 足利義政
絵画	水墨画(草創期)〔禅の精神を墨の濃淡による墨一色で描く〕   黙庵(画僧)『<b>有袋図</b>』   可翁(画僧)『<b>寒山図</b>』   初期の水墨画は禅宗の僧が修行の一環として描く程度のものであった	〔水墨画(確立期)〕(まだこの時期も禅宗の制約が強い)   明兆(東福寺の画僧) → 如拙(相国寺の画僧) → 周文(相国寺の画僧)   『<b>五百羅漢図</b>』 『<b>瓢鮎図</b>』 『<b>寒山拾得図</b>』   ヒョウタンでナマズを獲れという禅宗の公案を示している
芸能	〔能(能楽)〕(猿楽・田楽から発達した演劇)   <b>図解 NOTE 〔能楽の発達〕</b>   飛鳥時代 伎楽(百済から伝わった仮面を用いた舞踊)   奈良時代 散楽(唐から伝わった滑稽な物まね芸)   ↓   平安時代 猿楽(物まね) 田楽(田植えの際にする踊り)   ↓   芸として専門的に演じる者が登場   → 演劇(能)としての仕組みを整える   ↓   猿楽能 &lt;.....&gt; 田楽能   ↓ (田楽の要素を取り入れる)	〔猿楽能〕(寺社の保護を受けて座を結成)   〔大和猿楽四座(本所=興福寺)〕   観世座(もと結崎座)・金春座・宝生座・金剛座   ↓   〔猿楽能〕(足利義満[3代將軍]の保護を受けて観阿弥・世阿弥が大成)   観阿弥清次(父) 將軍の同朋衆(阿弥号を持つ時宗の信者が多い)   世阿弥元清(子) 將軍に芸能・雑役などで従事する集団   『<b>風姿花伝(花伝書)</b>』(能作論・演出法などを記した能の伝書)   『<b>花鏡</b>』(『風姿花伝』に続き、嫡子の元雅に伝えた能の伝書)   『<b>申楽談儀</b>』(世阿弥の能楽に関する秘伝を二男の元能が筆録)   ★謡曲(能の脚本のこと→観阿弥・世阿弥の作が多い)   ★狂言(能の合間に演じられ、猿楽や田楽の物真似を受け継ぐ)

□ 能一能楽論一『花鏡』by 世阿弥

風刺性の強い喜劇として庶民にもてはやされたが、しばしば上演停止になった

幽玄の④風体の事

書道諸事において幽玄なるをもて②上果とせり。ことさら④当芸において、幽玄の風体第一とせり。……

そもそも幽玄の④塙とは、まことにはいかなる所にてあるべきやらん。……ただ美しく柔和なる体、幽玄の本体なり。……

〔①芸風 ②最高の境地 ③能 ④境地〕

特徴	<b>東山文化(足利義政=応仁の乱期)</b> ①「簡素」で「幽玄」な伝統的な日本文化の形成／② <b>応仁の乱</b> による中央文化の地方普及と民衆化が進む	
文	<b>[学問]</b> ① <b>一条兼良</b> (関白・太政大臣となった当代随一の学者／子は尋尊) 『公事根源』(有職故実書) 『花鳥余情』(源氏物語)の注釈書 『樵談治要』(足利義尚 [9代將軍] の問いに答えた政治意見書) ② <b>古今伝授</b> 『古今和歌集』の故事・解釈などの秘事を口伝文書ではなく <b>東常縁</b> → <b>宗祇</b> → <b>三条西実隆</b> 口頭で伝える → <b>[連歌]</b> (和歌の上の句と下の句を別の人が交互に読み合わせる) ① <b>宗祇</b> (正風連歌を確立) = 連歌を大成 『新撰菟玖波集』(宗祇が編集した準勅撰の連歌集) 『水無瀬三吟百韻』(宗祇・肖柏・宗長の3人が詠んだ百韻の連歌) ② <b>山崎宗鑑</b> (俳諧連歌の祖) = 俳句の元祖(五七五で終わらせる) 『大筑波集』(山崎宗鑑が編集した俳諧連歌集)	<b>[教育]</b> ① <b>足利学校</b> (上杉憲実 [関東管領] が再興した学校施設) → 設立したは× <b>フランシスコ・ザビエル</b> から「坂東の大学」と称される ② 儒学の普及(地方伝播) <b>桂庵玄樹</b> (薩摩の <b>島津氏</b> , 肥後の <b>菊池氏</b> に招かれる→ <b>薩南学派</b> の祖) <b>南村梅軒</b> (土佐の <b>吉良氏</b> に招かれる→ <b>海南学派</b> (南学派)の祖となる) ③ その他(この時代の庶民教育は寺で行われることが多かった) 『 <b>庭訓往来</b> 』(玄恵が作者と言われる往来物(書簡形式)の庶民教科書) ★ <b>往来物</b> (往復一対の手紙形式の教科書) その他の初等教科書…『 <b>童子教</b> 』・『 <b>実語教</b> 』(寺子屋で使用) 『 <b>節用集</b> 』(頼朝屋宗二が刊行したと言われる国語辞典)
建築	① <b>慈照寺銀閣</b> (足利義政 [8代將軍] が建立した2層の楼閣) (1層)書院造・(2層)禅宗様 ② <b>慈照寺東求堂同仁斎</b> (書院造による足利義政の書斎) ★書院造 (明障子・付書院・連い棚などを持つ室町時代の住宅建築様式) ③ 回遊式庭園 (一巡することによりいろいろな風景を鑑賞できる庭園) 慈照寺庭園(善阿弥)・西芳寺庭園(苔寺)(夢窓疎石) ★作庭師=山水河原者 ex. 善阿弥 (義政から天下第一と称えられた作庭) ④ <b>枯山水</b> (岩石と砂利による象徴的な自然をつくりだした禅宗風の庭園) <b>龍安寺石庭</b> ・ <b>大徳寺大仙院庭園</b>	  〔龍安寺石庭〕 〔大徳寺大仙院庭園〕    〔慈照寺東求堂同仁斎〕 〔四季山水図巻(山水長巻)〕 by 雪舟
絵画	<b>[水墨画(大成期)]</b> <b>雪舟</b> (日本の水墨山水画を大成)→従来の禅宗とは関係のない作品を描く 『四季山水図巻(山水長巻)』 (禅宗の制約を乗り越える) 『秋冬山水図』・『天橋立図』 <b>[大和絵]</b> (唐絵に対する日本の風物を題材にした日本風絵画の総称) ① <b>土佐派</b> (室町中期以降の大和絵の一派) <b>土佐光信</b> (官廷絵所預や幕府絵所預となり、土佐派の地位を確立) ② <b>狩野派</b> (水墨画に大和絵の手法を取り入れる) <b>大和絵+水墨画</b> <b>狩野正信</b> (狩野派の始祖) 『周茂叔愛蓮図』 <b>狩野元信</b> (狩野派を大成) 『大仙院花鳥図』 <b>幕府御用絵師</b>	  〔瓢鮎図〕 by 如拙 〔大仙院花鳥図〕 by 狩野元信   ヒョウタンを持つオッサン ナマズ
芸能	<b>[茶道(茶の湯)]</b> → 鎌倉文化期に <b>栄西</b> が中国から抹茶を伝える ex. 『喫茶養生記』(源実朝 [3代將軍] に献上) ① 南北朝文化 <b>茶寄合</b> (多人数で開かれた娯楽的な茶会) ↓ <b>閑茶</b> (茶の種類や産地を飲みあてる競技) 利き茶 ② 東山文化 <b>侘び茶</b> (茶に禅宗の精神を取り入れる閑寂な茶) <b>村田珠光</b> → <b>武野紹鷗</b> → (千利休) (侘び茶を創始) (侘び茶を簡素化) (侘び茶を大成) 大徳寺の <b>一休宗純</b> から禅を学び、禅の精神を茶道に取り入れる <b>[花道(華道)]</b> <b>立花</b> (仏前に添える花から発展した生け花の様式) <b>池坊専慶</b> → <b>池坊専応</b> → <b>池坊専好</b> (池坊花道の祖) <b>[金工(刀に装飾をする)]</b> <b>後藤祐祐</b> (足利義政に仕える)	<b>〔庶民文芸〕</b> ① <b>幸若舞</b> (桃井直詮(幸若丸)が創始し、織田信長も愛好した舞) ② <b>風流踊り</b> (華美な風体で踊る) <b>念仏踊り</b> (念仏を唱えて踊る) <b>盆踊り</b> (盆に歌謡にあわせて踊る) ③ <b>小歌</b> (庶民に広く流行した民間歌謡) 『 <b>閑吟集</b> 』(1518年に成立した小歌集) = 小歌ヒットソング集 ④ <b>御伽草子</b> (室町時代の庶民的な短編物語) = 庶民の台頭を示す ex. 『浦島太郎』・『一寸法師』・『物くさ太郎』

特徴	桃山文化		
	①新興武家や富裕な豪商らが担い手で豪華・壮大 (桃山＝豊臣秀吉晩年の居城である伏見城の跡地) / ②南蛮文化の影響		
建築	城郭	じょうかく てんしゅかく ほんまる [城郭] (壮麗な天守閣を持つ本丸を中心に、二の丸、三の丸などを配した建築様式)   てんしゅかく 天守閣 (城郭の中心部の本丸にある高層の楼閣)   きょく かん 居館 (城郭の内部に設けられた書院造による大名の住居)   ★欄間 (居館内部に用いられた鴨居と天井の間にはめ込まれた格子や透し彫の板)   [代表的な城郭] 聚楽第は豊臣秀次死後に破壊され、大半が伏見城に、一部が寺院に移築された   犬山城 (現存最古の天守閣) → しかし、伏見城も江戸幕府の命により破壊され、一部が寺院に移築された   安土城 (織田信長が1576年に築城)   大坂城 (豊臣秀吉が1583年に築城)   聚楽第 (秀吉晩年の邸宅を兼ねた城郭) (聚楽第の遺構) → 西本願寺飛雲閣   ★1588年に後陽成天皇が行幸 (伏見城の遺構) → 大徳寺唐門   伏見城 (秀吉晩年の邸宅を兼ねた城郭) → 西本願寺書院(鴻の間)・唐門   姫路城 (白鷺城とも呼ばれる池田輝政が改築した平山城) → 都久夫須麻神社本殿・唐門	[築城法]   山城 → 平山城 → 平城 (領国経営の政治面が重視されたため)    [姫路城]
	障壁画	[障壁画] (屏風・障子・襖などに描かれた絵画)   水墨画 (墨の濃淡による墨一色で描いた障壁画)   濃絵 (金碧に青・緑などの濃彩で描いた障壁画)   金箔の上から青・緑などの濃い色の絵の具で塗り重ねる   狩野永徳 (狩野元信の孫)   『唐獅子図屏風』(金碧画)・『檜図屏風』(金碧画)   狩野山楽 (狩野永徳の門人)   『牡丹図』(金碧画)・『松鷹図』(水墨画)   長谷川等伯 (雪舟5代を自称)   『智積院襖絵』(金碧画)・『松林図屏風』(水墨画)   海北友松 (浅井長政の重臣の子)   『山水図屏風』(水墨画)	風俗画 (日常生活など市井の風俗を題材とした絵画)   狩野永徳『洛中洛外図屏風』   織田信長が上杉謙信に贈った京都内外を描いた屏風   狩野長信『花下游楽図屏風』   狩野吉信『職人尽図屏風』   狩野秀頼『高雄観楓図屏風』   宣教師が南蛮文化を理解させるために狩野派に描かせた   [南蛮屏風] (南蛮人や南蛮人の風俗を主題とした風俗画屏風)   『世界地図屏風』・『泰西王侯騎馬図屏風』   狩野派   正信 — 元信 — ○ — 永徳 — 山楽 (永徳の門人) 長信 — ○ — 探幽
芸能	茶道	[茶道(茶の湯)]   千利休(宗易) (堺の豪商出身) が侘び茶を大成 ★織田信長・豊臣秀吉に仕え、「天下一の茶匠」とうたわれたが、京都の陶工   ★妙喜庵侍庵 (千利休が造作した2畳の草庵風茶室) 長次郎に命じて楽焼を作らせたことなどにより、秀吉と対立し切腹させられた   cf. 如庵 (織田有楽斎(織田信長の弟)が造作した茶室)   [大名による茶道保護]   ①古田織部 (千利休の高弟でもある茶人の大名→武家的茶道を成立)   ②北野大茶会 (1587年に豊臣秀吉が京都の北野神社で行った大茶会)   ★三宗匠 (千利休・今井宗久・津田宗及) らが参加   ③お国焼 (朝鮮出兵で諸大名が連れ帰った朝鮮人陶工による陶磁器)   鍋島氏＝有田焼 (李参平)・毛利氏＝萩焼 (本幻光・本政)   松浦氏＝平戸焼 (巨開)・島津氏＝薩摩焼 (金海・朴平彦)	[活字印刷術]   ①活字印刷術(朝鮮式)   ★朝鮮出兵の際に伝えられた主に木活字を用いた印刷   →慶長勅版 (後陽成天皇の命で出版された最初の活字本)   ②活字印刷術(ヨーロッパ式)(ローマ字の構成)   ★宣教師ヴァリニャーニが伝えた主に銅活字を用いた印刷   →キリシタン版(天草版) (イエズス会による出版物)   『どちらになきりしたん』(キリシタン入門書)   『天草版平家物語』(ローマ字記述の平家物語)   『天草版伊曽保物語』(ローマ字記述の伊曽保物語)   『日葡辞書』(日本語をポルトガル語で説明した辞書)
	印刷	[歌謡]   隆達節 (高三隆達(堺の商人)が節付けした小歌)の流行   →当時流行していた小歌に節(旋律＝作曲)を付ける   [歌舞伎]   阿国歌舞伎 (出雲阿国(出雲大社の巫女)が創始したかぶき踊り)   ★京都でかぶき踊りを創始したあと、北野神社などで勧進興行を行った   [人形浄瑠璃] (三味線を伴奏に取り入れ、浄瑠璃節と人形操りが結合したもの)   人形浄瑠璃 (浄瑠璃節＋人形操り＋三味線(琉球伝来の蛇皮線から発達))	
その他			

《 母が僕にしてくれた話～帰ってきたアスラ～ 》

以前、母が僕にしてくれた話です。ずいぶん昔の話になりますが、母が学生のころの話です。当時、家は小さくありませんでしたが犬のシェパードを飼っていました(アスラと言います)。非常に賢く、真っ黒な毛並みを持ち、母と祖母になついていたのですが、友人に賢いのだから訓練所に預けてみてはどうかと言われ、母と祖母はアスラを埼玉の訓練所に預けることにしました。

最初のうちはそちらにお世話になっていたのですが、ある日、その訓練所からアスラが訓練中に逃げ出してしまった、という連絡がきました。推測ですが、アスラは母と祖母に会いたかったのではないのでしょうか。とにかく、母と祖母は車や自転車で埼玉中を探しました。祖母は仕事があったのですが、それでも探し続けました。一ヶ月…二ヶ月すぎましたが見つかりませんでした。ある日、母が林の中を探していると、遠くにアスラらしき犬を見かけました。驚きながらも母は「アスラ!」と叫びました。しかし、その犬はびっくりしたのか、何故か遠くへ逃げ去ってしまいました。

すっかり気落ちした母は家に帰るとそのことを祖母に話しました。「もうダメだよ、アスラ私だってわからないんだよ。もう探しても無理だよ、もうアスラ帰ってこないよ…。」すると、祖母は「あんた何言ってるのよ、アスラ見たんでしょ?つまり生きてるってことでしょ!生きてるってわかったのなら、なおさら諦めるわけにはいかないでしょ!このままだとアスラが野犬になっちゃうのよ、あんたそれでもいいの?私たちが一緒にいればアスラだってわかるはずよ」と言ったそうです。

その日から二人で一緒に探すことになったのですが、それ以降アスラを見かけることはありませんでした。また、一ヶ月…二ヶ月が過ぎようとしていました…。

諦めかけようとしていたある日の帰り道でした。二人が農道を歩いていると、遠くに汚れた灰色をした犬が道を横切って歩いていた。母は「あれアスラじゃないよね…アスラあんな汚くないもん…」祖母が「いや、アスラよ!きっとアスラよ!」と言ったその瞬間。灰色に汚れた犬がこちらを向き、まっしぐらに駆けてきたのです。その犬は母と祖母に駆けてくると、すごい勢いで飛びついたのでした。

真っ黒だった毛並みは、汚れのせいで灰色になっていました。その帰り道、車の中で普段は泣き声などたてないアスラが泣いていたそうです。

そのアスラは僕が生まれるずっと前に亡くなりました。そして、迷惑ばかりかけつづけたけど、大学に合格したという報告も出来ずに、僕が18の時に祖母も亡くなりました。祖母が亡くなり、自分自身何をしたらよいのかわからず浪人していた頃、気落ちしていた僕に母が話してくれた話です。

そんな我が家ですが、今僕の家には5代目の名前をもらったアスラが暮らしています。

A man is not finished when he is defeated. He is finished when he quits.

「人間は負けたら終わりなのではない。やめたら終わりなのだ。」 R. Nixon



〔唐獅子図屏風〕 by 狩野永徳



〔牡丹図〕 by 狩野山楽



〔松鷹図〕 by 狩野山楽



〔花下遊楽図屏風〕 by 狩野長信



〔智積院襖絵〕 by 長谷川等伯



〔松林図屏風〕 by 長谷川等伯



〔山水図屏風〕 by 海北友松



〔欄間〕



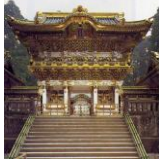
〔阿国歌舞伎〕



〔南蛮屏風〕



〔天草版平家物語〕

特徴	(桃山文化)	寛永文化 ①桃山文化の継承／②幕藩体制確立期の絢爛豪華な文化	元禄文化 上方(京都・大阪)を中心とした町人文化
建築		①権現造(霊廟建築様式の一つ) 日光東照宮(徳川家康を東照大権現として祀る) ②数寄屋造(書院造に茶室風建築の様式を取り入れる) 桂離宮(八条宮智仁親王の別邸) 修学院離宮(後水尾上皇の山荘)	東大寺大仏殿 松永久秀により焼失したため1705年再建 善光寺本堂 火災により焼失したため1707年再建  〔日光東照宮〕
小説	御伽草子 (室町文化～)	仮名草子(仮名書きによる啓蒙・教訓など 様々な内容を扱った小説の総称)	浮世草子(町人・武家社会の生活を描いた風俗小説) 井原西鶴(浮世草子の祖) 好色物『好色一代男』(世之介の愛欲生活を描く) 男女の性欲『好色五人女』(実在した5件の恋愛事件を描く) お盛ん物語『好色一代女』(好色女の愛欲生活と転落を描く) 武家物『武道伝来記』(武家の敵討ちが題材) 武士がテーマ『武家義理物語』(武家社会の義理が題材) 町人物『日本永代蔵』(町人社会の出世・没落を描く) 町人がテーマ 三井高利の成功談などを載せる 『世間胸算用』(大晦日の借金取り立てを描く)
俳諧	山崎宗鑑 (俳諧連歌)	松永貞徳＝貞門俳諧 ★貞門派(保守的で形式的な作品) ex. 北村季吟 西山宗因＝談林俳諧 ★談林派(自由奔放な作品) ex. 井原西鶴	松尾芭蕉＝蕉風(正風)俳諧(俳諧を大成) 『野ざらし紀行』(江戸～大和までの俳文紀行) 『笈の小文』(江戸～関西地方までの俳文紀行) 『奥の細道』(江戸～奥羽・北陸～美濃大垣までの俳文紀行) 『猿蓑』(芭蕉や芭蕉一門の俳諧撰集)
浄瑠璃	人形浄瑠璃	人形浄瑠璃 ＜人形浄瑠璃の三要素＞ ①浄瑠璃節(語り＝ナレーション) ②人形操り(操り人形の操作) ③琉球伝来の三味線による伴奏 ※有能な脚本家の有無	人形浄瑠璃 竹本義太夫(語り＝義太夫節)→義太夫が登場する以前の 辰松八郎兵衛(人形遣い) 浄瑠璃節を古浄瑠璃という 近松門左衛門(脚本) 時代物『国性(姓)爺合戦』 歴史物が題材 明の復興をはかった鄭成功の史実を脚色 世話物『曽根崎心中』(徳兵衛と遊女お初の心中物語) 町人の現代物『冥途の飛脚』(忠兵衛と遊女梅川の墮落失敗) 『心中天網島』(治兵衛と遊女小春の心中物語)
歌舞伎	阿国歌舞伎 出雲阿国が 創始	女歌舞伎(1629年幕府により禁止) 風俗を乱すため禁止 若衆歌舞伎(1652年幕府により禁止) 風俗を乱すため禁止 野郎歌舞伎	元禄歌舞伎→従来の踊り中心から演劇的な要素を高める 江戸＝市川団十郎(荒事)(勇猛な演技) 上方＝坂田藤十郎(和事)(恋愛的な演技) 上方＝芳沢あやめ(女形)(女役)

## →薬草を研究する学問

本草学	<b>貝原益軒</b> (本草学の基礎)『 <b>大和本草</b> 』 <b>稻生若水</b> (本草学を大成)『 <b>庶物類纂</b> 』
和算 日本独自の数学	<b>吉田光由</b> (和算の基礎)『 <b>塵劫記</b> 』 <b>関孝和</b> (和算を大成)『 <b>発微算法</b> 』
暦学	<b>洪川春海</b> ( <b>安井算哲</b> ) (幕府の天文方に任じられる) 従来の <b>宣明暦</b> に代わり、元の <b>授時暦</b> を参考にして <b>貞享暦</b> を作成



〔人形浄瑠璃(曾根崎心中)〕



〔歌舞伎(中村座)〕

特徴	化政文化(大御所時代) <u>江戸を中心とした享楽的・退廃的な町人文化</u>		
	田沼時代(宝暦・天明期の文化)	寛政の改革(寛政期)	大御所時代(文化・文政期の文化)
文学	<b>小説</b>   前期<b>読本</b>(草双紙に対し、文章を読むことを主体とした小説) 上田秋成『<u>雨月物語</u>』   後期<b>読本</b>(歴史物を題材) 滝沢(亭亭)馬琴『<u>南総里見八犬伝</u>』(里見家を題材) 『<u>椿説弓張月</u>』(源為朝を題材) 鎮西八郎   『笑い』がテーマ 滑稽本(滑稽を要素とした会話中心の小説) 十返舎一九『<u>東海道中膝栗毛</u>』 式亭三馬『<u>浮世風呂</u>』『<u>浮世床</u>』 エロい恋愛小説 a1 銭湯 a1 床屋 人情本(男女間の恋愛小説) 為永春水『<u>春色梅児誉美</u>』   江戸時代版風俗店での会話 洒落本(遊里での会話を主体とした小説) 山東京伝『<u>仕懸文庫</u>』   寛政の改革(出版元の葛谷重三郎も処罰)   天保の改革   草双紙(絵を主体とした小説の総称) 赤本→青本・黒本→子供向け 大人向け 絵本 エロ絵本 黄表紙(大人向けの絵入り小説) 恋川春町『<u>金々先生栄花夢</u>』   長編版エロ絵本 合巻(黄表紙を数冊分綴じた長編絵入り小説) 柳亭種彦『<u>修紫田舎源氏</u>』 將軍家斉の大奥生活を描く		
	<b>俳諧</b>   与謝蕪村(俳諧を中興/文人画を大成『<u>十便十宜図</u>』) 『<u>蕪村七部集</u>』(摂津国出身) 池大雅との合作   小林一茶(強者への反感・弱者への同情をうたう) 『<u>おらが春</u>』(信濃国出身)		
	<b>その他</b>   ①和歌=香川景樹(桂園派の祖・古今調の和歌) 良寛(越後出雲崎の禅僧・万葉調の和歌)   ②紀行文=鈴木牧之『<u>北越雪譜</u>』(雪国の自然や生活を紹介) 五街道の発達に菅江真澄『<u>菅江真澄遊覧記</u>』(東北地方を巡歴) より旅が盛んに   ③狂歌=大田南畝(蜀山人・四方赤良・喜絶は先生) 石川雅望(宿屋飯盛) ④川柳=柄井川柳『<u>誹風柳多留</u>』 政治や世間を風刺→処罰されないように ペンネームを持つ者が多い		
	<b>浄瑠璃</b>   竹田出雲(近松門左衛門に師事(習う)) 『<u>仮名手本忠臣蔵</u>』(赤穂浪士の討入りを素材) 『<u>菅原伝授手習鑑</u>』(菅原道真の左遷を題材)   綱吉時の赤穂事件(1702) 近松半二『<u>本朝廿四孝</u>』(衰退)   歌(唄)浄瑠璃(人形操りを離れた演奏中心) 常盤津幹・新内節・清元節・一中節など		
芸能	<b>歌舞伎</b>   一時停滞 → 再び隆盛 → 隆盛続く(←歌舞伎脚本作者の活躍) (←浄瑠璃に押される) (←舞台装置の開発・所作事の発達)   ★江戸三座(中村座・市村座・森田座)   四世鶴屋南北『<u>東海道四谷怪談</u>』(生世話物) 河竹黙阿弥『<u>白浪五人男</u>』(白浪物) 明治期にも活躍 盗賊が主人公		

教育機関	①幕府	朱子学=聖堂学問所 (しやうへい ざか がく ん じや しやうへい ぎやう) (1691) →昌平坂学問所 (昌平黌) (1797) ★綱吉時に上野忍ヶ岡の弘文館 (しやうへい じん ぶん かん) (林羅山の設立した林家の家塾) を湯島に移築→のち、昌平坂学問所として幕府の官立学校とする (1797) 洋学=蛸 (は) (番) 書和解御用 (しやうへい せん しょ かい ぎ ょう ぎよう) (1811) →洋学所 (1855) →蕃書調所 (1856) →洋書調所 (1862) →開成所 (1863) ★高橋景保の建議により設置された洋書翻訳機関 医学=種痘所 (しゆ とう じよ) (1858) →医学所 (1863) ★伊東玄村 (い とう げん ぶん くら) が設立した牛痘接種機関→のち、幕府に移管され (1860) 、医学所と改称 (1863)
	②諸藩	藩校 (藩学) (藩士の子弟教育機関) ・郷校 (郷学) (藩士の子弟・庶民教育機関) ex. 閑谷学校 (岡山藩) ・含翠堂 (摂津平野)
	③民間	寺子屋 (読み・書き・算盤を教える庶民教育→庭訓往来・実語教・童子教などを初等教科書として使用)

藩校(設立者)	明徳館 (秋田藩) =佐竹義和 養賢堂 (仙台藩) =伊達吉村 興譲館 (米沢藩) =上杉治憲 日新館 (会津藩) =松平容頌 弘道館 (水戸藩) =徳川斉昭 明倫堂 (加賀藩) =前田治修 明倫堂 (尾張藩) =徳川宗睦	花鳥教場 (岡山藩) =池田光政 ★郷校=閑谷学校 (岡山藩) 修道館 (広島藩) =浅野重景 明倫館 (長州藩) =毛利吉元 修猷館 (福岡藩) =黒田孝隆 時習館 (熊本藩) =細川重賢 造士館 (薩摩藩) =島津重豪	私塾(設立者)
	洗心洞 (大坂) =大塩平八郎 (陽明学者) 懷徳堂 (大坂) =中井塾庵 (大坂町人の学主=三宅石庵→中井塾庵→中井竹山 出資で設立) 出身者=富永仲基 (『出定後語』) ・山片蟠桃 (『夢の代』) 咸宜園 (豊後田) =広瀬淡窓 (3000人以上の最大) 松下村塾 (長州) =吉田松陰 (の叔父規模の私塾) 出身者=久坂玄瑞・高杉晋作・伊藤博文・前原一誠		

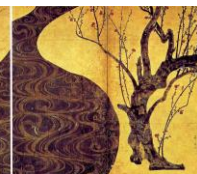
特徴	(桃山文化)	寛 永 文 化		元 禄 文 化	
		①桃山文化の継承/②幕藩体制確立期の絢爛豪華な文化		上方(京都・大阪)を中心とした町人文化	
絵 画	風俗画	『彦根屏風』(彦根藩井伊家が所有)		<u>浮世絵</u> (遊女や役者を題材とした庶民的風俗画) <u>菱川師宣</u> (浮世絵版畫の創始者) 当時はモノクロ 『見返り美人図』(肉筆画) 自筆画→版画ではない	
	(狩野派)	狩野永徳 → <u>狩野探幽</u> (幕府御用絵師) 『大徳寺方丈襖絵』		狩野派から → <u>久隅守景</u> 破門された 『夕顔棚納涼図屏風』 → <u>英一蝶</u> (明治期まで続く)	
	障壁画 (土佐派)	土佐光信(室町期) → [土佐派] <u>土佐光起</u> (官廷絵所預) 京都 → 土佐派を復興 → [住吉派] <u>住吉如慶</u> (住吉派の祖) 江戸 → <u>住吉具慶</u> (幕府御用絵師) 『洛中洛外図巻』		(明治期まで続く)	
工 芸	(琳派)	<u>装飾画</u> (大胆な構図で、装飾性に富んだ大和絵) <u>俵屋宗達</u> (琳派の先駆け) 『風神雷神図屏風』 <u>本阿弥光悦</u> に絵画を師事(習う)		<u>尾形光琳</u> (琳派の創始者) 『紅白梅図屏風』 『燕子花図屏風』	
	蒔絵	<u>本阿弥光悦</u> 「舟橋蒔絵硯箱」 ★蒔絵(漆を塗った漆器に金粉や銀粉を蒔いて文様を描く技法) 幕府から京都 <u>鷹ヶ峰</u> の土地をもらい <u>芸術社</u> を作る		<u>尾形光琳</u> 「八橋蒔絵硯箱」	
	陶磁器	<u>楽焼</u> (長次郎が創始) [お国焼] 鍋島氏= <u>有田焼</u> → <u>酒井田祐右衛門</u> (有田焼の陶工→色絵の創始者) <u>磁器の色絵</u> 毛利氏= <u>萩焼</u> 島津氏= <u>薩摩焼</u> 松浦氏= <u>平戸焼</u> <u>赤絵</u> (赤を基調とした色絵)の技法 ★「 <u>色絵花鳥文大深鉢</u> 」 ★色絵(釉をつけた陶器や磁器に絵を描いて仕上げる技法) 色絵磁器= <u>有田焼</u> (肥前) <u>九谷焼</u> (加賀)		<u>京焼の祖</u> <u>野々村仁清</u> (京焼色絵陶器の創始者) <u>陶器の色絵</u> ↓ 弟子 <u>尾形乾山</u> (尾形光琳の弟)	
その他	その他	陶磁器 — 陶器(粘土質)…楽焼・京焼・お国焼 磁器(ガラス質)…有田焼・九谷焼		[染物] <u>宮崎友禪</u> = <u>友禅染</u> [仏像] <u>円空</u> = <u>鉦彫</u> (仏像を鉦で彫る)	



〔風神雷神図屏風〕 by 俵屋宗達



〔紅白梅図屏風〕 by 尾形光琳



〔燕子花図屏風〕 by 尾形光琳



〔大徳寺方丈襖絵〕  
by 狩野探幽



〔夕顔棚納涼図屏風〕  
by 久隅守景

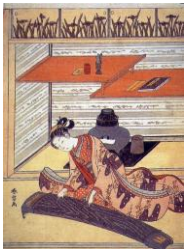


〔彦根屏風〕



〔見返り美人図〕  
by 菱川師宣

特徴	化政文化(大御所時代) <u>江戸を中心とした享楽的・退廃的な町人文化</u>			
	田沼時代(宝暦・天明期の文化)	寛政の改革(寛政期)	大御所時代(文化・文政期)	
風俗画(浮世絵)	<b>鈴木春信</b> ＝ <b>錦絵</b> を創始 『 <b>弾琴美人</b> 』 モノクロ ↓ 墨摺絵(墨一色刷り版画) ↓ 紅摺絵(三色刷り版画) ↓ カラー 錦絵(多色刷り版画)	<b>喜多川歌麿</b> ＝美人画 『 <b>婦女人相十品</b> 』 ↓ <b>東洲斎写楽</b> ＝役者絵 『 <b>市川鯉藏</b> 』	<b>葛飾北斎</b> ＝風景画 『 <b>富嶽三十六景</b> 』 ↓ <b>歌川(安藤)広重</b> ＝風景画 『 <b>東海道五十三次</b> 』	
文人画(南画)	文人や学者が余技として描いた絵画(絵画の専門ではないが学者が趣味として描いた絵画) <b>池大雅</b> ＋ <b>与謝蕪村</b> 『 <b>十便十宜図</b> 』(二人による合作)		<b>谷文晁</b> <b>田能村竹田</b> (豊後竹田の人/谷文晁の門人) <b>渡辺崋山</b> (谷文晁の門人) 『 <b>鷹見泉石像</b> 』	
洋風画	西洋画の手法に基づき描かれた絵画 ← 蘭学の隆盛の影響を受けて西洋画も描かれる <b>平賀源内</b> → <b>小田野直武</b> 『 <b>西洋婦人図</b> 』 『 <b>解体新書</b> 』の挿絵を描く		<b>司馬江漢</b> ＝ <b>銅版画</b> を創始 『 <b>不忍池図</b> 』(油絵) ★銅版画(銅版を薬品で腐食させた版画) ↳ 今までの木製の版画とは違い、銅製の版画であるため形が壊れにくく保存状態がいい	
写生画	遠近法や陰影法を用いた写実的絵画 <b>円山応挙</b> (円山派を創始) 『 <b>雪松図屏風</b> 』		↳ 円山応挙に学び、自らの流派(四条派)を創始 <b>呉春(松村月溪)</b> (四条派を創始) 『 <b>柳鶯群禽図屏風</b> 』	



〔弾琴美人〕  
by 鈴木春信



〔婦女人相十品〕  
「ポッピンを吹く女」  
by 喜多川歌麿



〔市川鯉藏〕  
by 東洲斎写楽



〔富嶽三十六景「神奈川沖浪裏」〕  
by 葛飾北斎



〔東海道五十三次「庄野」〕  
by 歌川広重



〔十便十宜図「釣便図」〕  
by 池大雅



〔鷹見泉石像〕  
by 渡辺崋山



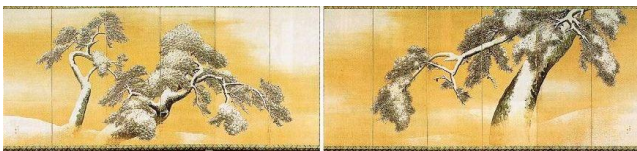
〔西洋婦人図〕  
by 平賀源内



〔不忍池図〕 by 司馬江漢



〔浅間山図屏風〕 by 亜欧堂田善



〔雪松図屏風〕 by 円山応挙



〔色絵花鳥文大深鉢〕  
by 酒井田柿右衛門



〔舟橋蒔絵硯箱〕

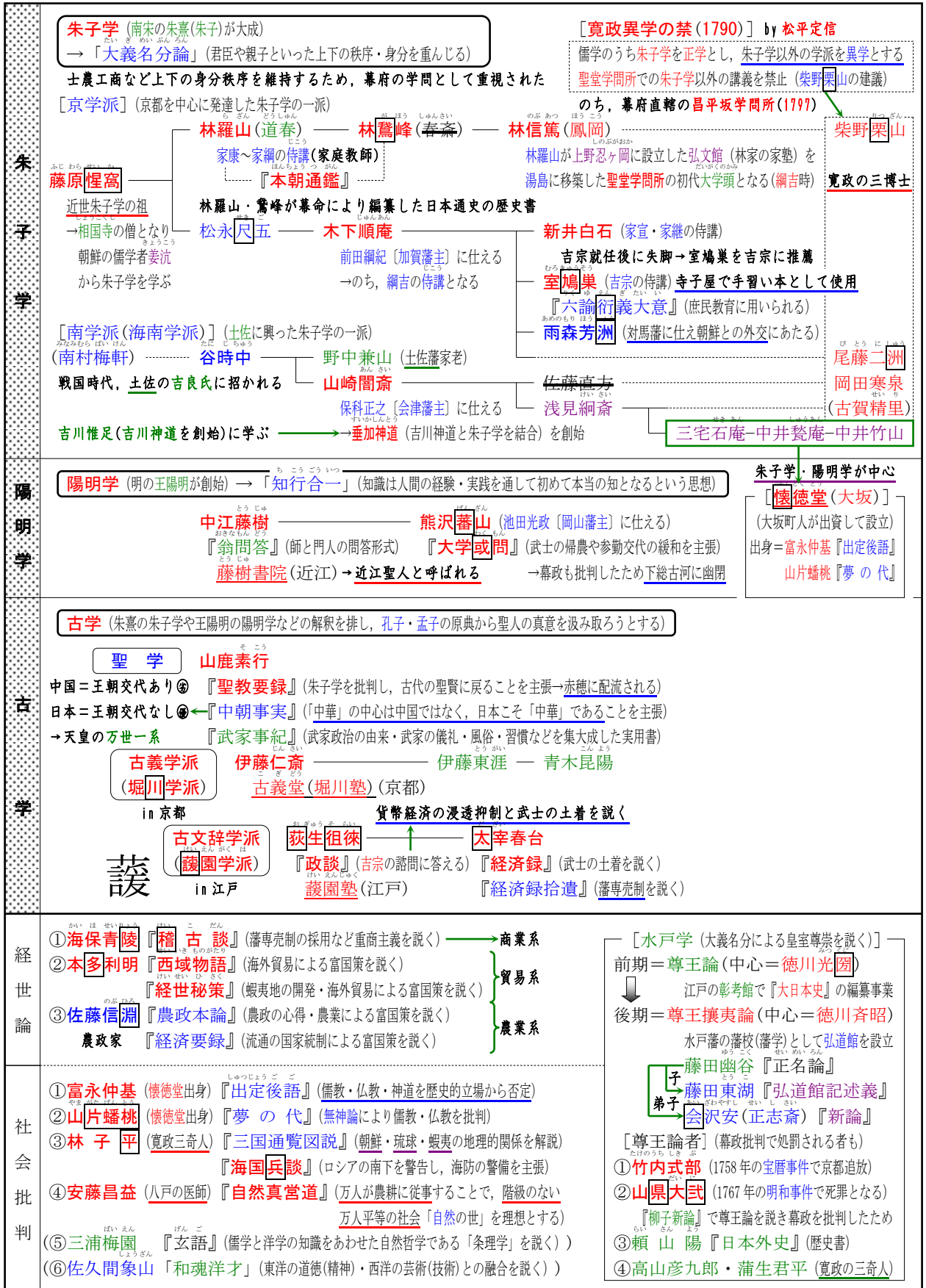


〔八橋蒔絵硯箱〕



〔護法神像〕 by 円空

→ 朱子学(正学)・陽明学・古学・折衷学・考証学(異学)などの学派に分かれる



経世論…領主に対して財政難などの問題を指摘し、その解決のための具体的な政策を論じる

**国学**『万葉集』や『古事記』などの日本古典の研究から、日本固有の民族精神を明らかにしようとする学問

[国学の先駆]

- ①北村季吟『源氏物語湖月抄』(『源氏物語』の注釈書)→幕府の歌学方に登用される
- ②戸田茂睦『梨本集』(古今伝授や制禁の詞など従来の拘束を排斥し、歌学の改革を主張した歌論書)
- ③契沖『万葉代匠記』(徳川光圀〔水戸藩主〕の命で編集した『万葉集』の注釈書)

日本人固有の民族精神



仏教・儒教の影響の少ない  
『古事記』・『万葉集』を研究

**荷田春満** (安田宗武に仕える)  
『創学校啓』 国学の学校設立を説く  
→徳川宗に献上  
『万葉考』 『万葉集』の注釈書  
『国意考』 日本固有の古道を主張  
古道＝儒教・仏教に影響されていない日本人固有の道

**本居宣長** (伊勢松坂出身)  
『古事記伝』(『古事記』の注釈書)  
『直隼霊』(日本固有の精神を主張)  
『玉勝間』(宣長の随想集)  
『源氏物語玉小櫛』(『源氏物語』の注釈書)  
『秘本玉くしげ』(徳川治貞〔紀伊藩主〕に提出した政治経済論)

**平田篤胤** (宣長死後の門人)  
復古神道 (儒教・仏教を排した神道)  
→尊王攘夷運動に影響大  
伴信友 (若狭国小浜藩士)  
『比古婆女』(国史などを考証収録)

〔本居宣長の『古事記伝』の主張〕  
中国の儒教による考え方(漢心)を排し、  
日本古来の精神(真心)へ戻ることを主張

**鈴の屋** (自宅の私塾)  
**堀保己一** (盲目の国学者)  
『群書類従』(古代から江戸時代までの国書を分類した叢書)  
和学講談所 (幕府の許可を得て設立した学問所)

[蘭学の先駆]

- ①西川如見『華夷通商考』(長崎で見聞した海外事情を紹介した外国地理書)
- ②新井白石『西洋紀聞』(西洋の地理・風俗などを記録→極秘に伝えられる)  
『采覧異言』(世界の地理・風俗などを記録→将軍に献上される)  
屋久島に潜入していたイタリア人宣教師シドッチを尋問して著す
- ③漢訳洋書 (中国語に翻訳された洋書)の輸入制限の緩和 (享保の改革)  
→青木昆陽・野呂元丈にオランダ語の学習を命じる  
伊藤東涯に儒学を学び、甘藷の栽培法を研究＝「甘藷先生」

[新井白石の著書]「齊藤君、反省を通り越し」

- 『折たく柴の記』(家継死後の隠退までの自叙伝)  
『西洋紀聞』(西洋の地理・歴史・風俗などをまとめる)  
『采覧異言』(世界の地理・歴史・風俗などをまとめる)  
『読史余論』(九変五論で幕府の正統性を説いた史論書)  
『古史通』『日本書紀』の合理的注釈書  
『藩翰譜』(大名の系譜と伝記を集録)  
『東雅』(日本の古代語の辞書)

**前野良沢**  
『解体新書』(1774)  
①日本最初の西洋医学の翻訳書  
→『ターヘル=アナトミア』を翻訳  
独人クルムスが書いた  
『解剖図譜』の蘭訳本  
②翻訳者＝前野良沢・杉田玄白  
中川淳庵・桂川甫周  
③挿絵＝小田野直武  
(平賀源内に西洋画を学ぶ)

**大槻玄沢**  
『蘭学階梯』(蘭学入門書)  
芝蘭堂(江戸)  
桂川甫周 (養子)

**稲村三伯**  
『ハルマ和解』(蘭和辞書)  
ここで毎年太陽暦の1月1日にオランダ正月(新元会)を開催  
宇田川玄真(養子) 緒方洪庵  
適塾(大坂)  
出身者＝福沢諭吉・橋本左内  
大村益次郎・佐野常民  
日本赤十字社を創設

**杉田玄白**  
『蘭学始末』  
杉田玄白の『解体新書』翻訳時の苦悶談  
↓  
日本最初の解剖記録は  
山脇東洋の著した『蔵志』  
→名古屋玄医が主張した  
古医方(漢方医学の一派)を学ぶ

[洋学の発達]  
①物理学＝平賀源内……エレキテル・寒暖計・火流布(石綿)を発明  
②化学＝宇田川榕庵……『舎密開宗』(日本最初の西洋化学の翻訳書)  
③天文学＝志筑忠雄……『暦象新書』(ニュートンの力学やコペルニクスの地動説などを紹介)  
★オランダ商館のドイツ人医師ケンペルの著した『日本誌』を翻訳して『鎖国論』と題す  
④暦学＝高橋至時……「寛政暦」を作成 貞享暦(渋川春海)→宝暦暦→寛政暦  
⑤地理学＝伊能忠敬……「大日本沿海輿地全図」を作成  
⑥医学＝シーボルト……鳴滝塾(長崎)(出身者＝高野長英・小関三英)  
★シーボルト事件(1828年、高橋景保(幕府天文方)を処分・シーボルトを国外追放)  
伊東玄朴……種痘所(江戸)を開設(→のち、幕府に移管され医学所に改称)

**心学** (神道・儒教・仏教などの諸説を融合し、町人道德を説いた平易な庶民的学問)  
→人間性の尊さにおいては平等→商人の存在意義と商業の正当性を説く

**石田梅岩** (平易化・普及に努力) **手島堵庵** 中沢道二  
『都鄙問答』(心学の根本原理を説く) 京都に明倫舎を創設 江戸に参前舎を創設

**寺子屋** (読み・書き・算盤を教える近世の庶民教育機関)  
**松下村塾**(長州)(吉田松陰が長門萩に開設した私塾)  
出身者＝久坂玄瑞・高杉晋作・伊藤博文・品川弥二郎など  
**咸宜園**(豊後)(広瀬淡窓が豊後日田に開設した私塾)  
最大規模の私塾で門弟3000名を超える

明治初期	①神道国教化の推進 (王政復古による祭政一致の立場から神道国教化政策を推進)   1868年 <b>神仏分離(判然)令</b> (神仏混淆を禁止した法令) → <b>廃仏毀釈</b> (仏教排斥運動) が激化 (→仏教衰退)   ★<b>島地黙雷</b> (浄土真宗の僧)・<b>井上円了</b> (哲学館を創立) らが仏教復興に努力   1870年 <b>大教宣布の詔</b> (神道国教化の推進を表明) も 後の東洋大学   宣教使による神道国教化の推進→失敗(仏教勢力の抵抗などで失敗)   1873年 祝祭日の制定   <b>紀元節</b>=2月11日 (神話上の神武天皇即位日)   <b>天長節</b>=11月3日 (天皇誕生日)   ②啓蒙思想(人に教えること)   <b>中村正直</b>『西国立志編』(スマイルズの『自助論(Self Help)』を翻訳)   『自由之理』(ミルの『自由論(On Liberty)』を翻訳)   <b>福沢諭吉</b>『西洋事情』(欧米諸国の諸制度・実情を紹介)   『学問のすゝめ』(学問による個人の独立・国家の隆盛を説く)   『文明論の概略』(自国の自主独立のための西洋文明の摂取を説く)   『国会論』(イギリスをモデルとした三権分立を伴った立憲君主制を説く)   1873年 <b>明六社</b>結成 (初代社長=<b>森有礼</b> [初代文相]) <b>伊藤博文</b>①内閣   社員=<b>福沢諭吉</b>・<b>中村正直</b>・<b>加藤弘之</b>・<b>西周</b>『万国公法』=国際法の翻訳本   <b>津田真道</b>『泰西国法論』・<b>西村茂樹</b>『日本道徳論』   1874年『<b>明六雑誌</b>』(明六社の機関誌) 発行	「神道国教化政策」   1869年 <b>神祇官</b> (版籍奉還後の官制改革で設置)   <b>太政官よりも上位におかれた</b>   ★<b>招魂社</b> (戊辰戦争の戦没者を祭る)   →<b>靖国神社</b>と改称(1879)   1871年 <b>神祇省</b> (廃藩置県後の官制改革で設置)   神道国教化に失敗したため格下げ   1872年 <b>教部省</b> (のち、1877年に廃止)   →内務省に併合される   <b>図解NOTE [近代思想の展開]</b>   ①明治維新後、政府は近代化政策を推進   →欧米の新しい制度・知識・思想   などを知識人たちが紹介(啓蒙思想)   ex. <b>天賦人權論(思想)</b> by <b>ルソー</b> (フランス)   「人は生まれながらにして平等である」   ②<b>民権論</b> (国民の利益を優先しろ)   →<b>五箇条の御誓文</b>の「公儀世論の尊重」を根拠に国会設立・憲法   V S 制定を要求=<b>自由民権運動</b>   ③<b>国権論</b> (国家の発展を優先しろ)   →後に国民の利益につながる   ④<b>壬午軍乱</b> (1882)・<b>甲申政変</b> (1884) 以後、   朝鮮における日本の影響力が後退   →<b>福沢諭吉</b>の「<b>脱亜論</b>」(1885)   (国権論に与してアジア進出を説く)
明治10年代	③<b>民権論</b> (人民の権利伸張を第一に主張する考え→フランスの<b>天賦人權論</b>を基礎理論とする)   <b>加藤弘之</b>『国体新論』『真政大意』(天賦人權論を紹介)   <b>中江兆民</b>『民約訳解』(ルソーの『社会契約論』を翻訳) 東洋のルソーと呼ばれた   <b>植木枝盛</b>『民権自由論』(民衆に平易に民権思想を説く)   ④<b>国権論</b> (国家の権利伸張を第一に主張する考え)   <b>加藤弘之</b>『人権新説』(ダーウィンの進化論の立場から<b>天賦人權論</b>を否定)   →<b>馬場辰猪</b>『天賦人權論』(加藤弘之の『人権新説』を批判)   (反発) <b>植木枝盛</b>『天賦人權弁』(加藤弘之の『人権新説』を批判)   <b>福沢諭吉</b>『脱亜論』(『時事新報』に発表した「脱亜入欧」を説いた論説)	②<b>民権論</b> (国民の利益を優先しろ)   →<b>五箇条の御誓文</b>の「公儀世論の尊重」を根拠に国会設立・憲法   V S 制定を要求=<b>自由民権運動</b>   ③<b>国権論</b> (国家の発展を優先しろ)   →後に国民の利益につながる   ④<b>壬午軍乱</b> (1882)・<b>甲申政変</b> (1884) 以後、   朝鮮における日本の影響力が後退   →<b>福沢諭吉</b>の「<b>脱亜論</b>」(1885)   (国権論に与してアジア進出を説く)
明治20年代	⑤近代的民族主義   (1) <b>国粹(保存)主義</b> (政府の欧化政策を批判して、日本的な伝統・美意識の尊重を説く)   <b>三宅雪嶺</b>・<b>志賀重昂</b>→<b>政教社</b>を結成し『<b>日本人</b>』(雑誌)を発行   (2) <b>国民主義</b> (政府の欧化政策を批判して、国家の独立・国民の統一・公共の利益を説く)   <b>陸羯南</b>→『<b>日本</b>』(新聞)を発行   (3) <b>日本主義</b> (日清戦争後海外進出を唱え、君民一体・国祖崇拝など伝統の重視を説く)   <b>高山樗牛</b>→『<b>太陽</b>』(雑誌)を発行   ⑥平民的欧化主義   (1) <b>平民主義</b> (政府による上からの<b>貴族的欧化主義</b>を批判し、平民による下からの<b>平民的欧化主義</b>を説く)   <b>徳富蘇峰</b>→<b>民友社</b>を結成し『<b>国民之友</b>』(雑誌)・『<b>国民新聞</b>』(新聞)を発行   ★<b>徳富蘇峰</b>は日清戦争を機に<b>国家主義</b>へ転じ、対外膨張論を説き、『<b>大日本膨張論</b>』を著す	⑤条約改正交渉における<b>井上馨</b>外相の   <b>欧化主義</b> (西洋文化無批判の模倣)に反発   →<b>日本民族の尊重を主張</b> (近代的民族主義)   (1) <b>国粹保存主義</b> (日本の伝統を重視)   (2) <b>国民主義</b> (国民の自立・統一を重視)   (3) <b>日本主義</b> (日本の大陸進出を肯定)   産業革命(日清戦争(1894)前後)   →資本主義の確立にともない   労働運動・社会主義運動が本格化
明治30年代	日清戦争で獲得した<b>遼東半島</b>を<b>ロシア</b>の圧力により返還させられる(<b>三国干渉</b>)   →近代的民族主義が発展=<b>国家主義</b> (国民の利益よりも<b>国家の利益を優先</b>)   ⑦<b>国家主義</b> (国家の利益を個人の利益より優先させる思想)   1908年 <b>戊申詔書</b> (日露戦争後の国家主義思想強化のため、<b>国民の勤儉・節約</b>と皇室の尊重を説く)   1909年 <b>地方改良運動</b> (内務省が中心となり推進した地方自治体の財政再建と農業復興運動)	「<b>社会主義</b>」   (1) キリスト教社会主義   <b>高野房太郎</b>・<b>安部磯雄</b>・<b>木下尚江</b>   (2) ドイツ流社会主義   <b>幸徳秋水</b>・<b>片山潜</b>・<b>堺利彦</b>

大正	① <b>美濃部達吉</b> (憲法学者・東大教授・貴族院議員) in 『<b>憲法講話</b>』 (1912)・『<b>憲法撮要</b>』 (1923)   → <b>天皇機関説</b> (統治権は<b>法人</b>である国家にあり、天皇はその国家法人の最高機関として、憲法に従って統治権を行使するという憲法学説)   ⇕   → <b>天皇の統治権は憲法の制約を受ける</b> (ドイツ人イエリネックの<b>国家法人説</b>に基づく)   <b>天皇主権説</b> (統治権は天皇にあり、天皇の権力行使の制限はないとする憲法学説) → <b>上杉慎吉</b> (穂積八束に師事) らが主張   ② <b>吉野作造</b> (政治学者・東大教授) in 『<b>中央公論</b>』 (1916) (論文「憲政の本義を説いて其有終の美を済すの途を論ず」を発表)   → <b>民本主義</b> (主権在民の<b>民主主義</b>とは一線を画し、主権在君の明治憲法での民衆の政治参加のため、<b>普通選挙法</b>と<b>政党内閣制の実現</b>を説く)
大正末、昭和初期	ロシアの有名な無政府主義者   1920年 <b>森戸事件</b> (<b>森戸辰男</b>の論文「クロボトキンの社会思想の研究」が危険思想とされる)   [原敬内閣] → <b>森戸辰男</b> [東大助教授] と掲載した<b>大内兵衛</b> [編集署名人] が休職処分となる   1933年 <b>佐野学</b>・<b>鍋山貞親</b> (共産党幹部) の<b>転向</b> (獄中で国家社会主義への転向を声明)   1933年 <b>滝川事件</b> (<b>滝川幸辰</b> [京大教授] の『<b>刑法読本</b>』が反国体的として<b>鳩山一郎</b> [文相] が休職処分)   1935年 <b>天皇機関説問題</b> (貴族院で<b>菊池武夫</b>が<b>美濃部達吉</b>の<b>天皇機関説</b>が国体に反する学説と非難)   [岡田啓介内閣] → 著書『<b>憲法撮要</b>』が発禁処分となり、<b>美濃部達吉</b>は貴族院議員を辞職   ↓   1935年 <b>国体明徴声明</b> (政府は「天皇は統治権の主体」と声明→天皇主権説を支持、天皇機関説を否定)   1937年 <b>矢内原事件</b> (『<b>国家の理想</b>』・『<b>帝国主義下の台湾</b>』で大陸政策を批判した<b>矢内原忠雄</b> [東大教授] が反戦思想と攻撃され辞職)   ★キリスト教徒として人権尊重の立場から、軍部の戦争政策、日本の帝国主義的植民地政策を批判したため   1937年 第1次<b>人民戦線事件</b> (加藤勤十・山川均・鈴木茂三郎ら日本無産党員を検挙→<b>日本無産党解散</b>)   1938年 第2次<b>人民戦線事件</b> (<b>大内兵衛</b>・有沢巳巳・美濃部亮吉ら労働派学者を検挙)   ★人民戦線 (ファシズムに反対する団体) 結成を企図したとして弾圧   1938年 <b>河合栄治郎筆禍事件</b> (<b>河合栄治郎</b> [東大教授] の『<b>ファシズム批判</b>』がファシズムに反対するものとして発禁処分とされる)   1940年 <b>津田左右吉筆禍事件</b> (<b>津田左右吉</b> [歴史学者] の『<b>神代史の研究</b>』が皇室の尊厳を傷つけるものとして発禁処分とされる)   『<b>古事記</b>』・『<b>日本書紀</b>』を科学的に研究
戦後	1948年 <b>文化勲章</b> (日本文化の向上・発達に寄与した者に授与される勲章) の復活   1949年 <b>日本学術会議</b> (学術の発達・国民生活の反映を目的とした学界の最高代表機関)   全国の科学者の代表者による内外に対する代表機関   1949年 <b>法隆寺金堂壁画の焼損</b>   1950年 <b>文化財保護法</b> (文化財の保護活用をはかるための法律)   →のち、<b>文化庁</b> (文化財の指定・保護などにあたる) 設置 (1968)   1953年 <b>NHKテレビ本放送開始</b> cf. ラジオ放送の開始は <b>1925年</b>   1964年 <b>東京オリンピック開催</b>   1964年 <b>東海道新幹線</b> (東京～大阪間) 開通 (開業直前に開通)   1965年 <b>名神高速道路</b> (最初の自動車専用高速道路) 開通   [都市問題の深刻化 (急速な経済発展に伴い社会問題が発生)]   ①公害問題 (四大公害訴訟=<b>水俣病</b>・<b>イタイイタイ病</b>・<b>新潟水俣病</b>・<b>四日市喘息</b>)   ②<b>都市公害</b> (<b>光化学スモッグ</b>・大気汚染・水質汚濁・地盤沈下・騒音・交通難・住宅難)   ③<b>都市の過密化</b>・<b>農村の過疎化</b> (農村の農業衰退・食糧自給率の低下が進む)   1967年 <b>公害対策基本法</b> (公害対策の推進をはかるため大気汚染・水質汚濁などを規制)   ★<b>環境基本法</b> (1993) に引き継がれる (環境問題の複雑化・地球規模化に伴い制定)   1970年 <b>日本万国博覧会開催</b> (シンボルは中央広場の「<b>太陽の塔</b>」(作=<b>岡本太郎</b>))   1971年 <b>環境庁設置</b> (中央公害対策本部(1970)が前身) →現在は<b>環境省</b> (2001)   1992年 <b>地球サミット</b> (リオデジャネイロで開かれた国連会議→「<b>アジェンダ21</b>」を採択)   1997年 <b>地球温暖化防止京都議定書</b> (160以上の国・地域・NGOが参加)   1997年 <b>京都議定書</b> (地球温暖化防止京都議定書で採択→日本は2002年に国会で国内批准)   ①内 容=<b>二酸化炭素</b>など温室効果ガスの排出削減率・排出量取引などを定める   ②意 義=<b>二酸化炭素</b>など温室効果ガスの排出削減の数値目標を具体的に示す   ③問題点=<b>世界2位(当時1位)のCO2排出国のアメリカが京都議定書から離脱</b>   <b>発展途上国に対してガス排出削減義務が課されていない</b>   <b>=現在世界1位の中国には削減義務がない</b>   [核兵器制限]   1963年 <b>部分的核実験停止条約</b>   地下実験を除く水中核実験の禁止   1967年 <b>非核三原則</b> by <b>佐藤栄作</b>   ↓   <b>核兵器を持たず・作らず・持ち込ませず</b>   1968年 <b>核兵器拡散防止条約</b>   核兵器保有国を拡大させないための条約   1986年 <b>チェルノブイリ原発事故</b>   1987年 <b>INF全廃条約</b>   米ソ2国の中距離核戦力の全廃を約束   <b>アメリカとソ連が核兵器の削減に初めて同意</b>   [戦後の文化人]   ①<b>黒澤 明</b> (映画監督)   『<b>羅生門</b>』でベネチア国際映画祭グランプリ受賞(1950)   ②<b>溝口健二</b> (映画監督)   『<b>西鶴一代女</b>』でベネチア国際映画祭国際賞受賞(1952)   ③<b>美空ひばり</b> (歌手)   『<b>柔</b>』・『<b>川の流れるように</b>』などが代表作   ④<b>手塚治虫</b> (漫画家)   『<b>鉄腕アトム</b>』など「戦後ストーリー漫画の開拓者」   ⑤<b>長嶋茂雄</b> (野球選手)   読売巨人軍背番号「3」(永久欠番)・終身名誉監督   ⑥<b>三浦知良</b> (サッカー選手)   93年のドーハの悲劇を体験・93年Jリーグ初代MVP   →のち、98年の仏W杯のスイス直前合宿で代表落選   ★<b>日本サッカー界の至宝</b>「<b>キングKAZU</b>」

明治初期	江戸文学のなごり   ① <b>戯作文学</b> (江戸後期の遊戯的文芸の総称で、明治初期に継承)   仮名垣 <b>魯文</b> 「<b>安愚楽鍋</b>」(文明開化の風俗を牛鍋屋の客を通して描く)   「<b>西洋道中膝栗毛</b>」(弥次・喜多のロンドン見物道中記)	<b>図解NOTE [近代文学の発展]</b>   現実的・客観的      理想的・主観的   写実主義   自然主義 (真実のみを強調)   ロマン主義   反自然主義 (高踏派・余裕派)   耽美派 (虚構性を重視)   白樺派 (理想主義)   新思潮派 (深い洞察力)   日清戦争…日本の自立を確保する戦争   →個人の自立を求めるロマン主義と結合   日露戦争…国民に挫折感を与える   →理想を排した写実的な自然主義へ
明治10年代	自由民権運動の思想を宣伝するための本二小説レベルではない   ② <b>政治小説</b> (自由民権運動の政治思想を宣伝・啓蒙する目的で書かれた小説)   末広鉄腸 「<b>雪中梅</b>」(青年政治家国野基の自由民権運動活動を描く) <b>自由党に参加</b>   矢野竜溪 「<b>経国美談</b>」(古代ギリシアになぞらえて民権思想を宣伝) → <b>矢野文雄</b>   東海散士 「<b>佳人之奇遇</b>」(憂国の青年東海散士の活躍を描く) (<b>立憲改進黨に参加</b>)	
明治20年代前半	真の近代文学   ③ <b>写実主義</b> (人生や社会の現実をありのまま客観的に描く作風=近代文学の誕生)   坪内逍遙 → 二葉亭四迷に批判され、のちに演劇界に転進(P37へ)   「<b>小説神髓</b>」(ありのままに描写する写実主義を唱えた文学論) 評論   「<b>当世書生気質</b>」『小説神髓』の趣旨にそい、写実的に描いた小説   二葉亭四迷 ★<b>言文一致体</b> (文章を話し言葉に近い口語体で表現する)   「<b>浮雲</b>」(小市民生活における人々の心理を言文一致体で描写)   「<b>あひびき</b>」(ツルゲーネフの『嵐月日記』を翻訳)   硯友社 (尾崎紅葉・山田美妙らが結成した文学結社)   『<b>我楽多文庫</b>』(硯友社の文芸同人誌)   山田美妙 「<b>夏木立</b>」(言文一致体の短編集)   尾崎紅葉 「<b>金色夜叉</b>」(金銭と愛情の相克を描く)   「<b>多情多恨</b>」(知識人の内面を描く)   ④ <b>理想主義</b> (東洋風の雄渾な作風)   幸田露伴 「<b>五重塔</b>」(五重塔を建てる大工の姿を力強く描く)   ★「<b>紅露時代</b>」と呼ばれ、尾崎紅葉と幸田露伴は並び称された	
明治20年代後半	理想的・空想的・妄想的な内容   ⑤ <b>ロマン主義</b> (日清戦争前後) (感情・空想を重んじ、個性の尊重と自我の解放を主張)   森 鷗外 「<b>舞姫</b>」(ドイツを舞台とした太田豊太郎と踊り子エリスの恋愛)   「<b>即興詩人</b>」(伊の即興詩人アンデルセンの『愛の物語』を翻訳)   樋口一葉 「<b>たけくらべ</b>」(遊郭に近い下町の少年少女たちの淡い恋を流麗に描く)   「<b>にごりえ</b>」(銘酒屋の酌婦お力をめぐる人情の機微を精細に描く)   北村透谷 「<b>文学界</b>」(1893年に創刊されたロマン主義文学の母体となった雑誌)   泉 鏡花 「<b>高野聖</b>」(高野山の僧侶が飛騨山中で経験した神秘的な物語)   徳富蘆花 「<b>不如帰</b>」(結核にかかった妻が病気感染を理由に離縁される悲劇を扱う)   蘇峰の弟 「<b>自然と人生</b>」(散文詩風の文体で自然風物を写生する)	—— [詩歌] ——   ① 俳句   正岡子規 「<b>歌よみに与ふる書</b>」   「<b>病牀六長</b>」   ★<b>写生</b>を主張して俳句・短歌の革新をめざす   高浜虚子 『<b>ホトトギス</b>』(俳句雑誌)   ② 短歌   (1) 明星派 (ロマン的歌風を主張)   与謝野鉄幹 『<b>明星</b>』(短歌雑誌)   与謝野晶子 「<b>みだれ髪</b>」   ★明星派では北原白秋や石川啄木も活躍   石川啄木 「<b>一握の砂</b>」(歌集)   「<b>悲しき玩具</b>」(歌集)   「<b>時代閉塞の現状</b>」(評論)   (2) アララギ派 (写実的歌風を主張)   伊藤左千夫 『<b>アララギ</b>』(短歌雑誌)   長塚 節 「<b>土</b>」   ③ 新体詩 (西洋詩にならって生まれた新しい詩体)   島崎藤村 「<b>若菜集</b>」   土井晩翠 「<b>天地有情</b>」   上田 敏 「<b>海潮音</b>」   北原白秋 「<b>邪宗門</b>」   文語定型詩
明治30年代	写実主義の延長線上   ⑥ <b>自然主義</b> (日露戦争前後) (理想を排して現実をありのままに描く→日本では私小説の方向に)   島崎藤村 「<b>破戒</b>」(被差別部落出身者の行き方を扱い、自然主義文学の先駆となる)   ★昭和初期には「<b>夜明け前</b>」(狂死した父をモデルに維新前後の苦闘の生活を描く)   田山花袋 「<b>蒲団</b>」(美しい女弟子芳子へ寄せる中年作家の欲情を描く)   変態 「<b>田舎教師</b>」(利根川べりの田舎の小学校教師の短い生涯の物語)   国木田独步 「<b>武蔵野</b>」(武蔵野の自然美を綴った短編集)   「<b>牛肉と馬鈴薯</b>」(現実と理想とを著した短編小説)   徳田秋声 「<b>徼</b>」(無為・無理想の男の人生を客観的に描いた自伝的私小説)   「<b>あらくれ</b>」(自我と奔放に生きる女お島の半生を描く本格小説)   正宗白鳥 「<b>何処へ</b>」(生活目標を失い「幻滅の悲哀」に生きるインテリの姿を描く)   ⑦ <b>反自然主義</b> (対象から一步離れて高所から眺める高踏派・余裕派)   夏目漱石 「<b>吾輩は猫である</b>」「<b>坊っちゃん</b>」「<b>三四郎</b>」「<b>道草</b>」   「<b>それから</b>」「<b>彼岸過迄</b>」「<b>こころ</b>」「<b>草枕</b>」「<b>明暗</b>」   森 鷗外 「<b>阿部一族</b>」「<b>雁</b>」	

本来の自然主義は、部落問題など社会・人生の暗黒面を現実的にありのままに描くもの

but 日本では『蒲団』の影響で、作家の思う気持ちをありのままに描く方向性になってしまった

明治末期 大正	『<b>耽美派</b>』 エロティック 自然主義の現実志向に反発し、 官能的な美を最高の価値とする	『<b>スバル</b>』(耽美派を主とした文芸雑誌)・『<b>三田文学</b>』(永井荷風が主宰した耽美派を主とした文芸雑誌) <b>永井荷風</b> 「<u>腕くらべ</u>」(新橋の芸者駒代の生活を通して、花柳界(芸者・遊女の社会)の人情の機微を写す) <b>谷崎潤一郎</b> 「<u>刺青</u>」(刺青師の清吉が刺青(入墨)を彫った女性の官能的姿とフェティシズムを描く) 「<u>痴人の愛</u>」(主人公がカフェで見出した少女のナオミにとりつかれ、破滅するまでを描写)
	『<b>白樺派</b>』 学習院出身多い 理想主義・人道主義・個人主義を 基調として、雑誌『白樺』によって 文学者グループ	<b>武者小路実篤</b> 「<u>お目出たき人</u>」(片思いの少女が結婚した後も、少女が自分を愛していたと信じる主人公の失恋話) <b>新しき村を建設</b> 「<u>その妹</u>」(戦争で盲目となった画家と、兄の眼となっている妹が人間の葛藤に苦しむ姿を描写) <b>志賀直哉</b> 「<u>暗夜行路</u>」(母と祖父の子という出生の秘密に苦しむ主人公時任謙作の暗夜に似た人生過程を描く) <b>有島武郎</b> 「<u>カインの末裔</u>」(北海道の荒涼たる自然と小作人の惨めな生活を背景に人間の希望と獣性を描写) 「<u>惑る女</u>」(自我に目ざめた強い個性を持つ女性、早月葉子が転落する一生をまとめた長編小説) <b>倉田百三</b> 「<u>出家とその弟子</u>」(親鸞の弟子唯円や善鸞の恋愛戸信仰の対立の苦悩を戯曲化して描く)
	『<b>新思潮派</b>』 東大出身多い 現実を明晰な知性によってとらえ 直す新現実主義を基調として、雑誌 『新思潮』によって文学者グループ	<b>芥川龍之介</b> 「<u>鼻</u>」(『今昔物語集』が素材となった15cmの異常な鼻の持ち主の心情を描写) 「<u>羅生門</u>」(『今昔物語集』が素材となった死者の髪を抜く老女と盗賊の物語) <b>菊池寛</b> 「<u>恩讐の彼方に</u>」(九州耶馬溪のトンネル開削にまつわる海・実之助の恩讐を超えた物語) <b>文芸春秋を創刊</b> 「<u>父帰る</u>」(20年前に妻子を捨て愛人と駆け落ちした父が帰ってきて展開される兄弟の心情の葛藤を描写) <b>久米正雄</b> 「<u>破船</u>」・「<u>学生時代</u>」・「<u>受験生の手記</u>」 <b>山本有三</b> 「<u>女の一生</u>」・「<u>波</u>」・「<u>路傍の石</u>」
大正末期 昭和初期	『<b>プロレタリア文学</b>』 社会主義思想による無産階級の文学 →労働者・農民の立場からその思想 や生活を描き現実の発展をめざす <b>労働運動・社会主義 運動の展開と共に発展</b>	『<b>種蒔く人</b>』(プロレタリア文学の出発点となった雑誌→関東大震災により廃刊)→『<b>文芸戦線</b>』に引き継ぐ 『<b>文芸戦線</b>』(1925年に結成された日本プロレタリア文芸連盟の機関誌的存在) <b>社会民主主義系＝穂健流</b> <b>葉山嘉樹</b> 「<u>海に生くる人々</u>」(石炭を運んで室蘭・横浜間を往復する貨物船での船員の苦難と闘争を描く) 『<b>戦旗</b>』(1928年に結成された全日本無産者芸術連盟(略称＝ナップ)が発刊した機関誌) <b>マルクス共産主義系＝急進流</b> <b>徳永直</b> 「<u>太陽のない街</u>」(自分が印刷工として体験した1926年の共同印刷争議を素材に描く) <b>小林多喜二</b> 「<u>蟹工船</u>」(カムチャッカに出漁する蟹工船労働者たちの悲惨な労働条件とその争議を描く) ★後に共産党として非合法活動中に治安維持法によって逮捕され、<u>特別高等警察の拷問により警察署で撲殺された</u>
	『<b>新感覚派</b>』 自然主義的リアリズムに反発し、 感覚的・印象的な内容を表現する <b>無生物主語などの擬人法</b>	<b>川端康成</b> 「<u>伊豆の踊子</u>」(下田に向かう旅芸人の一座と道連れになった、孤独に悩む少年の淡い恋と旅情を描く) 「<u>雪国</u>」(雪国の町に住む芸者と東京育ちの青年との純粋な愛情を描く) <b>横光利一</b> 「<u>日輪</u>」(邪馬台国女王卑弥呼を日輪にみたて、周辺の国々の王子たちが倒れる有様を描く) 「<u>旅愁</u>」(日中戦争前後のパリを主な舞台に、主人公矢代が愛する女性をめぐる悩み)
	『<b>大衆文学</b>』 広範な小市民階級の要求に応じて 出された娯乐的・商業的な通俗小説	<b>中里介山</b> 「<u>大菩薩峠</u>」(虚無にとりつかれた剣客机竜之介が幕末を舞台に展開する波乱の時代小説) <b>大佛次郎</b> 「<u>鞍馬天狗</u>」(鞍馬天狗の名をもつ志士を描く時代小説)・「<u>赤穂浪士</u>」(赤穂浪士を描く時代小説) <b>吉川英治</b> 「<u>宮本武蔵</u>」(剣禅一如を目指す求道者宮本武蔵を描いた歴史小説) <b>直木三十五</b> 「<u>南国太平記</u>」(南国薩摩藩の島津家をめぐると家騒動を素材にした時代小説)
戦前 戦後	『<b>児童文学</b>』 童謡や童話など児童を対象とする	<b>鈴木三重吉</b> 『<b>赤い鳥</b>』(児童文学雑誌) ★鈴木三重吉は夏目漱石の門下生
	① <b>堀辰雄</b> 『<u>風立ちぬ</u>』(肺結核の婚約者と療養所で暮らす私が永遠の生を発見する物語) ② <b>火野葦平</b> 『<u>麦と兵隊</u>』(徐州作戦に軍報道班として従軍して描くベストセラーとなる) ③ <b>石川達三</b> 『<u>生きてゐる兵隊</u>』(南京攻略時の日本軍の残虐を描く→発禁処分となる)	——『<b>詩歌(大正時代)</b>』—— ① 新体詩 (西洋詩にならって生まれた新しい詩体) 高村光太郎 「<u>道程</u>」 萩原朔太郎 「<u>月に吠える</u>」 } 口語自由詩 室生犀星 「<u>抒情小曲集</u>」 ② 短歌 (1) アララギ派 (伊藤左千夫の死後) 斎藤茂吉 「<u>赤光</u>」 島本赤彦 「<u>柿蔭集</u>」
	① <b>大岡昇平</b> 『<u>俘虜記</u>』(捕虜体験記) ⑦ <b>松本清張</b> 『<u>点と線</u>』 ② <b>野間宏</b> 『<u>真空地帯</u>』(軍隊体験記) ⑧ <b>井上靖</b> 『<u>天平の甞</u>』 ③ <b>峠三吉</b> 『<u>原爆詩集</u>』(原爆体験記) ⑨ <b>司馬遼太郎</b> 『<u>坂の上の雲</u>』 ④ <b>井伏鱒二</b> 『<u>黒い雨</u>』(原爆体験記) ⑩ <b>三島由紀夫</b> 『<u>仮面の告白</u>』 ⑤ <b>坂口安吾</b> 『<u>堕落論</u>』・『<u>白痴</u>』 ⑪ <b>石原慎太郎</b> 『<u>太陽の季節</u>』 ⑥ <b>太宰治</b> 『<u>斜陽</u>』・『<u>人間失格</u>』 ⑫ <b>大江健三郎</b> 『<u>飼育</u>』・『<u>個人的な体験</u>』	

功利主義的教育	1871年 <b>文部省</b> (教育行政を統轄する機関) ★初代文部卿=<b>大木喬任</b>  <b>1872年 学制</b> (フランス流の学制にならう) ★序文は「<b>被仰出書</b>(学事奨励に関する太政官布告)」  <b>福沢諭吉</b> 理念=①<b>功利主義</b>的な教育観から<b>立身出世</b>を説く・②<b>国民皆学</b>・教育の機会均等の思想          内容=①画一的で中央集権的 (全国を8大学区・32中学区・210小学区に分ける)          ex. <b>開智(小)学校</b> (1876年に落成した長野県松本市の和洋折衷式建築の小学校)          ②学校の設立費や授業料は民衆の負担・③農民は児童という労働力が奪われる          but 当時の実情に合わず、就学率は30% → <b>学制反対一揆</b>なども起きる	<b>図解NOTE [教育制度]</b>  <pre>         graph TD             A[帝国大学 (4年制)] --&gt; B[高等師範学校 (3年以上)]             A --&gt; C[高等中学校 (2年制)]             B --&gt; D[女子専門学校 (3年以上)]             B --&gt; E[尋常師範学校 (4年制)]             C --&gt; F[尋常中学校 (中学校94) (5年制)]             D --&gt; G[高等女学校 (4年制)]             F --&gt; H[高等小学校 (4年制→2年制)]             G --&gt; H             H --&gt; I[尋常小学校 (4年制→6年制)]             </pre>
自由主義的教育	<b>1879年 教育令</b> (アメリカ流の自由主義的教育制度にならう) ★文部大輔=<b>田中不二麿</b>          教育方針を地方の実情に合わせるが、教育の混乱を招いたため翌年改正(1880)  <b>1886年 学校令</b> (ドイツ流の国家主義的な教育方針) ★初代文相=<b>森有礼</b> (憲法発布日に暗殺)          (伊藤①内閣) 帝国大学令・師範学校令・中学校令・小学校令の総称(高等学校は入っていない)          →小学校令 (尋常小学校(4年制)・高等小学校(4年制)→尋常小学校が義務教育)          ★<b>東京大学</b>(1877)→帝国大学(1886)→東京帝国大学(1897)に改称	<b>図解NOTE [教育制度]</b>   [私立学校 (専門学校からのちに大学へ昇格)]   <b>福沢諭吉</b>=<b>慶応義塾</b> (→慶応義塾大学)  <b>新島襄</b>=<b>同志社英学校</b> (→同志社大学)  <b>大隈重信</b>=<b>東京専門学校</b> (→早稲田大学)  <b>津田梅子</b>=<b>女子英学塾</b> (→津田塾大学)  <b>井上円了</b>=<b>哲学館</b> (→東洋大学)  <b>成瀬仁蔵</b>=<b>日本女子大</b> (→日本女子大学)  <b>山田顕義</b>=<b>日本法律学校</b> (→日本大学)          ↓ 初代司法大臣(伊藤博文①内閣)          皇典講究所→國學院大学・専修学校→専修大学          関西法律学校→関西大学・東京法学社→法政大学          明治法律学校→明治大学・英吉利法律学校→中央大学          ★<b>ミッションスクール</b> (伝道教会が布教のため設立)          上智大学 (イエズス会)・青山学院大学 (メソジスト教会)          南山大学 (イエズス会)・関西学院大学 (メソジスト教会)          立教大学 (ウィリアムズ)・明治学院大学 (ヘボン)
国家主義的教育(義務教育Ⅱ 4年間)	<b>1890年 教育勅語</b> (教育の基本方針を示した明治天皇による「教育に関する勅語」)          (山県①内閣) 起草=<b>井上毅</b>・<b>元田永孚</b> ★<b>御真影</b>(天皇の写真)と共に配布          内容=儒教的精神に基づく「<b>忠君爱国</b>」などの国民道徳を説く          →<b>内村鑑三</b>不敬事件(1891)          キリスト教徒の立場から教育勅語に拝礼を拒否          →<b>井上哲次郎</b>が「<b>教育と宗教の衝突</b>」で国家主義の立場からキリスト教を攻撃          [中等・高等教育機関]          1894年 <b>高等学校令</b> (高等中学校を高等学校とする→尋常中学校は中学校に)          1899年 <b>高等女学校令</b> (男子の中学校に対応する女子の中等教育機関)          中流階級層の良妻賢母の育成を主眼とする(国家主義的な教育)          1903年 <b>専門学校令</b> (中学校卒業者を入学資格とする専門高等教育機関)          のち国立・公立・私立大学に昇格する          1900年 小学校令改正 (就学義務の規定を厳密化し、義務教育の授業料を無償化)          ★国民生活の向上も背景となり、義務教育の就学率が90%を超える(1902)  <b>1903年 国定教科書制度</b> (教科書を検定制から文部省著作の国定制に統一)          →<b>南北朝正閏問題</b>(1911) 教科書疑獄事件(1902)が契機          喜田貞吉が国定教科書に南北朝併立説を執筆→南朝正統側から非難受け辞職  <b>1907年 小学校令改正</b> (小学校の義務教育を6年間に延長)	[自由教育運動(大正期)]   ①<b>沢柳政太郎</b> (成城小学校を創立)          ②<b>羽仁もと子</b> (自由学園を創立)          ③<b>鈴木三重吉</b> (児童雑誌『<b>赤い鳥</b>』を創刊)          大正デモクラシーの風潮を反映して、生徒の自主性を尊重し個性と創造性を伸ばす教育運動   [戦後初期の授業形態]   ①<b>青空教室</b> (校舎の焼失による校庭授業)          ②<b>墨塗り教科書</b> (不適当な箇所を削除)          →のち、文部省が『<b>くにのあゆみ</b>』を発行          神話の内容をカットした新日本史教科書
大正	一学部のみ大学  <b>1918年 大学令</b> (帝国大学以外に公立・私立大学、単科大学の設置を許可)  <b>1918年 高等学校令改正</b> (官立以外に公立・私立の高等学校の設置を許可) } 原敬内閣  <b>1937年 『国体の本義』</b> (文部省思想局が発行した天皇への絶対随順などを説いた教科書)  <b>1941年 『臣民の道』</b> (文部省教育局が発行した国民道徳のあり方などを説いた教科書)  <b>1941年 国民学校令</b> (「皇国民」の錬成を目的に、小学校を国民学校と改称)	
昭和 6年間	1945年 教育改革指令 (GHQが軍国主義教育の禁止を指令)          (1) <b>教職追放</b> (職業軍人・軍国主義者・国家主義者を教職から追放)          現在の道徳 (2) <b>修身・日本歴史・地理</b>の授業停止 (のち社会科として復活)  <b>1946年 アメリカ教育使節団</b>の来日・勧告          教育勅語に代わる新しい民主主義的な教育理念を提示 (→1948年に教育勅語失効)	<b>図解NOTE [学校教育法]</b>  <pre>         graph TD             A[大学 (4年制)] --&gt; B[高等学校 (3年制)]             B --&gt; C[中学校 (6年制)]             C --&gt; D[小学校 (6年制)]             </pre>
戦後 9年間	<b>1947年 教育基本法</b> (義務教育9年間・男女共学・教育の機会均等など教育の理念を規定)  <b>1947年 学校教育法</b> (教育基本法の精神に基づき、六・三・三・四制の単線型学校系列を規定)  <b>1948年 教育委員会法</b> (教育委員会を各道府県・市町村に設置)          ★教育委員会委員=公選制→地方自治体の首長による任命制(1956) = <b>鳩山一郎</b>内閣  <b>1954年 教育二法</b> (教職員の政治活動・政治教育禁止)  <b>2006年 教育基本法改正</b> (愛国心に関する条項などが盛り込まれる) = <b>安倍晋三③</b>内閣	

1869年 **本木昌造**が鉛製活字の活版印刷技術を発明  
 ↓  
 ★(官版) **バタヴィア新聞** (1862年に幕府の**蕃書調所**が発行)  
 1870年 『**横浜毎日新聞**』(日本最初の日刊新聞)  
 1872年 『**日新真事誌**』(英人**ブラック**が創刊→**民権院設立建白書**を掲載)  
 1872年 『**朝野新聞**』(末広鉄腸が主筆を務めた自由民権派の立場の政論新聞)  
 1872年 『**東京日日新聞**』(福地源一郎が主筆を務めた立憲帝党派の機関紙)  
 1872年 『**郵便報知新聞**』(前島密の支援で創刊された立憲改進黨の機関紙)  
 1882年 『**自由新聞**』(板垣退助が社長を務めた自由党の機関紙)  
 1882年 『**時事新報**』(福沢諭吉が創刊→1885年に福沢諭吉の『**脱亜論**』を掲載)  
 1883年 『**官報**』(国の公示事項を収載した政府機関誌)  
 1892年 『**万朝報**』(黒岩涙香が創刊→幸徳秋水・堺利彦・内村鑑三ら記者が活躍)  
 ★日露戦争に際し、社が非戦論から主戦論に転じたため幸徳らは退社  
 1903年 『**平民新聞**』(平民社の機関紙→幸徳秋水・堺利彦らが発行)  
 — [言論弾圧(これ以降、新聞は大新聞から小新聞が中心になる)] —  
 1875年 **誹謗律**(事実の有無を問わず、人を誹毀・誹謗する者を処罰する)  
 1875年 **新聞紙条例**(政府や法律に対する新聞の非難を禁じ、処罰する)  
 →のち**新聞紙法**(1909) ※「**〇〇条例**」は「**〇〇法**」になる  
 ↓  
 ★**大新聞**(自由民権期の政治評論中心の新聞) → **大型の新聞**  
**小新聞**(読売版を継いだ娯楽重視の新聞) → **小型の新聞**  
 1874年 『**読売新聞**』(小新聞の元祖→のち大衆新聞として全国紙へと成長)  
 1879年 『**朝日新聞**』(のち『**東京朝日新聞**』と『**大阪朝日新聞**』に分かれる)  
 1888年 『**大阪毎日新聞**』(のち『**東京日日新聞**』を買収→『**毎日新聞**』となる)

— [文明開化(欧米列強の文明・風俗・慣習を取り入れる)] —  
 ① **太陽暦**の採用(1872)  
 太陰太陽暦(旧暦)による1872年12月3日を  
 太陽暦(新暦)による1873年1月1日とする  
 ★農村ではいぜんとして太陰太陽暦(旧暦)を使用  
 ② 1日24時間制・日曜休日制  
 ③ 祝祭日の制定(1873)  
**紀元節**=2月11日(神話上の神武天皇即位日)  
**天長節**=11月3日(明治天皇の誕生日)  
 ★端午の節句などの五節供・年中行事は祝祭日とされず

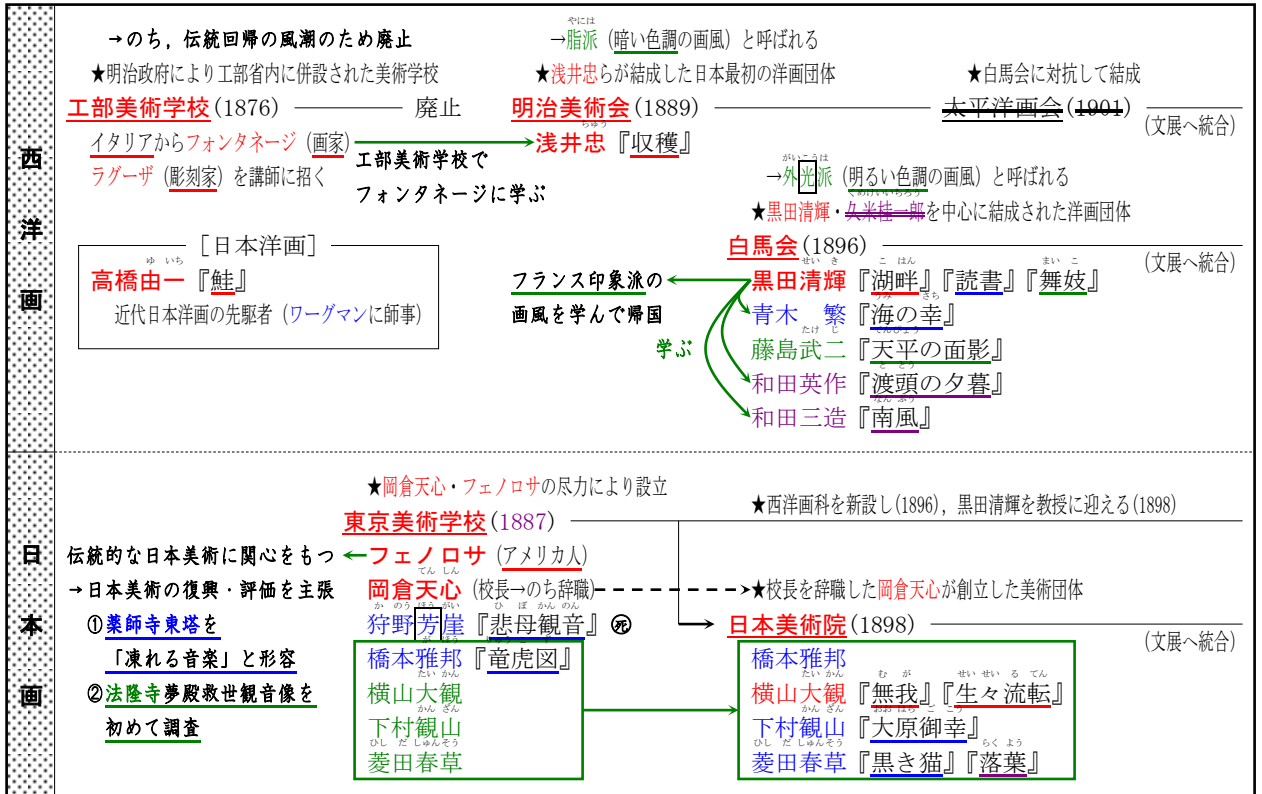
— [生活(日本風と西洋風の混合)] —  
 ① 衣……洋服・散髪の普及→**ざんざり頭**の新風俗  
 ② 食……都市中心に食生活の洋風化(肉食・コーヒーなど)  
 ex. **牛鍋**の流行  
 ③ 住……**公共建築**の洋風化(民家は和風が主体)  
 ex. 一般家庭では石油ランプを使用  
 ④ 交通……銀座通りには煉瓦造の洋風建築が並び、**鉄道馬車**・**人力車**が走り、街路に**ガス灯**(→のち**電灯**)がともる、  
 ★自転車・乗合馬車→**鉄道馬車**→**電車**  
 ⑤ 活動写真(→映画制作)・蓄音機(→レコード)

① **新聞の普及**(発行部数が100万部を超える)  
 『**東京朝日新聞**』・『**大阪朝日新聞**』・『**東京日日新聞**』・『**大阪毎日新聞**』  
 ② **総合雑誌**(政・経・社会・文化全般についての評論など様々な情報を掲載した雑誌)  
 『**中央公論**』(1887年に創刊→1916年に吉野作造の「**民本主義**」の論文を掲載)  
 『**改造**』(1919年に山本実彦が改造社を創立して創刊→社会改造を民衆解放に求める)  
 ③ **文化雑誌**(自由主義からマルクス主義に至る論説を掲載した雑誌) **思想中心**  
 『**我等**』(1919年に長谷川如是・大山郁夫らが創刊)  
 ④ **経済雑誌**(経済を主とした情報を掲載した雑誌) **経済中心**  
 『**東洋経済新報**』(1895年に創刊→石橋湛山(記者)の**小日本主義**の論文を掲載)  
 朝鮮・台湾など植民地の放棄・平和的な経済発展などを主張  
 ⑤ **大衆雑誌**(大衆の要求に応え、娯楽的な内容・情報を掲載した娯楽雑誌)  
 『**キング**』(1925年に大日本雄弁会講談社が創刊→毎月発行部数が100万部を超える)  
 ⑥ **週刊誌**(1週間に1回発行される雑誌)  
 『**週刊朝日**』・『**サンデー毎日**』(1922年に発刊された日本最初の週刊誌)  
 ⑦ **児童雑誌**(児童を読者対象とした文学雑誌)  
 『**赤い鳥**』(1918年に鈴木三重吉が創刊した児童雑誌)  
 ⑧ **円本**(『現代日本文学全集』などの文学全集を1冊1円で売る)  
 ⑨ **文庫本**(岩波文庫など内外の古典を手軽な形で世に紹介した本の形式)

— [大衆文化(教育と活字文化の普及により文化が大衆化)] —  
 ① **教育の発達**  
 (1) 義務教育の普及(日露戦争後に就学率97%を超える)  
 (2) **中等学校卒業者の急増**  
 (3) **高等学校卒業者の増大**  
 ★背景=**大学令**・**高等学校令**による**高等教育機関の拡充**  
 ② **一般勤労者の増大**  
 (1) **事務系の職場で働く給与生活者(サラリーマン)**の大量出現  
 (2) **女性の産業界への職場進出**  
 →**職業婦人**(タイピスト・電話交換手など)と呼ばれる

— [生活(洋風生活の普及)] —  
 ① 衣……洋服の普及  
 ex. **モダンガール**(モガ)・**モダンボーイ**(モボ)  
 ② 食……食生活の洋風化(トンカツ・カレーライスなど)  
 ③ 住……都心=鉄筋コンクリート造りのビル・デパート(百貨店)  
 郊外=**文化住宅**(和洋折衷の小市民住宅)  
 ★一般家庭で**電灯**が普及(水道・ガスの供給事業本格化)

ラジオ・テレビ	映画(活動写真)
1925年 <b>ラジオ放送の開始</b> ★ <b>東京放送局</b> (1925)・ <b>日本放送協会(NHK)</b> (1926) 1951年 民間放送の開始(スポーツの実況中継が人気をよぶ) 全国中等学校優勝野球大会(1915)・東京六大学野球(1925)など 1953年 <b>テレビ放送の開始</b> <b>原作は手塚治虫</b> 初の国産テレビアニメとして『 <b>鉄腕アトム</b> 』が人気を博す(1963～)	1896年 <b>活動写真</b> (映画の旧称) 輸入 ★大正時代までは <b>サイレント(無声映画)</b> を弁士が解説 1931年 <b>トーキー</b> (有声映画) 開始( <b>昭和時代</b> ) 1951年 <b>カラー映画</b> 開始 黒澤明『 <b>羅生門</b> 』・生きたる』・溝口健二『 <b>西鶴一代女</b> 』 小津安二郎『 <b>東京物語</b> 』・山田洋二『 <b>男はつらいよ</b> 』



〔鮭〕 by 高橋由一



〔収穫〕 by 浅井忠



〔湖畔〕 by 黒田清輝



〔読書〕 by 黒田清輝



〔舞妓〕 by 黒田清輝



〔天平の面影〕  
by 藤島武二



〔海の幸〕 by 青木繁



〔渡頭の夕暮〕 by 和田英作



〔南風〕 by 和田三造



〔竜虎図〕 by 橋本雅邦



〔悲母観音〕  
by 狩野芳崖



〔黒き猫〕  
by 菱田春草



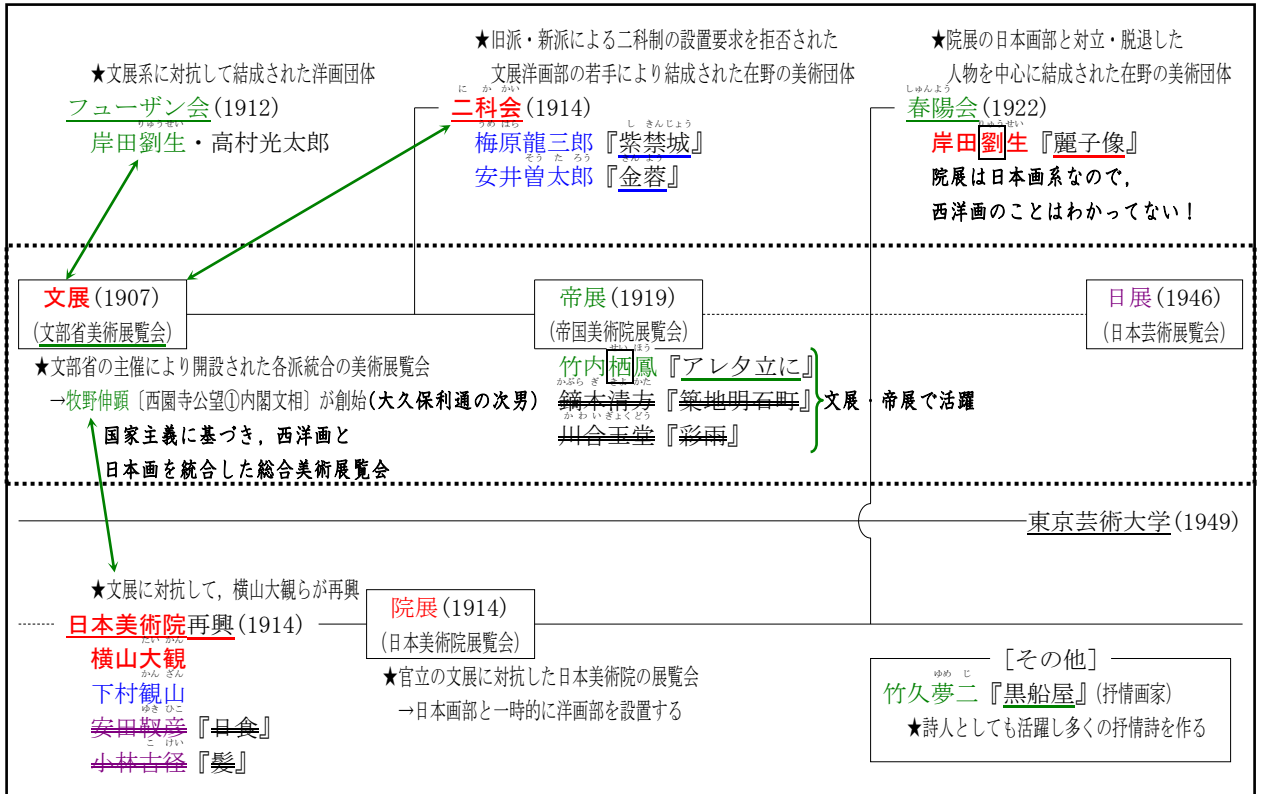
〔無我〕  
by 横山大観



〔生々流転〕 by 横山大観



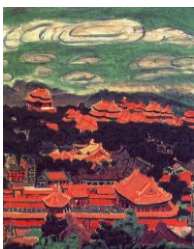
〔大原御幸〕 by 下村観山



[建築史]	
明治	① <u>コンドル</u> = <u>鹿鳴館</u> (東京日比谷の国際社交場) 学ぶ ニコライ堂 (神田駿河台の大聖堂)
	② <u>辰野金吾</u> = <u>日本銀行本店</u> ・ <u>東京駅</u>
	③ <u>片山東熊</u> = <u>赤坂離宮</u> (現在の迎賓館) 「たつの“きんご”」=「にはん“きんごう”」

[彫刻史]	
明治	① <u>ラゲルザ</u> (イタリア人彫刻家で工部美術学校の講師) ② <u>荻原守衛</u> 『女』『抗夫』(ブロンズ像) ③ <u>新海竹太郎</u> 『ゆあみ』(ブロンズ像) ④ <u>高村光雲</u> 『老猿』(木彫像) 高村光太郎の父 学ぶ 『西郷隆盛像』(原型を木彫で制作)
大正	早稲田大学の『大隈重信像』を制作 ① <u>朝倉文夫</u> 『墓守』『ニギハヤヒ』(ブロンズ像) ② <u>平櫛田中</u> 『転生』『五浦釣人』(木彫像)

[音楽史]	
明治	① <u>東京音楽学校</u> (国立の音楽教育機関) の設立 (1887) ② <u>伊沢修二</u> (東京音楽学校初代校長→西洋音楽を導入し、小学校教育に唱歌を採用) ③ <u>滝廉太郎</u> (『荒城の月』『花』『箱根八里』などの唱歌を作曲)
大正	④ <u>山田耕筰</u> (『赤とんぼ』『この道』『からたちの花』などの唱歌を作曲) ⑤ <u>三浦環</u> (オペラ歌手として『蝶々夫人』を欧米で20年間2000回公演) ⑥ <u>中山晋平</u> (『カチューシャの唄』『東京音頭』『東京行進曲』などの流行歌を作曲) 作曲・作詞コンビ
戦前	⑦ <u>西条八十</u> (中山晋平が作曲した『東京音頭』『東京行進曲』などの流行歌を作詞) ⑧ <u>古賀政男</u> (『酒は泪か溜息か』『影を慕いて』などを作曲)
戦後	⑨ <u>並木路子</u> (1945年に『リンゴの歌』の明るいメロディーが大ヒット) ⑩ <u>笠置シズ子</u> (1947年に『東京ブギウギ』の爆発的な歌と踊りが大ヒット) ⑪ <u>美空ひばり</u> (『柔』『川の流れのように』などで女性初の国民栄誉賞を受賞)



『紫禁城』

by 梅原龍三郎



『金蓉』

by 安井曾太郎



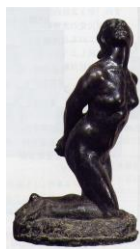
『麗子像』

by 岸田劉生



『黒船屋』

by 竹久夢二



『女』

by 荻原守衛

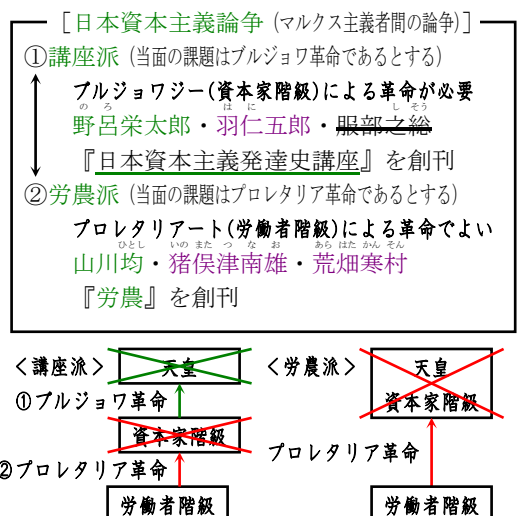


『老猿』

by 高村光雲

明治	①北里柴三郎(医学)	ペスト菌の発見・破傷風菌の純粋培養に成功・伝染病研究所を設立
	②志賀 潔(医学)	赤痢菌の発見(伝染病研究所に入所) ←
	③秦 佐八郎(医学)	サルバルサン(梅毒の化学療法剤)の発見(伝染病研究所に入所) ←
	④高峰 譲吉(薬学)	アドレナリン(強心薬)・タカジアスターゼ(消化薬)の創製
	⑤鈴木梅太郎(薬学)	オリザニン(ビタミンB ¹ ) (脚氣に有効な成分)の創製
	⑥大森 房吉(地震学)	大森式地震計・大森式公式(地震に関する公式)の考案
	⑦木村 栄(天文学)	Z項(地球の自転軸に関する緯度変化の公式に「Z」を加える)の発見
	⑧長岡半太郎(物理学)	原子構造の研究(土型原子模型の理論を発表)
	⑨田中館愛橘(物理学)	地磁気の測定(航空物理学の発達に寄与)
	⑩田口 卯吉(歴史学)	『日本開化小史』(古代から明治維新までの日本史論) ★『東京経済雑誌』を創刊
	⑪久米 邦武(歴史学)	「神道は祭天の古俗」(論文)で教授を辞職 ★『米欧回覧実記』(岩倉使節団の見聞録)
	⑫喜田 貞吉(歴史学)	南北朝正閏問題(国定教科書に南北朝併立説を執筆したことが問題化)で休職処分
	⑬芳賀 矢一(歴史学)	日本文献学を確立(国学にドイツ文献学を取り入れる)
大正	①野口 英世(医学)	黄熱病の研究・梅毒スピロヘータの純粋培養に成功
	②八木 秀次(電気工学)	八木アンテナ(今のテレビ用アンテナの原型となる指向性超短波用アンテナ)の発明
	③本多光太郎(物理学)	K S磁石鋼(強力磁石鋼)の発明
	④鉄鋼研究所(研究機関)	本多光太郎の主唱で東北帝国大学に設立(1919)
	⑤航空研究所(研究機関)	東京帝国大学の付属機関として設立(1918)
	⑥地震研究所(研究機関)	東京帝国大学の付属機関として設立(1925)
	⑦理化学研究所(研究機関)	物理・化学の応用研究を目的とする半官半民の研究機関(初代所長=大河内正敏)
	⑧西田幾多郎(哲学)	『善の研究』(ドイツ流観念論を中心に善などの東洋思想を加味して「西田哲学」を完成)
	⑨和辻 哲郎(哲学)	『風土』(ニーチェ・キルケゴールなど西洋哲学を研究し、独自の思想を示す)
	⑩福田 徳三(経済学)	『資本論』(資本主義経済の運動法則を論理的・歴史的に分析したマルクスの著作)を紹介
	⑪河上 肇(経済学)	『貧乏物語』(奢侈の根絶による貧乏廃絶を説く) ★『社会問題研究』(雑誌)を刊行し、マルクス主義経済学に傾倒
	⑫野呂栄太郎(経済学)	『日本資本主義発達史講座』(マルクス主義経済学)を企画・編集
	⑬白鳥 庫吉(歴史学)	満州・蒙古・朝鮮など中国周辺民族史・邪馬台国九州説を主張
	⑭津田 左右吉(歴史学)	『神代史の研究』(日本神話の科学的解釈を行う) ★国粋主義者から天皇の権威をおかす不敬思想と非難され、1940年に4著が発禁処分となる
	⑮柳田 国男(民俗学)	『遠野物語』(岩手県上閉伊郡遠野郷の民間伝承を採録)・『郷土研究』(民俗学の雑誌) ★民間伝承・風習などを研究する学問 ★柳田国男は知識人に対する階層として、民間伝承を保持している階層を常民と表現した
	⑯柳 宗悦(思想家)	民芸運動の創始者(朝鮮や琉球の民衆工芸の美を強調し、朝鮮文化に関する大きな影響を与える)
昭和	①亀井勝一郎(文芸評論家)	『日本浪漫派』(日本の伝統への回帰や憧憬を説いた文芸雑誌)刊行(保田与重郎と共に刊行)
	②保田与重郎(文芸評論家)	『日本浪漫派』(日本の伝統への回帰や憧憬を説いた文芸雑誌)刊行(亀井勝一郎と共に刊行)
戦後	①丸山 真男(政治学)	日本ファシズムの精神構造を明らかにした『超国家主義の論理と心理』を著す
	②大塚 久雄(経済史学)	近代社会成立史観(大塚史学)を確立(近代資本主義の系譜)を著す
	③川島 武宜(法社会学)	法社会学者として民法改正にも影響を与える(『日本社会の家族的構成』を著す)

ノーベル賞受賞者	1949年 湯川秀樹(物理学賞)	2008年 益川敏英(物理学賞)
	1965年 朝永振一郎(物理学賞)	2008年 南部陽一郎(物理学賞)
	1968年 川端康成(文学賞)	2010年 鈴木 章(化学賞)
	1973年 江崎玲於奈(物理学賞)	2010年 根岸英一(化学賞)
	1974年 佐藤栄作(平和賞)	2012年 山中伸弥(医学生理学賞)
	1981年 福井謙一(化学賞)	2014年 赤崎 勇(物理学賞)
	1987年 利根川進(医学生理学賞)	2014年 天野 浩(物理学賞)
	1994年 大江健三郎(文学賞)	2014年 中村修二(物理学賞)
	2000年 白河英樹(化学賞)	2015年 梶田隆章(物理学賞)
	2001年 野依良治(化学賞)	2015年 大村 智(医学生理学賞)
	2002年 小柴昌俊(物理学賞)	2016年 大隅良典(医学生理学賞)
	2002年 田中耕一(化学賞)	2018年 本庶 佑(医学生理学賞)
	2008年 下村 脩(化学賞)	2019年 吉野 彰(化学賞)
	2008年 小林 誠(物理学賞)	2021年 真鍋淑郎(物理学賞)



鎖国時の来日外国人	<b>ケンペル</b> (オランダ商館<b>ドイツ人</b>医師) 『<b>日本誌</b>』          ★のち<b>志筑忠雄</b> (オランダ通詞) が翻訳し『<b>鎖国論</b>』と題す(1801)  <b>ツンベルグ</b> (オランダ商館<b>スウェーデン人</b>医師) 『<b>日本植物誌</b>』  <b>シーボルト</b> (オランダ商館<b>ドイツ人</b>医師) 『<b>日本</b>』          ①長崎郊外に<b>鳴滝塾</b>を創設 (門下生=<b>高野長英</b>・<b>小関三英</b>・<b>伊東玄村</b>)          ②帰国時(1828), 日本地図の持ち出しが発覚し国外追放 (<b>シーボルト事件</b>)          →地図を渡した<b>高橋景保</b> (1811 年に<b>番書和解御用</b>の設置を建議) を処罰          ③<b>間宮林蔵</b> (樺太が島であることを確認) が発見した<b>間宮海峡</b>の命名者	<b>ヘボン</b> (米人宣教師→横浜に<b>ヘボン塾</b> (現在の<b>明治学院</b>) を創設)          ★<b>ヘボン式ローマ字</b>を考案・『<b>和英語林集成</b>』 (日本最初の和英辞典)  <b>ブラウン</b> (米人宣教師→横浜に<b>ブラウン塾</b> (現在の<b>明治学院</b>) を創設)          ★<b>横浜バンド</b> (ブラウン塾の学生が結成) = <b>植村正久</b>・<b>島田三郎</b>  <b>フルベッキ</b> (米人宣教師→長崎の私塾で<b>大隈重信</b>・<b>副島種臣</b>に英語を教授)          ★開成学校の教師として勤務→政府顧問として翻訳などに尽力)  <b>ジェーンズ</b> (米人宣教師→フルベッキの仲介で<b>熊本洋学校</b>教師として来日)          ★<b>熊本バンド</b> (熊本洋学校の学生が結成) = <b>海老名弾正</b>・<b>徳富蘇峰</b>
アメリカ教育	<b>ケプロン</b> (農政家→開拓使顧問として<b>札幌農学校</b>設立の指導にあたる)  <b>クラーク</b> (教育家→札幌農学校教頭となり「Boys be ambitious!」を残す)          ★札幌バンド (札幌農学校の学生が結成) = <b>内村鑑三</b>・<b>新渡戸稲造</b>  <b>マレー</b> (教育家→文部省顧問として教育制度の整備・女子教育に貢献)  <b>フェノロサ</b> (思想家→東大で哲学を教授→<b>岡倉天心</b>と<b>東京美術学校</b>を設立)          ★<b>薬師寺東塔</b>を「凍れる音楽」と評す・<b>法隆寺</b>夢殿救世観音像を初めて調査  <b>モース</b> (動物学者→東大で生物学を教授→<b>ダーウィンの進化論</b>を紹介)          ★<b>大森貝塚</b>(東京)の発見などが日記『<b>日本その日その日</b>』に記されている	<b>モッセ</b> (法学者→政府顧問として市制・町村制などの整備に尽力)  <b>ロエスレル</b> (法学者→政府顧問として大日本帝国憲法の制定に尽力)  <b>ベルツ</b> (医学者→東大で医学を教授し『ベルツの日記』を著す)  <b>ホフマン</b> (医学者→<b>大学東校</b>で<b>内科医学</b>を教授) <b>憲法発布時の様子</b>を記す  <b>ケーベル</b> (哲学者→東大で哲学を教授)  <b>ナウマン</b> (地質学者→東大で地質学を教授)          ★<b>ナウマン象</b>の名称の由来・<b>フォッサ=マグナ</b>を指摘  <b>メッケル</b> (軍人→<b>陸軍</b>に<b>ドイツ式軍制</b>を導入)
イギリス技術	<b>モレル</b> (鉄道技師→新橋～横浜間の鉄道敷設を指導)  <b>キンダー</b> (大阪造幣寮首長として<b>貨幣鑄造</b>を指導)  <b>ミルン</b> (地震学者→日本地震学会設立に尽力)  <b>ハーン</b> (小説家→日本に帰化して<b>小泉八雲</b>と改名し、『怪談』を著す)  <b>コンドル</b> (建築家→<b>鹿鳴館</b>・<b>ニコライ堂</b>を設計)          ★弟子=<b>辰野金吾</b> (日本銀行本店・東京駅設計)・<b>片山東熊</b> (赤坂離宮設計)  <b>ワーグマン</b> (洋画家→『<b>絵入ロンドン=ニュース</b>』の特派員として来日)          ★横浜で洋画画法を教える→弟子=<b>高橋由一</b>・『<b>蛙</b>』	<b>フォンターネー</b> (洋画家→<b>工部美術学校</b>で指導)          ★門下生=<b>浅井忠</b>『<b>収穫</b>』 (明治美術会を結成)  <b>ラゲーズ</b> (彫刻家→<b>工部美術学校</b>で指導)  <b>キヨソネ</b> (銅版画家→紙幣・切手などの製版や銅版画技術を指導)  <b>ブリュナ</b> (製糸技師→富岡製糸場でフランス製の製糸機械を指導)  <b>ボアソナード</b> (法学者→政府顧問として刑法・民法を起草→<b>民法典論争</b>)  <b>ビゴー</b> (洋画家→漫画雑誌『<b>トバエ</b>』を創刊し, 世間を風刺)

明治初期	[歌舞伎 (旧派劇)]          ①<b>河竹黙阿弥</b> (歌舞伎脚本作者) →幕末には「<b>白浪物</b>」(盗賊が主人公のジャンル) で人気を博す ex. 『<b>白浪五人男</b>』          (1) <b>散切物</b> (散切頭の俳優によって演じられた文明開化の新風俗を主題とする演劇)          (2) <b>活歴物</b> (史実を重んじ, 写実的に演出する歴史劇←仮名垣魯文が「活きた歴史」と評す)
中期	②<b>団・菊・左時代</b> (歌舞伎の黄金時代)  <b>市川團十郎</b> (9代目)  <b>尾上菊五郎</b> (5代目)  <b>市川左団次</b> (初代)  <b>[新派劇]</b> (歌舞伎 [旧派劇] に対抗して新しく起こった演劇 [新派劇])          ①<b>壮士芝居</b> (自由民権運動を宣伝するために自由党壮士らが演じた演劇)          →<b>川上音二郎</b> (自由民権を盛り込んだオペベアー節で人気を博す)          ②<b>現代劇</b> (男女混合の演劇) →<b>伊井蓉峰</b> (『<b>金色夜叉</b>』『<b>不如帰</b>』などを上演し人気を博す)
後期	<b>[新史劇]</b> (歌舞伎に西洋劇の要素を取り入れる)          ③<b>坪内逍遙</b> (演劇の改良を志す) →<b>文芸協会</b> (1906) (結成=<b>坪内逍遙</b>・<b>島村抱月</b>)          『<b>桐一葉</b>』 (豊臣家滅亡を題材とする)          シェクスピア・イブセンなどを翻訳した本格的なヨーロッパ風の演劇  <b>自由劇場</b> (1909) (結成=<b>小山内薫</b>・2代目<b>市川左団次</b>)          ★新劇発展の先駆的な役割を果たす
大正	<b>宝塚歌劇団</b> (1913) (結成=<b>小林一三</b> [阪急電鉄社長])          ★関西で女性だけの劇団として発展  <b>チャンバラ劇</b>  <b>新国劇</b> (1917) (結成=<b>沢村正二郎</b>)          ★『<b>国定忠治</b>』などの剣劇で人気を博す  <b>芸茶座</b> (1913) (結成=<b>島村抱月</b>・<b>松井須磨子</b>)          ★<b>トルストイ</b>作『<b>復活</b>』で松井須磨子の劇中歌『<b>カチューシャの唄</b>』が流行歌として大ヒット          →のち, 島村抱月・松井須磨子の死後に解散  <b>築地小劇場</b> (1924) (結成=<b>小山内薫</b>・<b>土方与志</b> (弟子))          ★東洋の演劇と西洋の演劇を掛け合わせた新劇運動の拠点となる          →『<b>演劇の実験室</b>』と呼ばれる

- 44 -

回 仏教私伝『扶桑略記』 by 皇円
--------------------

繼体天皇即位 16 年の壬寅(522 年)、中国の鞍作鳥(止利仏師)の祖父である司馬達等が、この年の春 2 月に来日した。彼はすぐに大和高市郡坂田原(現在の奈良県高市郡明日香村の坂田付近)に草堂を建て、本尊を安置し、仏に帰依して礼拝した。世間の人が皆言うことには、「これは中国の神様だ」と。

回 仏教公伝『上宮聖徳法王帝説』
------------------

志葵嶋天皇(欽明天皇)の治世、戊午の年(538 年)の 10 月 12 日に、百済国の聖明王が初めて仏像・経文を伝え、僧侶をおくってきた。そこで天皇は命令を下し、大臣の蘇我稲目に仏像などを授け、仏法を盛んにさせたのである。

回 仏教公伝『日本書紀』
--------------

欽明天皇 13 年(552 年)冬 10 月、百済の聖明王が、…釈迦仏の金銅像一体と幡蓋(仏堂内の荘厳具)と、いくらかの経論を献上した。…そこで天皇は群臣に一人一人問いかけられた。「百済から献上された仏の顔は端正で美しい。いまだかつて見たことがないものであるが、礼拝すべきかどうか」と。大臣の蘇我稲目が申し上げた。「西隣りの国ではすべて礼拝しています。どうして日本だけがそむけましょうか」と。大連の物部尾輿と中臣鎌子が同じように申し上げた。「わが国で天下を支配されている天皇は、常に天地の多くの神々を春夏秋冬おまつりされることになっています。今、改めて外国の神を拝まれるならば、おそらくわが国の神の怒りをまねくことになりましょう」と。すると欽明天皇は、「では、礼拝を希望している蘇我稲目に仏像をあずけ、試みに礼拝させてみることにしよう」と述べられた。

回 法隆寺の創建『法隆寺薬師如来像光背銘』
-----------------------

池辺宮で天下を治めていた天皇(用明天皇)は、自らが病気になるれた 586 年、後の推古天皇と厩戸王(聖徳太子)に「私の病気が治ることを願って、寺を建立し薬師如来像を造りなさい」とお命じになりました。しかし、用明天皇は間もなく崩御なされて寺院建立は延期されていましたが、小治田宮で天下を治めていた天皇(推古天皇)と東宮聖王(厩戸王(聖徳太子))は、用明天皇の命令を受けて 607 年に寺を建立しました。

回 古事記の序文『古事記』
---------------

臣太安麻呂が申し上げます。……天皇(天武天皇)がおっしゃった。「私の聞くところによれば、豪族の家々に伝わる帝紀や旧辞の記事は、すでに真実と異なり、多くの虚偽が加わっているという。今の内に、その誤りを改めなければ、何年も経たないうちに、本当のことがわからなくなってしまうだろう。こうした記録は国家にとって骨組みを示すものであり、天皇が民を導く基礎となるものである。そこで、帝紀を撰び記録し、旧辞を調べ尽くし、偽りの記録を削って真実を定め、後世に伝えたいと思う」と仰せられた。その時、天皇の側近くに仕える舎人に、姓は稗田、名は阿礼という者がいた。年齢は 28 で、聡明な人物であり、一度見ただけで音読することができ、一度聞いただけで記憶することができた。そこで、天皇は阿礼に命じて、皇位の継承についての記録や旧辞などの古い物語を誦み習わせた。しかしながら、時代が移り、代も改まったので(天武天皇が崩御されて)、その事業も実行することができなくなった。これを考慮なさった皇帝陛下(元明天皇)は、旧辞に誤りがあるのを残念に思い、先紀(帝紀)の誤りや不統一を正そうとされて、和銅四年(711 年)9 月 18 日に太安麻呂に「稗田阿礼が天武天皇の命によって誦み習った旧辞を撰び記録して、献上するように」と命じられた。そこで、御命令の通りに事細かに記録した。……記録した内容は、天地が開けてから小治田の御世(推古天皇)までである。そして、全 3 巻を記録して献上するものである。

和銅五年(712 年)正月 28 日

正五位上勲五等太朝臣太安万侶

回 風土記の編纂命令『続日本紀』
------------------

(和銅六年(713 年))5 月 2 日、五畿・七道諸国の郡・郷などの地名は良い字を選んでつけよ。その地域で産出する銀・銅・彩色・草木・禽獸・魚虫などの物は、その品目を詳しく記録せよ。……

# 国分寺建立の詔『続日本紀』

(①天平十三年三月)乙巳, ②詔して曰く, 「……宜しく天下諸国をして, 各敬みて七重塔一区を造り, 并せて③金光明最勝王經, ④妙法蓮華經, 各一部を写さしむべし。……⑤僧寺には必ず⑥廿僧有らしめ, 其の寺の名を⑦金光明四天王護国之寺と爲し, ⑧尼寺には⑨二十尼ありて, 其の名を⑩法華滅罪之寺と爲し, 両寺相共に宜しく教戒を授くべし。……」と。

〔①741年 ②聖武天皇が詔した ③金光明最勝王經は国分寺, 妙法蓮華經(略称は法華經)は国分尼寺で読ませた經典で, ともに護国經 ④国分寺 ⑤20人の僧 ⑥国分寺の正式名称 ⑦国分尼寺 ⑧10人の尼 ⑨国分尼寺の正式名称〕

# 大仏造立の詔『続日本紀』

(①天平十五年)冬十月辛巳, ②詔して曰く, 「……粵に③天平十五年歳は癸未に次る十月十五日を以て, ④菩薩の大願を發して, ⑤盧舍那仏の⑥金銅像一軀を造り奉る。……夫れ天下の富を有つ者は⑦朕なり。天下の勢を有つ者も⑧朕なり。この富勢を以て, この尊像を造る。」

〔①743年 ②聖武天皇が詔した ③衆生を救済しようとする菩薩の願い ④華嚴經の本尊。俗に大仏という ⑤銅に鍍金した仏像 ⑥聖武天皇〕

# 古今和歌集仮名序『古今和歌集』by 紀貫之

①やまとうたは, ひとのこゝろをたねとして, よろづのことの葉とぞなれりける。世中にある人, ②ことわざしげきものなれば, 心におもふことを, 見るもの。きくものにつけて, いひいだせるなり。花になくうぐひす, みづにすむかはづのこゑをきけば, いきとしいけるもの, ③いづれかうたをよまざりける。

〔①和歌 ②行うことが多い ③歌を詠まないものがあるか〕

# 土佐日記『土佐日記』by 紀貫之

をとこもすなる日記といふものを, をむな(女)もしてみんとするなり。①そ(其)れのとし(年)のしはす(十二月)のはつか(二十日)あま(余)りひとひ(一日)のひ(日)の②いぬ(戌)のときに, かどで(門出)す。そのよし(由), いさゝかにものにかきつく。…〔①紀貫之は930年に土佐守に任官, 934年に離任した ②午後7～9時〕

# 源氏物語『源氏物語』by 紫式部

いづれの御時にか。①女御・更衣あまたさぶらひ給ひけるなかに, いと, ②やむごとなき際にはあらぬが, すぐれて③時めき給ふありけり。……

〔①天皇の配偶者。序列は皇后(中宮)・女御・更衣の順 ②身分・家柄が尊い ③寵愛を受ける〕

# 浄土教『往生要集』by 源信

それ往生極楽の①教行は, ②濁世末代の③目足なり。道俗貴賤, 誰か帰せざる者あらむや。ただし④顯密の教法は, 其の文, 一にあらず。⑤事理の業因, 其の行惟れ多し。⑥利知の精進の人は, 未だ難しと為さざるも, ⑦予の如き⑧頑魯の者, 豈に敢てせむや。是の故に, ⑨念仏の一門に依りて, 聊か⑩經論の要文を集む。之を披き之を修すれば, 覺り易く行ひ易からむ。之を披きて之を修すれば, 覺り易く, 行ひ易からむ。惣べて⑪十門あり, 分ちて三巻と爲す。一には⑫厭離穢土, 二には⑬欣求淨土, 三には⑭極楽の証拠, ……九には⑮往生の諸業, 十には⑯問答料簡なり。之を座右に置きて⑰魔忘に備へむ。

〔①教えと修行 ②けがれの多い末法の世。末法思想に基づく ③道しるべ ④顯教と密教。すべての仏教 ⑤真理を悟るための修行 ⑥賢くて仏道修行をしている人 ⑦成仏するための修行 ⑧源信 ⑨かたくなで愚かな人 ⑩經と論の重要な部分 ⑪『往生要集』は十の章からなる。以下はその章の目次 ⑫汚れた現世を厭い離れる ⑬淨土を願い求める ⑭極楽についての經典上の根拠 ⑮極楽往生をするための種々の修行 ⑯問答して他とはかりくらべる ⑰信心のすたれや忘却〕

# 往生集(空也)『日本往生極楽記』by 慶滋保胤

①沙門空也は, ②父母を言はず, ③亡命して世に在り。或は云く, ④漢流より出でたりといふ。口に常に阿弥陀仏を唱ふ。故に世に⑤阿弥陀聖と号づく。或は市中に住して仏事を作し, また市聖と号づく。

〔①僧侶 ②父母の名前 ③本籍地から逃亡する ④皇族の血筋 ⑤阿弥陀仏を信仰して苦行する徳の高い修行者〕

# 僧兵の横暴『源平盛衰記』

①白河の院は, 賀茂川の水, 双六の②賽, ③山法師, 是れぞ④朕が心に随はぬ者と, 常に仰せの有りけるとぞ申し伝へたる。

〔①白河法皇 ②さいころ ③比叡山延暦寺の僧兵 ④白河法皇〕

回 国分寺建立の詔『続日本紀』
-----------------

(天平十三年(741年3月))24日、(聖武天皇は)詔の中で次のように述べられた。「……諸国に命じて各々七重塔一基を建立し、**金光明最勝王經**(国分寺で読ませた護国經)・**妙法蓮華經**(国分尼寺で読ませた護国經)を各一部を写させよ。……僧寺(国分寺)には必ず僧20人を置き、**金光明四天王護国之寺**(国分寺の正式名称)と名づけ、尼寺(国分尼寺)には尼僧10人を置き、**法華滅罪之寺**(国分尼寺の正式名称)と名づけ、両寺ともに仏の教えと戒律を伝えよ。」

回 大仏造立の詔『続日本紀』
----------------

(天平十五年(743年))冬10月15日、(聖武天皇は)詔の中で次のように述べられた。「……天平十五年(743年)10月15日をもって、**善く衆生を救済しよう**という菩薩の願いを起こして、**盧舎那仏**(俗に大仏と呼ばれる華嚴經の本尊)の金銅像一体をお造りする。……天下の富をもつ者は**私**(聖武天皇)であり、天下の勢いをもつ者も**私**(聖武天皇)である。この富と勢いをもって仏の尊像をお造りする。」

回 古今和歌集仮名序『古今和歌集』by 紀貫之
-------------------------

**やまとうた**(和歌)は、人の心を種として、多くの言葉となって出たものである。世の中の人、様々なことを行うので、そうした行いの中で、心で思ったことを、見るもの聞くものにつけて口に出していうのである。花のもとで鳴くうたいす鶯や水中に住む蛙の鳴く声を聞けば、生きとし生けるもの、歌を詠まない者がいるだろうか。

回 土佐日記『土佐日記』by 紀貫之
--------------------

この日記は、男が書く日記というものを女も書いてみようと思って記したものである。ある年(紀貫之は930年に土佐守に任官し、934年に離任した)の12月21日の戌の時刻(午後7～9時)に旅立ったのだが、その旅の事情を少々書き記したものである。

回 源氏物語『源氏物語』by 紫式部
--------------------

どの帝の時代のことであろうか。多数おられる女御・更衣(天皇の配偶者で、序列は皇后(中宮)・女御・更衣の順)の中に、それほど高い家柄の出身ではないが、特別に帝の寵愛を受けられた女性がいた。

回 浄土教『往生要集』by 源信
------------------

**往生極楽**(極楽浄土に往生)するための教えと修行は、**けがれの多い末法の世**(**末法思想**に基づく末法の世)における道しるべとなるものである。僧も俗人も、貴族も庶民も皆この教えに帰依しない者があるだろうか。**顕教・密教**といった仏教の教えは、経文も一つではなく、成仏するための修行も多い。知恵があり仏道修行に励んでいる人ならば、それほど難しいことではないだろうが、**私**(源信)のような頑なで愚かな者には、到底できないことである。こうした理由で、**念仏**の教えに限って、経論の中の重要な部分を集めてみた。この書を開いて修行すれば、教えもわかりやすく、修行も行いやすいであろう。内容は全部で10部門であり、3巻から成っている。(その10部門は)第1は汚れた現世を厭い離れること、第2は浄土への往生を願い求めること、第3は極楽浄土が最も尊いという根拠、……第9は極楽往生するための種々の修行、第10は問答によって他の教えと比較することである。この書を身近において、信心が弱まったり忘れそうになったりした時の備えとしたらよかろう。

回 往生集(空也)『日本往生極楽記』by 慶滋保胤
---------------------------

僧侶**空也**は、自分の父母の名前を言わず、本籍地から逃亡して世にいる。ある人は、皇族の流れをくむ出身であるという。常に南無阿弥陀仏を唱えている。そのため周囲からは**阿弥陀聖**とよばれる。また市中に住み仏教を説いているので、**市聖**とも呼ばれている。

回 僧兵の横暴『源平盛衰記』
----------------

白河法皇は、賀茂川の洪水、双六のさいころの目、**山法師**(比叡山延暦寺の僧兵)、これが**私**(白河法皇)の思い通りにならないものであると、常におっしゃっていたと伝えられている。

# ㊦ 平安末期の歌謡—今様—『梁塵秘抄』by 後白河法皇

仏は常に在せども、①現ならぬぞ②あはれるなる、人の音せぬ曉に、仄かに夢に見えたまふ  
 遊びをせむとや生まれけむ、戯れせむとや生まれけむ、遊ぶ子供の声聞けば、我が身さへこそ③動がるれ  
 〔①姿として現実に現れない ②尊く心うたれる、または仏の姿をおがめず悲しい、と解する二様ある ③自然におどり動きたくなる〕

# ㊦ 専修念仏『一枚起請文』by 法然

①もろこし②我がてうに、もろもろの智者達の③さたし申さるゝ、④観念の念ニモ非ズ。又⑤学文をして念の心を悟リテ申念仏ニモ非ズ。ただ往生極楽のためニハ、南無阿弥陀仏と申て、疑いなく往生スルゾト⑥思とりテ、申外ニハ、別ノ⑦子細候はず。…念仏ヲ信ぜん人ハ、たとひ⑧一代ノ法ヲ能々学ストモ、一文不知ノ愚とんの⑨身ニナシテ、尼入道ノ⑩無ちノともがらニ同シテ、⑪ちしやノふるまひヲせずして、⑫只一かうに念仏すべし。  
 〔①唐土。中国のこと ②我が朝。日本のこと ③沙汰 ④眼をとじて仏の世界を観想する念仏 ⑤学問 ⑥思いこんで ⑦理由・手段 ⑧釈迦一代の教え ⑨身になりきって ⑩無知の仲間 ⑪智者 ⑫ひたすら〕

# ㊦ 親鸞の悪人正機説『歎異抄』by 唯円

①善人なほもちて往生をとぐ、いはんや②悪人をや。しかるを世のひとつねにいはいく、②悪人を往生す、いかにいはんや①善人をやと。この条、③一旦その④いはれあるにたれども、⑤本願他力の⑥意趣にそむけり。……⑦煩惱具足のわれらはいづれの行にても生死をはなるゝことあるべからざるをあはれみたまひて、願をおこしたまふ本意、⑧悪人成仏のためなれば、他力をたのみたてまつる②悪人、⑨もとも往生の⑩正因なり。よりて善人だにこそ往生すれ、まして②悪人はと、仰さぶらひき。  
 〔①善行をつんで成仏しようとする人 ②善行をつんで成仏する能力に欠けていると自覚する人、自分の悪行を自覚する人 ③一応 ④理由 ⑤ひたすら弥陀の本願を信ずる ⑥教えのおもむき ⑦ありとあらゆる迷いにつきまといわれている ⑧悪人が浄土ですくわれる ⑨もっとも ⑩正しい原因〕

# ㊦ 日蓮の主張『立正安国論』by 日蓮

若し、先ず国土を安んじて、①現当を祈らんと欲せば、速かに②情慮を廻らし、念て③対治を加へよ。所以は何ん。薬師經の④七難の内、五難忽ち起り、二難猶残せり。所以「⑤他国侵逼の難、⑥自界叛逆の難」なり。  
 〔①現在と未来 ②深い考え ③災難退治 ④薬師經に、人々が疾病にかかる難以下七つの災難があげられている ⑤外国の来襲。元寇を予言したことになる ⑥国内の謀叛〕

# ㊦ 茶の効用『喫茶養生記』by 荣西

①將軍家いささか②御病悩。諸人奔走す。但し、ことなる御事なし。これもしくは去夜③御淵酔の余気か。ここに④葉上僧正御加持に候ずるところ、この事を聞き、良薬と称し本寺より茶一盞を召し進じ、⑤一卷の書を相副え献ぜしむ。茶の徳を嘗むるところの⑤書なり。①將軍家御感悦に及ぶと云々。  
 〔①源実朝 ②ご病気 ③酒宴 ④荣西 ⑤喫茶養生記〕

# ㊦ 只管打坐『正法眼藏随聞記』by 懷奘

一日①慧開云、「②叢林の③勤坐の④行履と云は如何」。⑤亦云、⑥只管打坐也。或は⑦閣上…或は樓下にして、常⑧坐をいとなむ。人に交り物語をせず、⑨麁者の如く⑩麁者の如くにして、常に独坐を好む也。  
 〔①道元の弟子懷奘 ②禅宗の寺院 ③修行 ④行いや生活 ⑤道元 ⑥ひたすら坐禅をくむこと ⑦閣上はたかどのの上、楼下はたかどの下。場所を選ばずの意 ⑧座定・坐禅 ⑨耳の聞こえない者 ⑩物を言うことのできない者〕

# ㊦ 専修念仏の批判『摧邪輪』by 高升

ここに①近代、②上人あり、一卷の書を作る。名づけて選訳本願念仏集と曰ふ。經論に③迷惑して、諸人を④欺誑せり。往生の行を以て宗とすと雖も、反って往生の行を⑤妨害せり。……  
 〔①最近 ②法然 ③迷いまどう ④まどわす ⑤妨害する〕

# ㊦ 能一能楽論—『花鏡』by 世阿弥

幽玄の①風体の事  
 書道諸事において幽玄なるをもて②上果とせり。ことさら③当芸において、幽玄の風体第一とせり。……  
 そもそも幽玄の④堺とは、まことにはいかなる所にてあるべきやらん。……ただ美しく柔かなる体、幽玄の本体なり。……  
 〔①芸風 ②最高の境地 ③能 ④境地〕

## ㊦ 平安末期の歌謡—今様—『梁塵秘抄』by 後白河法皇

阿弥陀如来さまは、不滅なものとしていつも存在するのだが、目に見えないことが、尊いのだ。人の物音のしないような静かな暁には、かすかに夢の中に姿を見せてくださいます。

私たちは遊びをしようとしてこの世に生まれてきたのだろうか？それとも戯れをしようとしてこの世に生まれてきたのだろうか？無心に遊んでいる子供たちの声を聞いていると、自分の体も自然と動き出すように思われる。

## ㊦ 専修念仏『一枚起請文』by 法然

中国や我が日本において、あらゆる智者(高僧)たちが勧める瞑想して仏の世界を観想する念仏のことでもありません。また学問をして観想の境地を理論的に理解して唱える念仏でもありません。ただ単に極楽浄土に往生するためには、南無阿弥陀仏と唱えて、疑いなく往生できるぞと信じきって念仏を唱えるという他には別の理由はないのです。……念仏を信じようとする人は、たとえ釈迦が生涯をかけて説かれた教を十分学んだとしても、学問のひとかけらもない人間になりきって、尼や入道などの無知の者たちと同じように、智者(高僧)のような振る舞いをせず、ただひたすら念仏だけを唱えるべきです。

## ㊦ 親鸞の悪人正機説『歎異抄』by 唯円

善人でさえも極楽に往生するのであるから、悪人が往生できないはずはない。ところが、世間の人は一般に「悪人でさえ往生するのだから、どうして善人が往生できないことがあろうか」と言っている。この言い分は一応正しいように思われるが、阿弥陀仏の本願である他力による救いの考え方には反している。……欲望や悩みにつきまとわれている私たちが、どのような修行をつんでも、生死を繰り返す苦しみから解放されない。そのことを阿弥陀仏はお憐みになって、救ってやろうという願いを起こされたのは、悪人を極楽浄土で救うためである。だから、阿弥陀仏の救いを求める悪人こそが、最も往生できる理由を備えているのである。それゆえ、善人でも往生するのだから、まして悪人が往生できないはずがないと、親鸞がおっしゃったのである。

## ㊦ 日蓮の主張『立正安国論』by 日蓮

もし、まず国土を平安にして、現在と未来の安楽を祈ろうと思うならば、速やかに深い考えをめぐらして、急いで煩惱を断ち切りなさい。その理由は何か。薬師経に見える七難の内、五難(疫病の流行・天体の異変・日蝕月蝕・風雨の異常・日照り)が実際に起こり、二難がまだ残っている。いうところの「他国が侵略してくる難(元寇を予言したことになる)と、国内に反乱が起こる難」である。

## ㊦ 茶の効用『喫茶養生記』by 栄西

将軍(源実朝)が御病気になられた。人々は奔走した。しかし、容態は一向によくならない。これは、もしかしたら昨晚の酒宴のせいではないか。そこで、葉上僧正(栄西)に加持を行わせるところ、これ聞き、良薬だと言って本寺から茶を持参し、一卷の書(『喫茶養生記』)を添えて献上した。これは茶の徳を誉めた書(『喫茶養生記』)である。将軍(源実朝)はたいそう喜んだという。

## ㊦ 只管打坐『正法眼蔵随聞記』by 懷奘

ある日、奘(懷奘)が質問した。「禅宗の道場での修行生活の送り方はどのようにすればよいのでしょうか」。師(道元)が言われた。「只管打坐(ひたすら坐禅すること)である。ある時は高殿の上で、ある時は高殿の下で、常に坐禅を行うのである。人と一緒にあっても雑談をせず、耳の聴こえない者や話すことのできない者のように、たえず一人で坐禅を好んですることである」。

## ㊦ 専修念仏の批判『摧邪輪』by 高弁

最近、上人(法然)がいて、『選択本願念仏集』という一卷の書を作った。経論を迷わせるもので、人々を惑わすものである。極楽往生の修行を宗旨としているが、かえって極楽往生の修行を妨害するものである。

## ㊦ 能一能楽論—『花鏡』by 世阿弥

幽玄(幽はかすか、ほのか、奥深いという意味)の芸風について  
すべての芸道において、幽玄が理想の美とされている。とりわけ我が芸(能)においては、幽玄の芸風が第一とされている。…  
一体、幽玄の最高の境地というのは、本当はどのようなものとしてあるべきなのであろうか。……ただ美しくもの柔らかな表情が幽玄の本質である。…

# 回 貨幣経済の浸透『政談』by 荻生徂徠

……①当時ハ②旅宿ノ境界ナル故、金無テハナラヌ故、米ヲ売テ金ニシテ、商人ヨリ物ヲ買ヒテ日々ヲ送ルコトナレバ商人主ト成テ武家ハ客也。故ニ③諸色ノ直段、武家ノ④心儘ニナラスコト也。武家皆⑤知行所ニ住スル時ハ、米ヲ売ラズニ事ス故、商人米ヲ欲シガルコトナレバ、武家主ト成テ商人客也。サレバ諸色ノ直段ハ武家ノ心儘ニ成ル事也。是レ皆⑥古聖人ノ⑦広太甚深ナル智慧ヨリ出タル⑧万点不易ノ捷也。

〔①この頃。享保の頃 ②旅宿先にいるような不安定な境遇 ③様々な物品 ④思い通りにならない ⑤領地 ⑥中国の聖人 ⑦広く深い ⑧永久に変わらない〕

# 回 大名の窮乏『経済録』by 太宰春台

①今ノ世ノ諸侯ハ、②大モ小モ、皆頭ヲタレテ商人ニ③無心ヲイヒ、江戸、京都、大坂、其外処々ノ富商ヲ憑デ、其④続ケ計ニテ世ヲ渡ル。⑤色入ヲバ悉ク⑥其方ニ振向ケ置テ、収納ノ時節ニハ、⑦子銭家ヨリ⑧倉ヲ封ズル類也。子銭家トハ、金銀ヲ借ス者ヲ云フ。

〔①享保の頃 ②石高の多い大大名も、石高の少ない小大名も ③借金をする ④金銭の援助 ⑤知行からの年貢収入 ⑥借金の返済 ⑦高利貸のこと ⑧米蔵を差し押さえる〕

# 回 藩専売制『経済録拾遺』by 太宰春台

……凡そ今の①諸侯は、金なくては②国用足らず、職責もなりがたければ、唯如何にもして金を豊饒にする計を行ふべし。金を豊饒にする術は③市賣の利より近きはなし。諸侯として④市価の利を求むるは、国家を治むる上策にはあらねども、当時の急を救ふ一術なり。

〔①大名 ②藩の財政難 ③商人 ④市賣の誤りか〕

# 回 寛政異学の禁『憲法類集』

①林太学頭江

②朱学の儀は、③慶長以来御代々御信用の御事にて、已ニ④其方家代々右学風維持の事仰せ付け置かれ候儀ニ候得共、油断無く⑤正学励、門人共取立申すべき筈に候。然処近來世上⑥種々新規の説をなし、⑦異学流行、風俗を破り候類之有り、全く⑧正学衰微の故ニ候哉、甚だ相済まざる事ニて候。其方門人共の内にも右体の學術純正ならざるも、折節は之有る様にも相聞え、如何ニ候。此度⑨聖堂緒取締厳重に仰せ付けられ、⑩柴野彦助、⑪岡田清助儀も⑫右御用仰せ付けられ候事に候得ば、能々此旨申し談じ、急度門人共異学相禁じ、猶又、自門に限らず他門ニ申し合せ、⑬正学講窮致し、人材取立候様相心掛申すべく候事。

〔①大学頭林信敬 ②朱子学 ③徳川家康が林羅山を登用した 1605(慶長 10)年 ④林家 ⑤朱子学のこと ⑥新学説。すなわち古学・陽明学・折衷学など ⑦朱子学以外の儒学の学派を異学であるとした ⑧聖堂学問所 ⑨柴野栗山 ⑩岡田寒泉 ⑪右の御用。聖堂に属する儒官に登用されたこと ⑫講義・研究〕

# 回 海国貿易論『経世秘策』by 本多利明

……日本は海国なれば、渡海・運送・交易は、固より①国君の天職最第一の国務なれば、万国へ船舶を遣りて、国用の要用たる産物、及び金銀銅を②抜き取テ③日本へ入れ、国力を厚くすべきは海国④具足の仕方なり。自国の力を以て治る計りにては、国力次第に弱り、其弱り皆農民に当り、農民連年⑤耗減するは自然の勢ひなり。

〔①将軍をさす ②貿易による利益をもってくる意 ③輸入の意 ④必然的に備わっている ⑤弱くなる〕

# 回 無神論『夢の代』by 山片蟠桃

生熟スルモノハ、年数ノ短調ハアレドモ、大テイソレゾレノ持前有リテ死枯セザルハナシ。生ズレバ智アリ、神アリ、血氣アリ、①四支・心志・臟腑皆働キ、死スレバ②智ナシ、神ナシ、血氣ナク、③四支・心志・臟腑ミナ働クコトナシ。然レバ何クンゾ④鬼アラン。又神アラン。……

〔①手足・心臓・はらわた ②知能の働き ③靈魂〕

# 回 海防論『海国兵談』by 林子平

①当世の俗習にて、異国船の②入津ハ長崎に限たる事にて、別の浦へ船を寄ル事ハ決して成らざる事ト思ひ。実に③太平に數腹するト云べし。……④当時長崎に厳重に⑤石火矢の備有て、却て⑥安房、相模の海湾に其備なし。此事甚いぶかし。細力に思へば、江戸の日本橋より⑦唐・阿蘭陀迄境なしの水路也。然ルを此に備へずして長崎にのみ備るは何ぞや。

〔①今の世の習わし ②入港 ③平和に慣れきった人 ④現在 ⑤大砲のこと ⑥房総・三浦半島にある旧国名 ⑦清国〕

## 回 貨幣経済の浸透『政談』by 荻生徂徠

……現在(享保の頃)は、武士は旅の宿先にいるような不安定な境遇なので、金が無くては立ち行かないから、米を売って金にして、商人より品物を買って日々を送っているの、商人が主となり、武家は客となってしまった。したがって、諸物価の値段が武家の思うようにはならないのである。武家が皆知行地(領地)に住めば、米を売らなくても済むので、商人が米を欲しがることになり、武家が主となり、商人は客となる。そうなれば、諸物価の値段は武家の思うままになる。これは皆、昔の中国の聖人の広く深い知恵より生まれた永久に変わらない掟である。

## 回 大名の窮乏『経済録』by 太宰春台

現在(享保の頃)の大名は、石高の多い大名も少ない大名も、すべてが頭を下げて町人に借金を頼み、江戸・京都・大坂、その他あちこちの富商に頼って、彼らからの借金を続けていくことで世を渡っている。村入り(知行地の農民からの年貢収入)を、ほとんど富商からの借金の返済にあて、年貢を収納する期には、子銭家という高利貸によって米蔵を封印されて、差し押さえられてしまう。子銭家とは、大名に金銀を貸す者をいう。

## 回 藩専売制『経済録拾遺』by 太宰春台

……今の大名は、金がなければ藩も財政難になり、満足な政治もできないのだから、何よりも金を手に入れる工夫を行うべきである。金を手に入れる方法は市賣(商人)のように商売をするのが一番よい。大名が市買(商人)のように商売を行うのは、国家を治める上で良い方法とはいえないが、財政難の中で急いで金を手に入れるには1つの手段である。

## 回 寛政異学の禁『憲法類集』

林大学頭(大学頭林信敬)へ

朱子学については、慶長(徳川家康が林羅山を登用した1605年)以来、將軍家が代々信用してきた学問で、すでにお前の家(林家)が代々その学風を維持するよう命じられているのであるから、油断することなく正学(朱子学)を学び研究し、門人たちを取り立てなければならない。ところが最近、世間ではいろいろな新しい学説(古学・陽明学・折衷学など)を唱え、異学(朱子学以外の儒学の学派)が流行し、風俗をしている。これは、正学(朱子学)が衰えたためであろうか、このままでは済まないことである。お前の門人共の中にも、前に述べたような正しくない学問を学んでいる者も時々いるような噂も聞いているが、困ったことである。この度、聖堂(聖堂学問所)の取り締まりを嚴重にすることを命じられ、柴野彦助(柴野栗山)・岡田清助(岡田寒泉)も、右の御用を仰せつけられたので、よくこの趣旨を申し聞かせ、門人には異学を学ぶことを厳しく禁じ、そしてまた、自分の門下に限らず他の門派とも話し合い、正学(朱子学)を講義・研究して、人材を取り立てるように心がけなくてはならない。

## 回 海国貿易論『経世秘策』by 本多利明

……日本は海国(海で囲まれた国)であるから、渡海・運送・交易は、本来国君(將軍)の仕事の中で最も重要な政務であり、万国へ船を派遣して、国政に役立つ産物や金・銀・銅を手に入れて日本に輸入し、国力を盛んにすることは海国が備える当然の方法である。自国の力をもって国を治めるばかりでは、国力は次第に弱まり、その衰弱がすべて農民の負担となり、農民が年々衰え減少するのは自然の流れである。

## 回 無神論『夢の代』by 山片蟠桃

あらゆる生き物は、年数の長い短いはあるけれども、ほとんどがそれぞれの寿命があり、死んで枯れてしまう。生きていれば、知恵があり、神経があり、血が流れ、手足も心臓も腸がみな働くが、死んでしまえば、知恵もなく、神経もなく、血も流れず、手足も心臓も腸もみな動くことはない。それならば、どうして鬼や神のような霊魂などというものが存在するだろうか。そんなことは全くありえるものではない。……

## 回 海防論『海国兵談』by 林子平

今の世の習わしとして、外国船の入港は長崎に限られていて、他の港に船を寄せることは決してできない事と思っている。実に平和に慣れきった人というべきである。……現在、長崎には嚴重に砲台の備えがあるが、安房(房総半島)・相模(三浦半島)の港にはその備えがない。この事は大変不可解である。よく考えてみると、江戸の日本橋から清国やオランダまでは境のない水路で結ばれている。にもかかわらず、ここ(江戸周辺)に備えをしないで、長崎のみ備えるとはどういうことであろうか。

# 回 身分制の否定『自然真営道』by 安藤昌益

①中平土の②人倫は③土穀盛んに耕し出し、山里の④人倫は薪材を取りて之を平土に出し、海浜の人倫は諸魚を取て之を平土に出し、薪材・十穀・諸魚、之を易して、山里にも薪材・十穀・諸魚、之を食し之を家作し、海辺の人倫も家を作り穀食し魚菜し、平土の人も相同ふして、平土に過余も無く、山里に少く不足も無く、海浜に過不足無く、彼に富も無く、此に貧も無く、④此に上も無く、彼に下も無く、……⑤上無れば下を責め取る⑥奢欲も無く、下無れば上に諂ひ巧むことも無し。……各耕して子を育て、子壯になり、能く耕して親を養ひ子を育て、一人之を為れば万人之を為て、貪り取る者無れば貪るる者も無く、⑦転定も人倫も別つごとく無く、⑦転定生ずれば人倫耕し、此の外一點の私事無し。是れ⑧自然の世の有様なり。

〔①平地 ②人間 ③穀物 ④支配階級も被支配階級もない ⑤支配階級 ⑥はなはだしい欲望 ⑦天地 ⑧安藤昌益の考える理想社会をあらわした言葉。万人農耕の無階級平等社会〕

# 回 百姓一揆発生の原因『秘本玉くしげ』by 本居宣長

百姓町人大勢徒党して、強訴^{ツラコ}を濫放^{ランポウ}することは、昔は治平の世には、③をさをさうけ給はり及ばぬこと也。近世になりても、⑤先年はいと稀なる事なりしに、⑥近年は年々所々にこれ有て、めづらしからぬ事になれり。……抑此事の起るを考ふるに、いづれも⑦下の非はなくして、皆⑧上の非なるより起れり。今の世百姓町人の心も、あしくなりたりとはいへ共、よくよく堪がたきに至らざれば、⑨此事はおこる物にあらず。……近年たやすく一致し固まりて、⑩此事の起りやすきは、⑪畢竟これ人爲にはあらず。上たる人深く遠慮をめぐらさるべきこと也。然りとていかほど起らぬやうのかねての防ぎ工夫をなす共、⑬末を防ぐばかりにては、止がたかるべし。とかくその因て起る本を直さずばあるべからず。その本を直すといふは、⑭非理のはからひをやめて、民をいたはる是なり。たとひいかほど困窮はしても、上のはからひだによろしければ、此事は起る物にあらず。

〔①乱暴 ②平和な時代 ③ほとんど ④近頃。ここでは江戸時代の意 ⑤江戸時代初期 ⑥天明の頃 ⑦下々の者。百姓や町人 ⑧上に立つ者。支配者。幕府や領主をさす ⑨百姓一揆 ⑩つまり。結局は ⑪人の意志の力だけによるのではない ⑫先々のことまでよく考える ⑬目先にとらわれた処置。表面的な解決をもたらす処罰や鎮圧をさす ⑭非道な扱い。悪政〕

# 回 九変五変論『読史余論』by 新井白石 早稲田・上智・京大・聖心女子・法政・立正など

①神皇正統記に、光孝天皇より上つかたは②二向③上占也。方の例を勘ふるも、仁和より下つかたをぞ申める。五十六代清和幼主にて、外祖良房摂政す。是、外戚専権の始<一変>。基経④外舅の親によりて陽成を廃し光孝を建しかば、天下の権⑤藤氏に帰す。そののち⑥関白を置き或は置ざる代ありしかど、⑦藤氏の権おのづから日々盛也<二変>。六十三代冷泉より……後冷泉、凡八代百三年の間は⑧外戚権を専にす<三変>。後三条・白河兩朝は⑨政天子に出ず<四変>。堀河……安徳、凡九代九十七年の間は、⑩政上皇に出ず<五変>。後鳥羽・土御門・順徳、三世凡三十八年の間は、鎌倉殿、天下兵馬の権を分ち掌らる<六変>。後堀河……光厳、十二代凡百十二年の間は、北条、⑪陪臣にて国命を執る<七変>。後醍醐重祚す、天下朝家に帰する事纔に三年<八変>。そののち天子⑫蒙塵。尊氏、光明を立てて共主となしてより、天下ながく武家の代となる<九変>。

武家は源頼朝幕府を開て、⑬父子三代天下兵馬の権を司どれり。凡三十三年<一変>。⑭平義時、承久の乱後天下の権を執る。そののち、七代凡百十二年、高時が代に至て滅ぶ<二変>。<この時に⑮摂家将軍二代、親王将軍四代ありき。……後醍醐中興ののち、⑯源尊氏反して天子⑰蒙塵。尊氏、光明院を北朝の主となして、みづから幕府を開く。子孫相継て十二代におよぶ。凡二百卅(三十)八年<三変>。<このうち南北戦争五十四年、⑱応仁の乱後百七年の間、天下大に乱る。実に七十七年が間、武威あるがごとくなれども、東国は皆鎌倉に属せしなり。……足利殿の末、織田家勃興して⑲将軍を廃し、⑳天子を挾みて天下に令せんと謀りしかど、事未だ成らずして凡十年がほど⑳其臣光秀に弑せらる。豊臣家、其㉑故實を用ひ、みづから関白となりて天下の権を恣にせしこと、凡十五年<四変>。そののち終に㉒当代の世となる<五変>。

〔①著者は北畠親房 ②すべて ③古代 ④妻の父親 ⑤藤原氏 ⑥醍醐・村上天皇時代(延喜・天曆の治) ⑦藤原実頼が関白となつてから頼通が関白を辞すまでの摂関政治 ⑧後三条・白河天皇時の天皇親政 ⑨1086年から始まった白河・鳥羽・後白河上皇(法皇)の院政 ⑩執権北条氏の執権政治 ⑪難を避けて他所へ行漂泊すること ⑫頼朝・頼家・実朝の三代 ⑬北条義時。北条氏は平氏の一族 ⑭藤原(九条)頼経・頼嗣 ⑮足利尊氏。足利尊氏は源氏の一族 ⑯1573年に将軍足利義昭を京都から追放して室町幕府を滅ぼした ⑰天皇を擁して ⑱本能寺の変 ⑲昔の人の用いた知略 ⑳徳川家の時代〕

※読史余論は、新井白石が6代将軍徳川家宣に武家の勃興の過程を進講した際の草稿で、公家政権における「九変」、武家政権における「五変」という「九変五変論」により、徳川幕府の正統性を説いたもの。こうした歴史書が記されるようになった背景には、江戸時代に朱子学の「大義名分論」が重視されるようになったように、儒学が隆盛し文治政治が行われて、徳川幕府の正統性など歴史についても合理的・実証的に解釈する必要性が出たためである。なお、公家政権の<六変>以降と武家政権の<一変>以降の中で時代的に重複している部分があるのは、鎌倉幕府・室町幕府と京都朝廷が並存しており、将軍が朝廷の権威に依存し、経済基盤も重複していたため。

## 回 身分制の否定『自然真営道』by 安藤昌益

平地に住む人々は盛んに耕作して穀物をつくり、山里に住む人々は薪用の木材を切り出して平地へ出荷し、海岸に住む人々は魚をとって平地へ出し、薪材・穀物・魚を互いに交易して、山里でも薪材・穀物・魚のこれらを食べて家をつくり、海辺に住む人々も家をつくり穀物や魚・野菜を食べ、平地の人々も同様にする。こうして平地に余りもなく、山里でも不足なく、海辺においても過不足なく、一方に富める者もなく、他方に貧しい者もなく、ここに支配する者もなく、むこうに支配される者もなく、……支配者がいなければ支配される者を責め取るおごった欲望もなく、支配される者がいなければ支配者に諂ったり、または企みをもつこともない。……各々が耕作して子を育て、子が大人になり、一生懸命耕作して親を養い、また、その子を育て、一人がこのようにすれば皆がこれを行い、奪い取る者がいないので奪い取られる者もない。天地と人々は常に一緒に、天地が誕生すると(陽が昇れば)、人々は耕作を始める。これ以外に一切の私事もない。これが自然の世の様子である。

## 回 百姓一揆発生の原因『秘本玉くしげ』by 本居宣長

百姓・町人が大勢で徒党を組んで、強訴乱暴するようなことは、昔の平和な世の中では、ほとんど聞いたことのなかったことである。江戸時代になっても、以前(江戸時代初期)は大変まれなことであつたが、この頃(天明の頃)になると毎年あちらこちらで起こり、珍しくないことになった。……そもそも、百姓一揆が起こる原因は、いずれも下の者の落ち度はなく、皆上に立つ者の落ち度から起こるのである。今の世、百姓や町人の心も悪くなったとはいうものの、よほど我慢できなくならなければ、このようなことは起こるものではない。……近頃、容易に団結して一揆が起きやすいのは、結局は人の仕業によるものではない。上に立つ者は、一揆が起こることのないよう先々のことまでよく考えるべきことである。だからといって、どれ程かねてから防止策の工夫をしようとも、目先にとらわれた表面的な鎮圧策ばかりでは一揆はなくなるであらう。とにかく、その百姓一揆が起こる根本を直さなければならない。その根本を直すというのは、悪政をやめて、民を大切にすることである。たとえ、どんなに困窮しても、上に立つ者の政治が良ければ、この事は起きるものではない。

## 回 九変五変論『読史余論』by 新井白石

(北畠親房が著した)神皇正統記には、第 58 代光孝天皇より以前はすべて古代とある。いろいろな例を考えると、光孝天皇の仁和年間(885～889 年)より後を新しい時代としているようだ。第 56 代清和天皇は幼少であつたので、外祖父の藤原良房が摂政となった。これは外戚が権力を握った始めである<一変>。藤原基経は陽成天皇の女御(佳珠子)の父であることを利用して陽成天皇を退位させ、光孝天皇を擁立したので、天下の権勢は藤原氏に帰した。その後、醍醐・村上天皇の延喜・天曆の治のように)関白を置いたり置かなかつたりした時代があつたが、藤原氏の権勢は当然日々盛んとなった<二変>。第 63 代冷泉天皇より……後冷泉天皇までの 8 代・103 年の間は、外戚が権力を独占した(摂関政治)<三変>。後三条天皇・白河天皇は天皇が政治を行った(天皇親政)<四変>。堀河天皇から安徳天皇までの 9 代・97 年間は、上皇が政治を行った(1086 年から白河・鳥羽・後白河上皇(法皇)が行った院政)<五変>。後鳥羽・土御門・順徳天皇までの 3 代・38 年の間は、鎌倉幕府が天下の武力を掌握した<六変>。御堀河天皇から光厳天皇まで 12 代・112 年の間は、執権北条氏が将軍の家臣として政治を行った(執権政治)<七変>。後醍醐天皇が重祚して、天下が朝廷に戻ったのはわずかに 3 年<八変>。その後、天皇は都から逃れて、足利尊氏が光明天皇を立てて北朝の主として、天下は長く武家の世となった<九変>。

武家は源頼朝が幕府を開いて、父子 3 代(頼朝・頼家・実朝の 3 代)天下の武力を掌握した。約 33 年間<一変>。北条義時(北条氏は平氏の一族)は承久の乱後、天下の実権を握った。その後、7 代 112 年間たつて北条高時の時代に至り、滅亡した<二変>。この時に摂家将軍(藤原(九条)頼経・頼嗣)2 代、親王将軍(宗尊・惟康・久明・守邦親王)4 代があつた>……後醍醐天皇が親政を再開したが、足利尊氏(足利氏は源氏の一族)が叛いて天皇は都から逃れた。尊氏は光明天皇を立てて北朝の主として、自ら幕府を開き、子孫が続いて 12 代に及んだ。約 238 年間<三変>。<このうち南北朝の動乱が 54 年、応仁の乱後の 107 年の間、天下は非常に乱れた。実に 77 年の間、武家の威光があるようにみえるが、東国はみな鎌倉に属していた。>……足利家の後に、織田家が台頭して将軍を廃し(足利義昭を京都から追放)、天皇を擁して天下に号令しようと謀ったが、成就しないうちにおよそ 10 年間で家臣明智光秀によって殺された(本能寺の変)。豊臣家は古人の知恵を利用して自ら関白となって、天下の権力を思いのままにしたのが、約 15 年間であつた<四変>。その後、とうとう徳川家の世となった<五変>。

# Ⅱ 蘭学の評価『西洋紀聞』by 新井白石

凡そ、①其人②博聞強記にして、彼方多学の人と聞えて、天文地理の事に至ては、③企て及ぶべしとも覺えず。其④教法を説くに至ては、一言の道にちかき所もあらず。智愚たちまちに地を易へて、二人の言を聞くに似たり。こゝに知りぬ、彼方の学のごときは、ただ⑤其形と器とに精しき事を。所謂⑥形而下なるもののみを知りて、⑦形而上なるものは、いまだあづかり聞かず。〔①イタリア人宣教師シドッチ ②博学であること ③我々の知識が及ばない ④キリスト教 ⑤形(物質)と器(技術)に詳しく、精神面は不十分ということ ⑥形のあるもの。具体的なもの ⑦形のないもの。観念的・抽象的なもの〕

# Ⅱ 蘭学の発達―解体新書の苦労談『蘭学事始』by 杉田玄白

一、帰路は、①良沢、②淳庵と、③翁と三人同行なり。途中にて語り合ひしは、さてさて、今日の④実験一々驚き入る。且つこれまで心付かざるは恥づべきことなり。苟くも医の業を以て互ひに主君主君に仕ふる身にして、その術の基本とすべき吾人の形態の真形をも知らず、今迄一日一日とこの業を勤め来りしは面目もなき次第なり。

一、⑤その翌日、良沢が宅に集まり、前日のことを語り合ひ、先づ、彼「ターヘル・アナトミア」の書にうち向ひしに、誠に鱈・舵なき船の大船に乗り出だせしが如く、茫洋として寄るべきかたなく、ただあきれにあきれて居たるまでなり。……

〔①前野良沢 ②中川淳庵 ③杉田玄白 ④死刑囚の死体解剖。腑分け ⑤解剖を見た翌日。1771年3月5日 ⑥ドイツ人クルムスの解剖書『解剖学図譜』のオランダ語翻訳本〕

# Ⅱ 蘭学の統制『宇下人言』by 松平定信

①寛政四五のころより②紅毛の書を集む。蛮国は③理にくはし、天文地理又は兵器あるは内外科の治療、殊に益も少なからず。されどもあるは④姦奇の媒となり、または⑤悪しき事などいひ出す。さらば禁ずべしとすれど、禁ずれば猶やむべからず。況やまた益もあり。さらば⑥其書籍など、⑦心なきものの手には多く渡り侍らぬやうにはすべきなり。……

〔①1792～93年頃 ②オランダ ③科学が発達している ④関心を持つきっかけ ⑤幕藩体制への批判的な言辭をさす。具体的には『海国兵談』がこれにあたる ⑥『海国兵談』をさす ⑦思慮にとぼしいもの。幕府部外者・批判者をさす〕

# Ⅱ 心学―商人蔑視の社会を批判―『都鄙問答』by 石田梅岩

①四民ヲ治メ玉フハ君ノ職ナリ。君ヲ相ルハ四民ノ職分ナリ。士ハ元来位アル臣ナリ。農人ハ②草莽ノ臣ナリ。商工ハ③市井ノ臣ナリ。……商人ノ売買スルハ天下ノ相ナリ。④網工人ニ⑤作料ヲ給ルハ工ノ禄ナリ。農人ニ⑥作聞ヲ下サルルコトハ、是モ士ノ禄ニ同ジ。天下万民産業ナクシテ、何ヲ以テ立ツベキヤ。商人ノ買利モ天下御免シノ禄ナリ。夫ヲ汝独、売買ノ利バカリヲ慾心ニテ道ナシト云ヒ、商人ヲ悪ンデ断絶セントス。何以テ商人計リヲ賤メ嫌フコトゾヤ。

〔①士農工商 ②民間 ③まち ④職人 ⑤工賃 ⑥耕作料〕

## 〔干支の法〕

		十 二 支											
		子(鼠)	丑(牛)	寅(虎)	卯(兔)	辰(龍)	巳(蛇)	午(馬)	未(羊)	申(猿)	酉(鶏)	戌(犬)	亥(猪)
五行・十干	木	兄 甲(カ)	弟 乙(カツ)	兄 丙(ヘ)	弟 丁(テ)	兄 戊(ホ)	弟 己(キ)	兄 庚(カ)	弟 辛(シ)	兄 壬(ジ)	弟 癸(キ)		
		甲子	乙丑	丙寅	丁卯	戊辰	己巳	庚午	辛未	壬申	癸酉	甲戌	乙亥
	火	兄 丙(ヘ)	弟 丁(テ)	兄 戊(ホ)	弟 己(キ)	兄 庚(カ)	弟 辛(シ)	兄 壬(ジ)	弟 癸(キ)				
		丙子	丁丑	戊寅	己卯	庚辰	辛巳	壬午	癸未	甲申	乙酉	丙戌	丁亥
	土	兄 戊(ホ)	弟 己(キ)	兄 庚(カ)	弟 辛(シ)	兄 壬(ジ)	弟 癸(キ)						
		戊子	己丑	庚寅	辛卯	壬辰	癸巳	甲午	乙未	丙申	丁酉	戊戌	己亥
	金	兄 庚(カ)	弟 辛(シ)	兄 壬(ジ)	弟 癸(キ)								
		庚子	辛丑	壬寅	癸卯	甲辰	乙巳	丙午	丁未	戊申	己酉	庚戌	辛亥
	水	兄 壬(ジ)	弟 癸(キ)										
		壬子	癸丑	甲寅	乙卯	丙辰	丁巳	戊午	己未	庚申	辛酉	壬戌	癸亥

※干支の法は十干と十二支を組み合わせた 60 を周期とする数詞。ゆえに、干支は 60 年周期となる。

- ①歴史事項 乙巳の変(645)・甲子の宣(664)・庚午年籍(670)・壬申の乱(672)・庚寅年籍(690)・戊戌封事(1838) 戊戌夢物語(1838)・戊辰戦争(1868～)・壬申戸籍(1872)・壬申地券(1872)・戊申詔書(1908)・辛亥革命(1911)
- ②史料(資料) 朝鮮出兵＝辛卯年(391)・稻荷山古墳出土鉄剣銘＝辛亥年(471) 隅田八幡神社人物画像鏡銘＝癸未年(443or503)・仏教公伝＝戊午説(538)・壬申説(552)
- ③日朝関係 癸亥約条(嘉吉条約)(1443)・壬辰の倭乱(文禄の役)(1592)・丁酉の倭乱(慶長の役)(1597)・己酉約条(慶長条約)(1609)・壬午事変(軍乱)(1882)・甲申事変(政変)(1884)・甲午農民戦争(1894)

### ㊦ 蘭学の評価『西洋紀聞』by 新井白石

おおよそ、その人(シドッチ)は博学であり、西洋では優れた学者として知られ、天文・地理の事に関しては、我々の知識が及ぶところではない。(シドッチの言うことはいろいろと理にかなっているが)一たびキリスト教の教えを説くことになると、道理にかなった所が一つもなくなってしまう。智者が突然愚者に入れかわって、まるで別の人が話しているような感じがする。これでわかるのは、西洋の学問は、ただその形(物質)と器(技術)に詳しいだけということである。いわば(物質や技術などの形の具体的な)形而下のものだけを知っていて、(道徳などの観念的・抽象的な)形而上のものについてはほとんど知らない。

### ㊦ 蘭学の発達―解体新書の苦労談『蘭学事始』by 杉田玄白

一、帰路は前野良沢・中川淳庵と私(杉田玄白)の3人が一緒であった。途中で帰り合ったことは、いやいや、今日の実験(1771年3月4日の千住小塚原の刑場で行われた死刑囚の死体解剖)はどれも驚くことばかりであった。また、これまで気づかなかったことは恥ずべきことである。いやしくも医師として互いに主君に仕える身で、その医術の基本である人間の形態の本当の姿を知らず、今まで毎日この仕事を勤めてきたのは面目ない次第だ。

一、その翌日(解剖を見た翌日の1771年3月5日)、良沢の家に集まり、前日のことを語り合い、まず、その「ターヘル・アナトミア(ドイツ人クルムスの解剖書『解剖学図譜』のオランダ語翻訳本)」の書に向かったが、本当に艦も舵もない船で大海に乗り出したようなもので、広々として寄るべきところもなく、ただあきれ返るばかりであった。

### ㊦ 蘭学の統制『宇下人言』by 松平定信

寛政4～5年(1792～93年)頃から、紅毛(オランダ)の本を集めた。西洋は科学が発達していて、天文・地理や兵器、内科・外科の治療については、有益なものも多い。しかし、人々が関心をもつきっかけとなり、幕藩体制を批判するような悪いこと(具体的には『海国兵談』がこれにあたる)を言いだす元にもなる。それならば、禁止すればよいかというと、禁止すればかえって興味をもつ者も増えてしまう。まして、有益なものでもある。そこで、そのような本(『海国兵談』)などは、幕府を批判する部外者の手に入らないようにしなければならない。……

### ㊦ 心学―商人蔑視の社会を批判―『都鄙問答』by 石田梅岩

士農工商を治めるのは君主の仕事であり、君主を助けるのは士農工商の仕事である。武士はもともと位をもった臣下であり、農民は野にいる臣下であり、商人・工人は町にいる臣下である。……商人が売買するのは、世の中の助けとなる。職人に工賃を払うことは職人への給料であり、農民が耕作料を得ていることは、武士が俸禄(給料)をもらうことと同じである。天下の人々が産業に関わることで、世の中は動いている。商人が商売で利益を得ることも天下で認められていることである。それなのに、商人ばかりが商売の利益を得ることが欲心であり、「道」を知らないことであると叱咤し、商人を憎んで断絶しようとする。どういうわけで、商人ばかりを賤んだり、嫌うのであろうか。

## ☑ 福沢諭吉の啓蒙思想『学問のすゝめ』by 福沢諭吉

①天は人の上に人を造らず、人の下に人を造らずと云へり。されば天より人を生ずるには、万人は万人皆同じ位にして、生れながら貴賤上下の差別なく、万物の霊たる身と心との働を以て天地の間にあるよろづの物を資り、以て衣食住の用を達し、自由自在、互に人の妨をなさずして各安楽にこの世を渡らしめ給ふの趣意なり。されども今広く此人間世界を見渡すに、かしこき人あり、おろかなる人あり、貧しきもあり、富めるもあり、貴人もあり、下人もありて、其有様雲と泥との相違あるに似たるは何ぞや。其次第甚だ明なり。②英語教に、人学ばざれば智なし、智なき者は愚人なりとあり。されば賢人と愚人との別は学ぶと学ばざるとに由て出来るものなり。

[①天賦人權思想(人間は天から平等に権利を授かっているという説)に基づいたもの ②平安末期に作成されたものと推定されている初等教科書。中国古典の格言を中心に集めた教訓書で、江戸時代に刊本となり広範に流布され、寺子屋で使用された]

## ☑ 被仰出書(学事奨励に関する太政官布告)－学制序文(1872)－『法令全書』

人々自ラ其身ヲ立テ、其①産ヲ治メ、其②業ヲ昌ニシテ、以テ其生ヲ遂ル所以ノモノハ他ナシ、身ヲ修メ、智ヲ開キ、③才芸長スルニヨルナリ。而テ其身ヲ脩メ、智ヲ開キ、才芸ヲ長スルハ、学ニアラサレハ能ハス。是レ学校ノ設アル所以ニシテ、④且思慮行、言語、書算ヲ初メ、士官・農商・百工・技芸及ビ法律・政治・天文・医療等ニ至ル迄、凡人ノ営ムトコロノ事、学アラサルハナシ。人能ク其才ノアル所ニ応シ、勉勵シテ之ニ従事シ、而シテ後初テ⑤生ヲ治メ、産ヲ興シ、業ヲ昌ニスルヲ得ヘシ。サレハ学問ハ身ヲ立ルノ財本共云ヘキ者ニシテ、人タルモノ誰カ学ハスシテ可ナランヤ。……之ニ依テ、今般⑥文部省ニ於テ⑦学制ヲ定メ、追々教則ヲモ改正シ、布告ニ及フヘキニツキ、自今以後、一般ノ人民(華士族農工商及婦女子)必ス邑ニ不学ノ戸ナク、家ニ不学ノ人ナカラシメン事ヲ期ス。

[①資産をたくわえる ②生計をたてていくこと ③才能や技芸 ④平素の行動 ⑤暮らしの道をたてる ⑥1871年に創設された教育・学術・文化行政の中央行政官庁 ⑦学制の内容は6編109章からなり、学区・学校・教員・生徒・試業・留学規則・学費などについて規定。学区は全国を8大学区、各大学区を32中学区、各中学区を210小学区に分け、各区1校とした]

## ☑ 教育に関する勅語(教育勅語)(1890)－第一次山県有朋内閣－『法令全書』

①朕惟フニ我カ②皇祖皇宗國ヲ肇ムルコト宏遠ニ徳ヲ樹ツルコト深厚ナリ。我カ臣民克ク忠ニ克ク孝ニ億兆心ヲ一ニシテ世々厥ノ美ヲ濟セルハ此レ我カ④国体ノ精華ニシテ、⑤教育ノ淵源亦実ニ此ニ存ス。爾臣民、父母ニ孝ニ兄弟ニ友ニ夫婦相和シ朋友相信シ⑥恭儉己レヲ持シ博愛衆ニ及ホシ、学ヲ修メ業ヲ習ヒ以テ智能ヲ啓発シ⑦徳器ヲ成就シ進テ公益ヲ広メ⑧世務ヲ開キ、常ニ國憲ヲ重シ國法ニ遵ヒ一旦⑨緩急アレハ義勇公ニ奉シ以テ⑩天壤無窮ノ皇運ヲ扶翼スヘシ。是ノ如キハ独リ朕カ忠良ノ臣民タルノミナラス、又以テ爾祖先ノ遺風ヲ顕彰スルニ足ラン。斯ノ道ハ実ニ我カ皇祖皇宗ノ遺訓ニシテ子孫臣民ノ俱ニ遵守スヘキ所、之ヲ古今ニ通シテ謬ラス、之ヲ中外ニ施シテ悖ラス、朕爾臣民ト俱ニ拳々服膺シテ咸ニ其徳ヲ一センコトヲ庶幾フ。

⑪明治二十三年十月三十日→全国の学校に配布された教育勅語と御真影(キヨソネが描いた天皇の肖像画)は

御名 御璽

各学校の奉安殿という建物に納められ、学校の儀式などで奉読された

[①天皇の一人称。ここでは明治天皇 ②天皇家の祖先神とされる天照大神に始まる天皇歴代の祖先 ③人民。すべての国民 ④国柄の優れて美しいこと ⑤教育の源もこの国体の美に根ざす ⑥人に対しては恭しく、自分自身の言行を慎み深くする ⑦徳行と器量。徳性と能力 ⑧世の中の務め ⑨国家の危急の場合 ⑩天地とともに極まりない皇室の運命 ⑪1890年]

## ☑ 天皇の人間宣言『官報』

然れども①朕は爾等国民と共に在り、常に利害を同じうし②休戚を分たんと欲す。朕と爾等国民との間の③紐帯は終始相互の信頼と敬愛とに依りて結ばれ、単なる神話と伝説とに依りて生ぜるものに非ず。天皇を以て④現御神とし、且日本国民を以て他の民族に優越せる民族にして、延て世界を支配すべき運命を有すとの⑤架空なる觀念に基くものに非ず。

[①天皇の一人称。昭和天皇 ②喜びと悲しみ ③ひとと帯。すなわち、つながり ④あらひとがみ ⑤太平洋戦争の間、大和民族最優秀論や、八紘一宇の理念が盛んに宣伝されていた]

## ☑ 教育基本法(1947)－第一次吉田茂内閣－『官報』

われらは、さきに日本国憲法を確定し、民主的で文化的な国家を建設して、世界の平和と人類の福祉に貢献しようとする決意を示した。この理想の実現は根本において教育の力にまつべきものである。

われらは、個人の尊厳を重んじ、真理と平和を希求する人間の育成を期するとともに、①普遍的にしてしかも②個性ゆたかな文化の創造をめざす教育を普及徹底しなければならない。

ここに、日本国憲法の精神に則り、教育の目的を明示して、新しい日本の教育の基本を確立するため、③この法律を制定する。

[①神話を根拠に日本を「神国」として世界の諸国から区別し、「八紘一宇」つまり世界を日本の下に統一する特別の使命をもつ国だとの立場からの教育が強められていた ②戦前は、日本人ひとりひとりの個性を育てることではなく、民族としての自覚や共通性を身につけることに教育の目標がおかれていた ③教育基本法]





[A] 元号(年号) ※太字は重要な歴史事項として使用されているもの

元号	西 曆	元号	西 曆	元号	西 曆	元号	西 曆	元号	西 曆	元号	西 曆		
飛鳥時代		永祚	989～990	永万	1165～1166	応長	1311～1312			弘治	1555～1558		
大化	645～650	正暦	990～995	仁安	1166～1169	正和	1312～1317			永祿	1558～1570		
(白雉)	650～654	長徳	995～999	嘉応	1169～1171	文保	1317～1319			元亀	1570～1573		
(朱鳥)	686～701	長保	999～1004	承安	1171～1175	元応	1319～1321			安土・桃山時代			
大宝	701～704	寛弘	1004～1012	安元	1175～1177	元亨	1321～1324	天正		1573～1592			
慶雲	704～708	長和	1012～1017	治承	1177～1181	正中	1324～1326	文祿		1592～1596			
奈良時代		寛仁	1017～1021	養和	1181～1182	嘉暦	1326～1329	江戸時代					
和銅	708～715	治安	1021～1024	寿永	1182～1184	元徳	1329～1331	南北朝時代(北朝)		南北朝時代(南朝)	慶長	1596～1615	
霊亀	715～717	万寿	1024～1028	元暦	1184～1185	元徳	1329～1331				元弘	1331～1334	元和
養老	717～724	長元	1028～1037	文治	1185～1190	正慶	1332～1333	建武	1334～1336	寛永	1624～1644		
神亀	724～729	長暦	1037～1040	鎌倉時代		建武	1334～1336			建元	1336～1340	正保	1644～1648
天平	729～749	長久	1040～1044	建久	1190～1199	暦応	1338～1342			興国	1340～1346	慶安	1648～1652
天平感宝	749	寛徳	1044～1046	正治	1199～1201	康永	1342～1345			貞和	1345～1350	承応	1652～1655
天平勝宝	749～757	永承	1046～1053	建仁	1201～1204	貞和	1345～1350			観応	1350～1352	明暦	1655～1658
天平宝字	757～765	天喜	1053～1058	元久	1204～1206	文和	1352～1356			延文	1356～1361	万治	1658～1661
天平神護	765～767	康平	1058～1065	建永	1206～1207	康安	1361～1362			貞治	1362～1368	寛文	1661～1673
神護慶雲	767～770	治暦	1065～1069	承元	1207～1211	貞治	1362～1368			応安	1368～1375	延宝	1673～1681
宝亀	770～781	延久	1069～1074	建暦	1211～1213	文中	1372～1375			永和	1375～1379	天和	1681～1684
天応	781～782	承保	1074～1077	建保	1213～1219	康安	1361～1362			康暦	1379～1381	貞享	1684～1688
平安時代		承暦	1077～1081	承久	1219～1222	貞治	1362～1368	建徳	1370～1372	元禄	1688～1704		
延暦	782～806	永保	1081～1084	貞応	1222～1224	応安	1368～1375			文中	1372～1375	宝永	1704～1711
大同	806～810	応徳	1084～1087	元仁	1224～1225	永和	1375～1379			天授	1375～1381	正徳	1711～1716
弘仁	810～824	寛治	1087～1094	嘉禄	1225～1227	康暦	1379～1381			弘和	1381～1384	享保	1716～1736
天長	824～834	嘉保	1094～1096	安貞	1227～1229	永徳	1381～1384			元中	1384～1392	元文	1736～1741
承和	834～848	永長	1096～1097	寛喜	1229～1232	至徳	1384～1387			室町時代		寛保	1741～1744
嘉祥	848～851	承德	1097～1099	貞永	1232～1233	嘉慶	1387～1389					寛延	1748～1751
仁寿	851～854	康和	1099～1104	天福	1233～1234	康応	1389～1390					宝暦	1751～1764
斉衡	854～857	長治	1104～1106	文暦	1234～1235	明德	1390～1394					明和	1764～1772
天安	857～859	嘉承	1106～1108	嘉禎	1235～1238	室町時代						安永	1772～1781
貞観	859～877	天仁	1108～1110	暦仁	1238～1239	応永	1394～1428					天明	1781～1789
元慶	877～885	天永	1110～1113	延応	1239～1240	正長	1428～1429					寛政	1789～1801
仁和	885～889	永久	1113～1118	仁治	1240～1243	永享	1429～1441					享和	1801～1804
寛平	889～898	元永	1118～1120	寛元	1243～1247	嘉吉	1441～1444					文化	1804～1818
昌泰	898～901	保安	1120～1124	宝治	1247～1249	文安	1444～1449					文政	1818～1830
延喜	901～923	天治	1124～1126	建長	1249～1256	宝徳	1449～1452					天保	1830～1844
延長	923～931	大治	1126～1131	康元	1256～1257	享徳	1452～1455					弘化	1844～1848
承平	931～938	天承	1131～1132	正嘉	1257～1259	康正	1455～1457					嘉永	1848～1854
天慶	938～947	長承	1132～1135	正元	1259～1260	長祿	1457～1460	安政	1854～1860				
天暦	947～957	保延	1135～1141	文応	1260～1261	寛正	1460～1466	万延	1860～1861				
天徳	957～961	永治	1141～1142	弘長	1261～1264	文正	1466～1467	文久	1861～1864				
応和	961～964	康治	1142～1144	文永	1264～1275	応仁	1467～1469	元治	1864～1865				
康保	964～968	天養	1144～1145	建治	1275～1278	文明	1469～1487	慶応	1865～1868				
安和	968～970	久安	1145～1151	弘安	1278～1288	長享	1487～1489	近現代					
天禄	970～973	仁平	1151～1154	正応	1288～1293	延徳	1489～1492					明治	1868～1912
天延	973～976	久寿	1154～1156	永仁	1293～1299	明応	1492～1501					大正	1921～1926
貞元	976～978	保元	1156～1159	正安	1299～1302	文龜	1501～1504					昭和	1926～1989
天元	978～983	平治	1159～1160	乾元	1302～1303	永正	1504～1521					平成	1989～
永観	983～985	永暦	1160～1161	嘉元	1303～1306	大永	1521～1528	※一世一元の制 (1868～)					
寛和	985～987	応保	1161～1163	徳治	1306～1308	享祿	1528～1532						
永延	987～989	長寛	1163～1165	延慶	1308～1311	天文	1532～1555						

© (株)shidenkai 2017~

〔本テキストを著作権者の許諾なく無断複写・複製・転載・転売することは著作権法上での例外を除き禁じられています〕